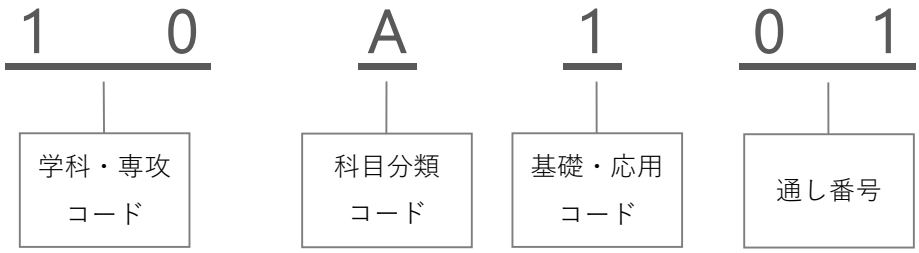
科目ナンバリングについて

科目ナンバリングとは、各授業科目に内容や履修レベル等に応じた番号やアルファベットを付けて分類することで、学習の段階や順序を表し、教育課程の体系性を示すものです。

本学のナンバリングは、次の６桁の数字とアルファベットで構成します。



※ナンバリングは、シラバスに記載されています。学習を進める際の参考にしてください。

◇　ナンバリングの構成　◇

科目の分類		履修レベル	
学科・専攻コード	科目分類コード	基礎・応用コード	通し番号
10　生活科学学科　教養科目	A　建学の精神 B　現代の教養 C　健康 D　コミュニケーションスキル	1　基礎科目 5　応用科目	01～
14　生活情報デザイン専攻	A　生活科学基盤科目 B　情報技術 C　マネジメント技法 D　デザイン表現 Z　総合科目		01～
20　幼児教育学科　教養科目	A　建学の精神 B　現代の教養 C　健康 D　コミュニケーションスキル		01～
21　幼児教育学科	A　本質・目的 B　対象の理解 C　内容・方法 D　表現力育成プログラム E　実習 Z　総合演習		01～

2025年度　生活情報デザイン専攻　開講科目

*がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■2回生　教養科目

人間と仏教Ⅱ・・CI委員長・・・・・・・ 1
社会活動実践・・・CI委員長他・・・・・・・ 3
行動と心理・・中尾　繁史・・・・・・・ 5
＊福井地域学・・南保　勝・・・・・・・ 7
芸術と文化・・重村　幹夫・・・・・・・ 9
日本の文化・・土井百合子・鈴木　晴子・・・・・・・ 11
スポーツ実技・・出村　友寛・・・・・・・ 13
中国語・・・章　璐・・・・・・・ 15

■2回生　専門科目

生活情報論・・田中　洋一・・・・・・・ 17
生活経営学・・澤崎　敏文・・・・・・・ 19
＊保育学・・・山下　清美・・・・・・・ 21
人間関係論・・清水　聡・・・・・・・ 24
情報活用演習Ⅱ・・・辻岡　和孝・・・・・・・ 26
情報システムⅠ・・・諏訪いずみ・・・・・・・ 28
情報システムⅡ・・・諏訪いずみ・・・・・・・ 30
データサイエンス演習・・・諏訪いずみ・・・・・・・ 32
プログラミングⅡ・・辻岡　和孝・・・・・・・ 34
プログラミングⅢ・・辻岡　和孝・・・・・・・ 36
＊マルチメディア演習Ⅱ・・吉村　正照・・・・・・・ 38
＊Web制作演習Ⅰ・・吉村　正照・・・・・・・ 40
＊Web制作演習Ⅱ・・中谷　蓉織・・・・・・・ 42
＊ビジネス実務演習Ⅰ・・・澤崎　敏文・・・・・・・ 44
ビジネス実務演習Ⅱ・・野本　尚美・・・・・・・ 46
＊フードビジネス・・木内　貴子・・・・・・・ 48
＊地域ビジネス論・・高原　裕一・・・・・・・ 50
ビジネス法務・・大西　新吾・・・・・・・ 52
秘書実務演習・・野本　尚美・・・・・・・ 54
ビジネスイングリッシュ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ジョンソン　ケイシー　デューン・・・・・・・ 56
簿記演習・・大西　新吾・・・・・・・ 58
会計情報論・・・大西　新吾・・・・・・・ 61
コミュニティデザイン論・・内山　秀樹・・・・・・・ 63
プロジェクト演習・・・前田　博子・・・・・・・ 65
＊グラフィックデザインⅢ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・西畑　敏秀・・・・・・・ 67
＊広告コミュニケーションデザイン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・西畑　敏秀・・・・・・・ 70
インテリアデザインⅡ・・・辻野　由美・・・・・・・ 73
インテリアデザイン演習・・辻野　由美・・・・・・・ 75
テキスタルデザイン・・前田　博子・・・・・・・ 77
＊クラフトデザイン・・古木　晶子・・・・・・・ 79
インターンシップ・・野本　尚美他・・・・・・・ 82
専門演習・・野本　尚美他・・・・・・・ 84
卒業研究・・・田中　洋一・・・・・・・ 86

2025年度　幼児教育学科　開講科目

＊がついている科目は実務経験のある教員による授業科目です。

■2回生　教養科目

人間と仏教Ⅱ・・・CI委員長・・・・・・・ 88
社会活動実践・・CI委員長他・・・・・・・ 90
人間と文学・・・前田　敬子・・・・・・・ 92
＊福井地域学・・南保　勝・・・・・・・ 94
芸術と文化・・重村　幹夫・・・・・・・ 96
運動と健康・・内田　雄・・・・・・・ 98
スポーツ実技・・・内田　雄・・・・・・・ 100
英語会話・・・野本　尚美・・・・・・・ 102

■2回生　専門科目

保育原理・・・石川　昭義・・・・・・・ 104
教育社会学・・増田　翼・・・・・・・ 106
＊子育て支援・・長谷川　清美・・・・・・・ 109
＊社会的養護Ⅱ・・・霜　大輝・・・・・・・ 112
教職論・・・増田　翼・・・・・・・ 115
＊子ども家庭支援の心理学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・千崎　愛・・・・・・・ 118
＊子ども理解の理論と援助方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中尾　繁史・・・・・・・ 120
＊子ども家庭支援と教育相談・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中尾　繁史・・・・・・・ 122
＊子どもの保健・・齋藤　正一・・・・・・・ 125
＊子どもの食と栄養Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・木内　貴子・・・・・・・ 128
＊保育内容総論・・川崎　恵理・・・・・・・ 130
うたと伴奏Ⅰ・・・木下　由香・・・・・・・ 132
うたと伴奏Ⅱ・・・木下　由香・・・・・・・ 134
＊乳児の生活とあそび・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・川崎恵理・長谷川清美・坂本流美・・・・・・・ 136
＊障害児保育と特別支援Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中尾　繁史・・・・・・・ 139
＊障害児保育と特別支援Ⅱ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・内田　彰夫・・・・・・・ 141
保育の専門性・・・増田　翼・・・・・・・ 145
ふくいの保育・・・香月　拓・・・・・・・ 147
＊レクリエーションⅠ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大久保郁子・・・・・・・ 149
＊レクリエーションⅡ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・大久保郁子・・・・・・・ 151
＊教育実習Ⅰ・・・川崎　恵理・・・・・・・ 153
＊教育実習Ⅱ・・・川崎恵理・中里弘穂・・・・・・・ 155
＊保育実習Ⅰ・・・石川昭義・中尾繁史・・・・・・・ 157
＊保育実習指導Ⅰ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・石川昭義・山下清美・中尾繁史・・・・・・・ 159
保育実習Ⅱ・・・木下　由香・・・・・・・ 161
保育実習指導Ⅱ・・・木下　由香・・・・・・・ 163
保育実習Ⅲ・・中尾繁史・増田翼・・・・・・・ 165
保育実習指導Ⅲ・・・増田　翼・・・・・・・ 167
保育・教職実践演習（幼稚園）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・重村　幹夫他・・・・・・・ 169
保育総合ゼミナール・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・石川　昭義他・・・・・・・ 171

■2回生　資格取得に関する科目

子どもと絵本・・・木下由香・前田敬子・・・・・・・ 173
保育心理実習・・中尾　繁史・・・・・・・ 175
＊保育心理実習指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・中尾　繁史・・・・・・・ 177

講義科目名称：　人間と仏教Ⅱ　　授業コード：1420101　1620101

英文科目名称：　BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	ＤＰ１	20
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	ＤＰ７	20
	目標③「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	ＤＰ９	30
	目標④自らを振り返る態度を身につける。	ＤＰ８	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　2年後の理想像と1年次前期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』記入
	2	4月　降誕会	感想シート提出 スーツを着用し、学章、念珠持参で参加
	3・4	5月　開学記念	第1回レポート提出
	5	5月　理事長講義	レポート提出
	6	9月　1年次前期の自己評価と後期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』記入
	7	11月　成道会	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章、念珠持参で参加
	8	1月　讃仰会（追弔会）	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章、念珠持参で参加
	9	先輩に学ぶ【オンデマンド】	感想シート提出
	10	２年次 4月 1年次後期の自己評価と2年次前期の目標設定	『充実した学生生活を送るために』の記入
	11	２年次 4月　降誕会	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章、念珠持参で参加
	12・13	5月　開学60周年記念	※詳細は後日連絡
	14	9月　2年次前期の自己評価と後期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	15	11月　成道会	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章、念珠持参で参加
	16	12月　讃仰会（追弔会）／振り返りテスト	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章、念珠持参で参加

	17	1月　同輩に学ぶ・2年間の自己評価【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。そのため、毎回60分程度の事前事後学習が必要。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』2017（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『和』2022（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（10%）振り返りテスト（10%） 目標②第2回レポート（5%）振り返りテスト（5%） 目標②第2回レポート（5%）振り返りテスト（5%） 目標④感想シート、『充実した学生生活を送るために』（30%） 目標⑤感想シート、『充実した学生生活を送るために』（30%）
受講上の注意	AHは式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード：1420201　1620201

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長・総合学務センター次長			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	ＤＰ10	50
	目標②活動を通して感じたことをレポートすることができる。	ＤＰ７	50
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 　本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に学び支援課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。	所定の用紙は学び支援課で受け取ること。
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	ボランティア終了後60分程度、習得した内容等の振り返りが必要。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	使用しない
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①②レポート（100%）
受講上の注意	

教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 行動と心理　　授業コード： 1420301

英文科目名称： Behavioral Psychology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		講義	ナンバリング：10B501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、人の行動とその心理を理解することである。 人が行動するとき、そこには何らかの理由がある。その理由を考えるため、「心身の発達」「認知(知覚・記憶・学習・思考)」「動機づけ(学習意欲)」「その人らしさ(性格・知能)」「対人関係」「心の病気」について学ぶ。また、心理テストを実施し、自分を知るとともにレポート作成を通じて自己を客観視する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①心理学の諸分野における基本的事項について理解する。	ＤＰ１	40
	目標②様々な問題について、心理学的解釈のもとに問題解決のための論理的思考ができる。	ＤＰ５	20
	目標③生活上の課題について、心理学がどのように応用できるか述べられる。	ＤＰ６	20
	目標④様々な問題について、心理学的解釈を通して問題の所在を理解する。	ＤＰ５	10
	目標⑤人間の思考プロセスについて理解し、社会や文化の多様性について省察できる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1章　心理学とは	授業の進め方、取組み方・成績評価について説明する。
	2	2章　胎児期・乳幼児期の心理	
	3	3章　児童期・青年期の心理	心理テスト実施①
	4	4章　成人期・老年期の心理	
	5	5章　感覚・知覚	心理テスト実施②
	6	6章　学習と記憶	
	7	7章　思考と言語	
	8	中間試験と中間まとめ	1章～７章までの中間試験を実施する。
	9	8章　動機づけと学習意欲	心理テスト実施③
	10	9章　性格	
	11	10章　知能	心理テスト実施④
	12	11章　対人認知	
	13	12章　社会的影響	心理テスト実施⑤
	14	13章　ストレスと心の病気	
	15	14章　カウンセリングと心理療法	

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習：講義毎に、2時間程度の事後学習として講義内容を復習すること。 予習：次回の講義内容に関連する新聞記事等を参照し、自分が興味を持ったテーマについて心理学的解釈を行うこと(1時間程度)。
教科書	使用しない。授業時に資料をLMSを活用して配布する。

参考図書、教材、準備物等	参考図書については講義中に紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	疑問点は講義中に質問することが望ましい。 計5回の心理テストのレポートにはコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①心理テストのレポート10%、中間試験20%、期末試験10% 目標②心理テストのレポート10%、期末試験10% 目標③心理テストのレポート10%、期末試験10% 目標④心理テストのレポート10% 目標⑤心理テストのレポート10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 福井地域学　　授業コード： 1420401

英文科目名称： Science of Fukui area

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
南保　勝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		講義	ナンバリング：10B503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、地域経済を歴史的・文化的視点から考察し、社会人としての教養を磨くとともに、地域のあるべき姿を考えることである。 そのために、以下３つの視点を学ぶ。 １．福井県はどのように成立し、近世、明治期の福井県にはどのような産業が栄えたか（過去）。 ２．そして現在、福井県の経済、それを支える産業・企業・地域人のすごさとは（現在）。 ３．その上で、今後求められる地域のあるべき姿、地方創生を考える（未来）。 テキストをベースに、授業計画に沿って進める。各講義の終わりに当日の講義の復習も兼ねた「演習」に取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①地域経済を歴史的・文化視点で考察できる。	ＤＰ１	30
	目標②地域の産業・企業・県民生活等、地域経済の特徴が説明できる。	ＤＰ３	15
	目標③地域経済・産業・企業等の未来について述べることができる。	ＤＰ５	15
	目標④地域活性化の方向性を示すことができる。	ＤＰ６	30
	目標⑤地域の課題に対し自己の主張が述べられる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス。福井県はどのように成立したか。	「継体天皇」と「越国」、近世・幕末へ、福井県の誕生について
	2	近世、明治期における福井県の産業	日本屈指の工業地域、和釘の生産では日本最大
	3	福井県経済の今（その1）	地域の経済規模、人口、産業
	4	福井県経済の今（その2）	労働、県民性、歴史から生まれたライフスタイル
	5	歴史で辿る市まちの姿（その1）	あわら市、坂井市、福井市、大野市、勝山市
	6	歴史で辿る市まちの姿（その2）	鯖江市、越前市、敦賀市、小浜市
	7	製造業（その1）	繊維産業、めがね産業
	8	製造業（その2）	化学、機械・金属、伝統的工芸品産業
	9	非製造業	商業・サービス業、建設業、転換期の原子力産業
	10	地域企業の特徴（その1）	意外と多い長寿企業
	11	地域企業の特徴（その2）	外発型企業群、小規模企業の技術水準の高さ
	12	地方創生に向けて（その1）	地方創生とはいったいどうゆう意味か
	13	地方創生に向けて（その2）	地方創生に向けて、官民が成すべきこととは
	14	総括（その1）	1回目講義～6回目講義までの復習
	15	総括（その2）	7回目講義～13回目講義までの復習
定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		

準備学習に必要な時間	毎回の授業に合わせて、教科書の該当箇所を事前学習しておくこと（3時間程度）
教科書	南保勝著「地域再生の未来像」[2023.3]晃洋書房
参考図書、教材、準備物等	南保勝著「福井地域学」[2016.3]晃洋書房
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業への取り組み方については、1回目のガイダンスで説明します。授業終了前に実施する演習は、評価の対象とするため真面目に取り組み提出すること。試験等は、評価後にフィードバックする。疑問点、質問などは、Eメール(nambo@fpu.ac.jp)、Moodleメッセージで連絡ください。
評価の配点比率	目標①　筆記試験出題数50問のうち30% 目標②　筆記試験出題数50問のうち15% 目標③　筆記試験出題数50問のうち15% 目標④　筆記試験出題数50問のうち30% 目標⑤　授業終了後毎回実施する演習10%
受講上の注意	本講義を通して福井県の地域特性を少しでも理解し、社会人として活かしてほしい。
教員の実務経験	地方銀行及びそのシンクタンクで学んだ実践的な経済学、経営学を活かして、福井地域学という領域学を確立したが、その福井地域学でまとめた地域の歴史、文化、伝統、産業、暮らしなど地方創生にも関連する必要知識を教示し、地域愛を育てる。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 芸術と文化　　授業コード：1420501　1420502

英文科目名称： Art and Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
重村　幹夫			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		講義	ナンバリング：10B104
添付ファイル			

授業の概要	西洋の15世紀から20世紀までの美術史上重要な絵画を、同一主題（宗教的、世俗的）や同一画家の生涯における変遷などで比較したり、VTS(視覚方略）の手法で観察して、様式の変化等の意見を出し合う。 その後、個別の芸術家の生涯や、文化的、歴史的背景、造形性、技法等多様な観点から、理解のためのキーワードによるワークシートを用い調べ発表することで、作品を深く理解するとともに、様々な表現に対して自分なりの考えを持つことが出来る様にする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①造形性を中心とした、多様な観点から作品を鑑賞することが出来る。	ＤＰ１	40
	目標②他人の意見を参考にしながら、自分の意見を述べることが出来る。	ＤＰ５	20
	目標③グループで協働して作品について研究・発表することが出来る。	ＤＰ９	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第1回	オリエンテーション、今後の調査画家の概要を同一主題（宗教的、世俗的）等で比較する	学習内容の概要、配点、留意事項 VTSによる導入と研究発表例示
	第2回	ファン・アイク　即物的な迫真性と象徴	発表後ワークシートへ記入する
	第3回	ボッティチェルリ　装飾性と時間表現	発表後ワークシートへ記入する
	第4回	ベラスケス　筆触と空間表現	発表後ワークシートへ記入する
	第5回	レンブラント　経年変化とマチエール、内容表現の深化	映画「レンブラントは誰の手に」を視聴してその評価を知る 発表後ワークシートへ記入する
	第6回	フェルメール　光の表現と暗箱	映画「真珠の耳飾りの少女」カメラオブスクラの制作 発表後ワークシートへ記入する
	第7回	ゴヤ　宮廷画家と黒い絵	発表後ワークシートへ記入する
	第8回	クールベ　社会派リアリズム	発表後ワークシートへ記入する
	第9回	マネ　絵画の平面性	発表後ワークシートへ記入する
	第10回	モネ　印象派	発表後ワークシートへ記入する
	第11回	ゴッホ　筆触や色彩による内面表現	発表後ワークシートへ記入する
	第12回	マティス　色彩と平面性	発表後ワークシートへ記入する
	第13回	ピカソ　キュビズム	発表後ワークシートへ記入する
	第14回	カンディンスキー　抽象絵画	発表後ワークシートへ記入する
	第15回	ポップアート　日常のリアリティー	発表後ワークシートへ記入する
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 毎回、授業終了後にワークシートを提出する。		

準備学習に必要な時間	事前、事後学習として毎回1時間程度かけて作成したワークシートを提出する。
教科書	カラー版 名画を見る眼　新書　1、2巻　岩波書店 高階秀爾（著）
参考図書、教材、準備物等	どこからそう思う？学力をのばす美術鑑賞　淡交社　フィリップ・ヤノウィン著
課題（試験・レポート等）のフィードバック	ワークシートは毎回チェックする。
評価の配点比率	目標①40％、目標②20％、目標③40％
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　日本の文化　　授業コード：1420601

英文科目名称：　Japanese Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	２年次	２単位	選択
担当教員			
土井　百合子・鈴木　晴子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		講義	ナンバリング：10B502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、日本の伝統文化を理解、体験習得し、実社会でも生かせる文化力を身につけることである。 伝統文化の、茶道、華道、着付けの歴史や価値に関する総合的な講義を受けて、それぞれ実技体験をすることによって、改めてその魅力に気づく。 茶道・華道は土井が、着付けは鈴木が担当します。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①伝統的な技・精神・礼節を身につけることで、生活をより豊かにするばかりでなく、日本の美に対する感性を磨く。	ＤＰ１	22
	目標②感性豊かな人格を形成しながら、他者をもてなす心、方法を知って、思いやりのあるある人間関係を構築する。	ＤＰ８	20
	目標③日本の豊かな自然に気づき、それを生活の中で生かすことに感謝する。	ＤＰ10	20
	目標④伝統美の美しさと、自らの自由な発想からくる創造の美の喜びを知る。	ＤＰ１	10
	目標⑤着物を通して、日本の伝統文化を女性として楽しむことができる。	ＤＰ９	28
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	茶道、華道とも、パンフレット配布、スライド、ビデオ等利用しての講義	茶道・華道（土井担当） 次回からの準備等説明。 講義内容の短いレポート提出。
	2	茶道実技パート１　道具の説明、到達点の見本点前「盆略点前」見学　　基本動作のお稽古	茶道（土井担当） 必要な茶道具はすべて学校が準備します。
	3	茶道実技パート２　引き続き「盆略点前」実習お菓子と、自分で点てたお抹茶味わう	茶道（土井担当） 簡単な感想文提出。 家で、真四角のハンカチ等使って、ふくさ捌きの練習してみよう。
	4	茶道実技パート３　引き続き「盆略点前」実習	茶道（土井担当）
	5	茶道実技パート３　引き続き「盆略点前」復習の後，２グループに分かれてお茶会をする	茶道（土井担当） 茶道の実習に関してのクイズ形式レポート提出。
	6	華道実技パート１　自由花の成り立ち、基本といけ方の解説の後、作品制作	華道（土井担当） 1回目の講義に使ったパンフレット持参
	7	華道実技パート２　自由花作品完成　　一人ひとり講師のアドバイス手直し等受ける	華道（土井担当） 自分の作品と、いくつかの見本写真の気に入ったものを選んでスケッチし、提出。 色鉛筆等持参
	8	華道実技パート２　生花の成り立ち、基本といけ方の解説の後、作品制作	華道（土井担当） 1回目の講義に使ったパンフレット持参
	9	華道実技パート２　生花作品完成　　一人ひとり講師のアドバイス手直し等受ける	華道（土井担当） 自分の作品と、いくつかの見本写真の気に入ったものを選んでスケッチし、提出。色鉛筆等持参

			「日本の文化」の茶道・華道に関するクイズ形式のレポート提出。
	10	ライフスタイルと着物（季節と着物・家紋・格付、着物の種類）	着物の知識（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	11	浴衣と半巾帯・着方（きもの各名称、小物の準備）	着付け（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	12	浴衣と半巾帯・着方（きもの、帯、たたみ方）	着付け（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	13	浴衣と半巾帯・着方（きもの、帯、たたみ方）	着付け（鈴木担当） 自宅でも浴衣の着付けやたたみ方を練習しましょう。
	14	浴衣と半巾帯・着方（立ち姿・歩き方・礼） ﾄｰｸに合わせ実技査定 着物の知識　筆記テスト	着付け（鈴木担当） 鏡を見ずに浴衣と半幅帯の着方、浴衣と帯のたたみ方、所作の実技査定 着物の知識　筆記テスト
	15	振袖・帯結び・着物の所作・きものメイク	講義（鈴木担当） 振袖の知識、所作、和装メイク
定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	茶道・華道：毎回３時間程動作の確認をする。		
教科書	着付教本（山野流）、メイク教本（必要な資料を配布）		
参考図書、教材、準備物等	「初めての茶道　学校茶道初級編」（一般財団法人今日庵）、 千宗室「裏千家茶道教科（1）～（4）」（淡交社刊行2011）、 「はじめる生け花　学校華道」（日本華道社）、 笹島寿美「はじめての着付けと帯結び」（株式会社ナツメ2007）、 池坊専永「なぜ、花をいけるの」（財団法人池坊華道会2010）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート等の課題は後期ガイダンスにて返却する。 着付けの実習時は、タンクトップと半パンツ（又は、和装肌着）を着て、髪はまとめておく。 茶道の実習時にはソックス持参、かつあまり窮屈ではない服装で。		
評価の配点比率	目標①レポート10％（茶道5％・華道5％）、筆記試験（着付け）12％ 目標②レポート20％（茶道10％・華道10％） 目標③レポート20％（茶道10％・華道10％） 目標④レポート10％（茶道5％・華道5％） 目標⑤実技テスト（着付け）28％		
受講上の注意	本科目は、日本文化としての茶道、華道、着付けの概念を一方的に講義することではなく、その素晴らしさを実技を通して知ることである。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： スポーツ実技(生活科学学科)　　授業コード：1420701　1420702　1620501

英文科目名称： Sports Practical Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
出村　友寛			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		実技	ナンバリング：10C102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、体力とスポーツの知識、技術、マナーを身につけることである。 そのために、各種スポーツを実践する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標① 積極的に各種スポーツに参加し、他者と共に体力の維持、増進に取り組むことができる。	ＤＰ８	40
	目標② 各種スポーツの技術を理解し、身につけることができる。	ＤＰ１	20
	目標③ 各種スポーツの知識を理解し、身につけることができる。	ＤＰ１	20
	目標④ スポーツの多様性を理解し、生涯にわたる関わり方を考えることができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション・キンボール①基本技術（キャッチ、パス）	
	2	キンボール②基本技術（セット、ヒット）	
	3	キンボール③ゲーム	
	4	トランポリン①ストレート･バウンズ	膝保護のため、長パンを推奨
	5	トランポリン②ストレート･バウンズの発展技	
	6	トランポリン③ニー・ドロップ･バウンズ	
	7	トランポリン④シート･ドロップ･バウンズ	
	8	トランポリン⑤連続技	
	9	トランポリン⑥実技試験の構成と練習	
	10	トランポリン⑦実技試験とまとめ	実技試験①
	11	バレーボール①基本技術（パス、トス、サーブ）主に1対1	
	12	バレーボール②基本技術（スパイク）主に1対1	
	13	バレーボール③基本技術および連携プレー	
	14	バレーボール④実技試験	
	15	バレーボール⑤ゲーム	実技試験②
	16	バスケットボール①基本技術（ボールハンドリング、ドリブル）	
	17	バスケットボール②基本技術（パス）	
	18	バスケットボール③基本技術（フリースロー）	
	19	バスケットボール④基本技術（レイアップシュート）	
	20	バスケットボール⑤ゲーム	実技試験③
	21	フットサル①基本技術（パス、ドリブル）	レポート課題の提示

	22	フットサル②基本技術（シュート）	
	23	フットサル③ゲーム	
	24		後期前半にあたる開講23回で授業は終了
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	体調を整えて授業に臨んでください。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	資　料：資料は掲示・板書によって提示する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で出席すること。運動に適した服装、靴が必要です。 レポートは、評価後にフィードバックする。 成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（tomodemu@jindai.ac.jp）で連絡してください。		
評価の配点比率	目標①、②実技試験60% 目標③、④レポート40%		
受講上の注意	運動禁忌等がある場合は、事前に申し出てください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 中国語　　授業コード：1420801　1420802

英文科目名称： Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
章　璐			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻教養科目		演習	ナンバリング：10D501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、中国語の基礎を身につけ、中国語で「基本的な事項の確認や自分の意思を伝えるレベル」に到達することである。 そのため、まず発音と文法の基礎を学べ、次に聞く、話すことに重点において学習する。ペア、グループなどの練習方式を採用する。「話す、聞く、読む、書く」四つ技能の総合的な学習を進め、中国語の映像を見たり、中国の事情を紹介することを通して、中国語に親しみを感じ、中国の文化を理解する。終了時点に中国語検定準4級の実力を目指す。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①中国語の表記法、文字、発音、文法の基礎を習得する。	ＤＰ１	50
	目標②中国語でその場に応じる挨拶の表現と意思表示ができる。	ＤＰ７	10
	目標③ペア、グループなどの練習方式で、テーマごとで自由に会話ができる。	ＤＰ７	30
	目標④中国語を学ぶことで、多様な文化をふれ視野を広げることができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、映像教育、中国の国土、民族など、中国語の表記法、文字、普通話、方言などを紹介する。	(事後)　「中国に関する質問」のプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	2	中国語の発音。母音、子音、声調(四声)の習得。（ペアワーク）	(事後)　自分の名前、故郷、国名を練習し、次週中国語で発表する。（１時間）
	3	発音の注意事項。100までの数字を言える、聞き取れること。（ペアワーク）	(事後)　数字の練習プリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	4	人称代詞。是非を問うことに対し、正しいのか、違うのか、わからないのかを答えられる。（ペアワーク）	(事後)　中国語を翻訳するプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	5	中国語の基本語順。簡単な自己紹介ができる。（ペアワーク）	(事前)　自己紹介することばを収集すること。（１時間）
	6	疑問詞疑問文。行先や場所の説明ができる。（ペアワーク）	(事前)　《場所単語集》の発音を予習すること。（１時間）
	7	連動文。自分の好みを言えること、趣味を簡単に紹介することができる。（ペアワーク）	(事前)　《食べ物、スポーツ単語集》の発音を予習すること。（１時間）
	8	形容詞述語文。友達と一緒に外出の誘い言葉が言える。（ペアワーク）	(事後)　「スターバックスに行きませんか」の会話作成、次週に提出すること。（１時間）
	9	存在を表わす表現。家族を紹介することができる。（ペアワーク）	(事後)　家族構成の読み方を練習し、次週テストする。（１時間）
	10	名詞述語文。買い物に値段を聞くことができる。（ペアワーク）	(事後)　「中国で買い物する」のプリントを配る、次週に提出すること。（１時間）
	11	比較文。年齢の言い方、日本と中国の違う所が言える。（ペアワーク）	(事前)　日本と中国の異同点を収集すること。（１時間）
	12	反復疑問文。アルバイトについて紹介することができる。（ペアワーク）	(事前)　職種のことばを収集すること。（１時間）
	13	完了及び否定文。自分の行動、目的を説明することができる。（ペアワーク）	(事後)　《私の週末》を題する作文、次週に提出すること。（１時間）
	14	助動詞。銀行で貯金、両替することができある。（ペアワーク）	(事前)　《銀行用語》の発音を予習すること。（１時間）

	15	中国語映画を鑑賞した後、振り返ることができる。（ペアワーク）	(事後)　《総まとめ単語集》を配る、定期試験を準備する。（１時間）
定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	30分程度の事前予習としてことばを収集すること。事後学習はレポートを作成するのため、30分程度の時間が必要です。		
教科書	無し		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『中国語学習ハンドブック』相原茂編著 大修館書店 最新刊 辞　書：杉本達夫他『デイリーコンサイス中日・日中辞典』三省堂 　相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社 最新版　DVD&CD付		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	一般に「中国語＝漢字」というイメージがありますが、言語は第一義的に音ですので視覚的に理解するのではなく、中国語の音を聞いて理解するように心掛けてください。　授業中は大きな声を出すよう心掛けてください。レポート等は、評価後にフィードバックします。		
評価の配点比率	目標①定期試験４０％、事前事後の宿題を提出する１０％（１＊１０回）。　目標②授業中のミニテスト１０％（１＊１０回）。　目標③授業中の定められたテーマの会話発表３０％(３＊１０回）。　目標④中国語のことばや習慣比べの情報収集するレポート１０％（５＊２回）。		
受講上の注意			
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 生活情報論　　授業コード： 1424101

英文科目名称： Human Life and Information

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
田中　洋一			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)		講義	ナンバリング：14A105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、生活の中における情報について見つめ直すことである。 そのため、毎回異なるテーマのグループワークを通して、いろいろなメディアとコミュニケーションに関して学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①生活情報の倫理的・法的・社会的課題を説明できる	ＤＰ２	30
	目標②多面的かつ順序立てて、モノゴトを考えることができる	ＤＰ５	30
	目標③社会問題を自分ごと化して適切な判断ができる	ＤＰ６	30
	目標④自分の疑問や意見を主体的に発言できる	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	生活情報論とは	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	2	情報の集め方	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	3	フェイクニュースとは	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	4	生成AIの使い方	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	5	自分と似た意見に囲まれている理由	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	6	アフォーダンスとデザイン	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	7	障がい理解とユニバーサルデザイン	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	8	LGBTQ＋とは	グループワークを行い、事後学習としてミニレポートを仁短Moodleへ提出する。
	9	学生が考えたテーマによるチーム分け	グループで興味・関心マップ及びプロブレムマップを作成し、事後学習として２つのマップをteamsへ提出する。
	10	チームごとの課題発見	調べ学習をして発表するタイトルの確定、個別学習の担当決め。事後学習として、個別学習シートをteamsへ提出する。
	11	チームごとの課題解決	個別学習の共有、発表の設計
	12	発表スライドの作成＆リハーサル	発表スライド及び原稿の完成、リハーサル。事後学習として、teamsへ発表スライドを提出する。
	13	グループ発表＆相互評価①	グループ発表及び質疑応答、相互評価を入力する。
	14	グループ発表＆相互評価②	グループ発表及び質疑応答、相互評価を入力する。
	15	振り返り	この授業14回を振り返り、自分にとっての生活情報論を考える。事後学習として、最終レポートを仁短Moodleへ提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 試験に代わって、全講義終了後、振り返りまとめを提出する。
準備学習に必要な時間	毎回３時間程度の予習・復習が必要です。詳細は、仁短Moodle上に示します。
教科書	適宜、必要な資料を配付する。
参考図書、教材、準備物等	BYOD用のノートPCやスマートフォンを持参する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	仁短Moodleを用いて、課題に関するフィードバックを行う。質問等がある場合は、研究室前に掲示してあるオフィスアワーを利用するか、電子メールやMoodleメッセージで連絡すること。
評価の配点比率	目標①ミニレポート５％×６回（３～８回目） 目標②ミニレポート５％×２回（１・２回目）、個別学習10%、振り返りまとめ10% 目標③興味関心マップ５％、プロブレムマップ５％、グループ発表５％、最終レポート15% 目標④主体的な発言10%
受講上の注意	授業の取り組み方に関しては1回目のガイダンスで説明しますが、基本的に隣席の学習者とのペアワーク及びグループワークで進行します。本科目は、教員が知識・技能を教えるのではなく、学習者がペア及びチームで主体的に学ぶことをめざしています。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 生活経営学　　授業コード： 1421101

英文科目名称： Family Resource Manageement

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)		講義	ナンバリング：14A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、自立した消費者として、安心・安全で豊かな消費生活を営むことができる知識と技能を身につけることである。 私たちは、現在、自分以外の人が作ったモノ、あるいは自分以外の人が提供してくれるサービスを消費することなくして生活することはできない。よりよい消費は生活の質を確保する一つの手段である。しかしながら消費に関する問題は後をたたない。現代の消費の問題を把握するとともに、具体的な消費の問題を考えることを通じて消費のトラブルを未然に防止する方法を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①　私たちの生活の中での消費の意義や重要性を主体的に考えることができる。	ＤＰ８	10
	目標②　消費者として商品やサービスの選択と購入を誤りなく計画的に実行することができる。	ＤＰ６	30
	目標③　現実の消費者問題を把握し，その問題の起きる背景を科学的に理解できる。	ＤＰ１	30
	目標④　問題の当事者になった際に，他に対して問題の内容を説明でき，制度的な手続きも含め，有効な対応策をとることができる。	ＤＰ５	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、生活経営についての概論	社会生活における「経営」の考え方について議論します。
	2	ファイナンシャルプランニング１ （目標） ・金融の仕組み、預金と投資の違い等に関して基礎的な知識を習得します。 ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 （内容） ・銀行の仕組み、会社・株式の仕組みについて ・日経平均などの指標について ・投資シミュレーションをしてみよう！	事前学習：日経新聞から事前に日経平均株価について調べておくこと 事後学習：株式のポートフォリオシミュレーションを提出すること（Moodle上）
	3	ファイナンシャルプランニング２ ・会社の仕組み、株式の仕組みなどについて基礎的な知識を習得します。 ・上場企業、非上場企業の違い、株式市場などについて基礎的知識を習得します。 ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について。	・会社・株式の仕組みについて、上場企業・非上場企業のメリット、デメリット ・日経平均などの指標について、投資信託と分散投資の意味 ・日経２２５の会社から自分のポートフォリオを組み立て 事後課題：実際の日経２２５企業からポートフォリオを作成します。
	4	ファイナンシャルプランニング３ ・投資信託、分散投資などの基礎的知識について知る。 ・前回作成したポートフォリオに評価します。	事前学習：前回作成したポートフォリオについて、発表できる資料等を準備すること。
	5	ファイナンシャルプランニング４ ・投資信託と分散投資について、実際の商品などを見比べてレビューします。	事前学習：証券会社のホームページ等で投資信託について事前に調査、理解してくること。

	6	契約概論 ・契約の基本的な考え方 ・債権と債務の関係 ・民法の基本	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。 事後課題：授業に関する確認問題の実施
	7	契約概論２ ・民法に関する知識の復習（総則、債権） ・民法に関する知識（物権、家族法）	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。 事後課題：授業に関する確認問題の実施
	8	契約概論３ ・民法に関する知識の復習（物権） ・民法に関する知識（家族法と家族関係、相続関係）	事前学習：民法典（eGov：政府公式法律データベース）の構成について事前に調査、理解してくること。 事後課題：授業に関する確認問題の実施
	9	契約と消費生活 ・消費生活に必要な知識 ・クーリングオフ制度 ・製造物責任について（PL法と消費者保護） ・インターネット上での契約、スマホなどのアプリでの契約	演習：LINEなどのアプリの利用規約（契約書）を読んでみよう！ 事前学習：SNS等無料で利用しているアプリ等の法律関係がどうなっているか調査、理解してくること。 事後課題：授業に関する確認問題の実施
	10	契約と消費生活２ ・ローンについて ・クレジットカードの仕組みと注意点 ・電子マネーの仕組み	事前課題：福井銀行、福邦銀行のホームページからローン等に関する内容を確認、金利等について調査、理解してくること。 事後課題：授業に関する確認問題の実施
	11	契約と消費生活３ 保険に関する基本的なお話	事前学習：保険に関する状況調査を実施してくること（Moodle上） 事後課題：授業に関する確認問題の実施
	12	消費生活に関する確認テスト	これまで学んできた知識の確認テストを実施します。成績に占める配点も大きいので、しっかりと事前学習してテストに臨んでください。
	13	ファイナンシャルプラン演習	第３週目に作成した株のポートフォリオを最新にしよう！！ 事後課題：ポートフォリオの修正版の提出
	14	ファイナンシャルプラン演習２	ライフプラン（人生設計）を作成します。全国銀行協会の「シミュレーション」を使い、自分たちが考える最適なライフプランを作成して、レポートとして提出してください。 事後課題：ライフプラン課題（レポート）の提出
	15	株ポートフォリオ、ライフプランの考察 まとめ	これまで学んだ知識の再確認 最終レポートについての準備を行います。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、２時間程度の事前・事後学習が必要。毎回の授業主題に関係する参考図書や資料は事前に授業中に示すので，授業を受ける前に参照してくることが有用である。また授業中に必要な資料を配付するので，当該授業のノートを事後に整理する際にあわせて整理していくことが授業内容の習得のために重要である。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	資　料：Moodle等を利用して必要な教材、資料は配布する予定。 参考図書：授業の中で紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	本講義は，自分の生活に密着した事象を題材に講義を行うものなので、受講生には、ニュースソースの記事を調査したり、消費生活センターを訪ねたり（ネット調査を含む）するなど、積極的に自己学習を行うことを期待する。レポート等は、評価後にフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　ミニテストや課題提出　10% 目標②　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標③　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10% 目標④　ミニテストや課題提出　20%，最終レポート　10%
受講上の注意	毎回、授業中にミニテストを実施します。これらミニテストの実施も全て評価となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育学　　授業コード： 1421201　1421202

英文科目名称： Childcare Studies

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
山下　清美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)		講義	ナンバリング：14A503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会や家庭生活における保育を学ぶことである。 家庭科の教員や保育者といった専門職をめざすのではなく、一般の学生を対象にしている。 自分自身が育ってきた過程や子ども時代を振り返りながら、子どもの発達段階、子育ての方法や環境、社会のシステムなど保育に関わる基本的な知識を身につけ、子どもが育つこと、子どもを育てること、自分が育つこと等を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①０歳から６歳の子どもの発達を学びながら、 発達段階に合った子どもの接し方や育て方を知り、実践出来るようになる。	ＤＰ１	20
	目標②子どもに語りかけることや、年齢に適したふれあい遊びや絵本等を知り、自分なりに実践出来るようになる。 （古来の伝統行事や歌、手遊び、手作りおもちゃ等を含む。）	ＤＰ１	20
	目標③人の話を聞く、自分なりに考える、自分の考えを話す等、他者とのコミュニケーション能力を身につける。	ＤＰ７	10
	目標④子どもの発達段階に合った安全な環境や、代表的な病気、怪我等を知り、将来、乳幼児に関する仕事に関わった時に役立てたり、母親になった時に、安心して子育てが出来るようになったりする。	ＤＰ６	40
	目標⑤少子高齢化、情報の氾濫など、子どもを取り巻く社会の中で子育てをする親としての態度を身につける。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	◆オリエンテーション ◆乳幼児保育・教育の現状と課題 ・質の高い保育や、認定こども園・幼稚園・保育園の違いについて等 ◆自分の乳幼児期を振り返える（母子手帳を知る） ◆絵本の読み聞かせ（以下随時）	・保育学を学ぶことの意義と授業内容等について確認する。 【自主学習】 ・自分の乳幼児期について、家族に聞いたり母子手帳で調べたりして知る。 ・授業で学んだことをまとめる。
	2	◆乳児（０～５か月ころ）の発達と保育① ・実技演習：抱っこの仕方・あやし方（グループワーク） ◆歌・手遊び・ふれあい遊びなどの実技（以下随時）	・ＤＶＤを視聴して学ぶ。 ・新生児人形を使用して学ぶ。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	3	◆乳児（０～５か月ころ）の発達と保育② ・実技演習：おむつ交換の仕方（グループワーク） ◆日本の伝統行事について	・新生児人形を使用して学ぶ。 ・子どもに関わる日本の伝統行事について調べたり話し合ったりする。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	4	◆乳児（０～５か月ころ）の発達と保育③ ・実技演習：ミルクの作り方、授乳の仕方（グループワーク） ◆乳児の安全について	・実際に哺乳瓶、ミルクを使用して学ぶ。 ・乳児の安全について話し合う（グループワーク） 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。

	5	◆乳児（６～11か月ころ）の発達と保育① ・身体の発達、言葉の発達 ◆子どもと絵本：絵本の大切さについて ・実技演習：互いに絵本の読み聞かせをする（グループワーク）	・図書館で実際にいろいろな絵本を見て、互いに読み聞かせをする。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	6	◆乳児（６～11か月ころ）の発達と保育② ・離乳食の進め方 ◆食事によるアレルギーについて	・ＤＶＤを視聴して学ぶ。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	7	◆子どもの心身の発達と遊び（１歳ころ） ・体を動かす、絵を描く等の遊び ◆乳幼児期の生活のリズムを考える（0,1,2歳児）	・ＤＶＤを視聴して学ぶ。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	8	◆子どもの心身の発達と遊び(１～２歳ころ) ・トイレトレーニングの進め方 ◆家庭環境における危険と安全について（グループワーク）	・家庭環境における危険な場所やこと等について、付箋と模造紙を使用してグループワークを行い、安全について学び合う。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	9	◆子どもの心身の発達と遊び（２歳ころ） ・見立てやごっこ遊びと言葉の発達 ◆イヤイヤ期の対応の仕方について（自我を受け止める） ◆手作りおもちゃを作ろう（グループワーク）	・グループで協力して、手作りおもちゃを作る。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	10	◆子どもの心身の発達と遊び（３歳ころ） ・着脱や排泄等の生活習慣について ◆子どもと折り紙：折り紙遊びの大切さ ・実技演習：折り紙遊びをする	・折り紙を通しての子どもの学びを知り、実際に体験する。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	11	◆子どもの心身の発達と遊び（４歳ころ） ◆お正月遊びを知り、体験する ◆手作りおもちゃを作ろう① ・すごろく作り（グループワーク）	・実際にいろいろなお正月遊びを体験する。 ・学内の園訪問を知り、プレゼントのすごろく作りを始める。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	12	◆子どもの心身の発達と遊び（５・６歳ころ） ◆幼児の生活習慣の確立（3,4,5歳児） ◆手作りおもちゃを作ろう② ・すごろく作り（グループワーク）	・幼児の生活習慣の確立を学びながら、自分を振り返る。 ・グループで協力して、手作りおもちゃを作る。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	13	◆乳幼児期の怪我について ・代表的な怪我とその対応 ◆手作りおもちゃを作ろう③ ・すごろく作り（グループワーク）	・代表的な怪我とその対応について学んだり、調べたりする。 ・園訪問の内容やマナーについて確認する。 【自主学習】 ・授業で学んだことをまとめる。
	14	◆手作りおもちゃを持参して園訪問 ◆乳幼児期の感染症について ・子どもの代表的な病気とその対応	・園訪問を通して、幼児の様子や保育現場を知る。 ・園児と一緒に歌を歌ったり、手遊びをしたりして、手作りおもちゃをプレゼントする。 【自主学習】 ・園訪問で気付いたこと、学んだこと、感想などを記入する。 ・保育学で学んだことをまとめる準備をする。
	15	◆子どもを取り巻く諸問題について ◆県・市町の子育て環境について ・園、小学校、地域社会とのよりよい連携や、子育て支援制度等について ◆定期試験の説明（題目をレポートや画用紙にまとめる課題について） ・これまでの課題（自主学習）・ノートの確認	・資料をもとに、県・市町の子育て環境について知る。 【自主学習】 ・これまでの課題・ノートを確認し、定期試験に取り組む。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、 3時間程度の事前・事後学習が必要。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	必要に応じてプリントを配布する。 準 備 物：ノート（Ａ４版）・のり・内ズック
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業内容をまとめるための、ノート(Ａ４版)を各自購入して準備する。(配布された資料、課題、授業で学んだこと等をまとめる）最終試験レポート・課題を含めてまとめたノートは、期限までに学び支援課に提出し、評価の対象となる。ノートは評価後各自に返却し、今後の仕事・育児に役立てる。
評価の配点比率	授業内課題・ノート作成：50%（目標①10%、目標②10%、目標③5%、目標④20%、目標⑤5%） 最終試験レポート・課題：50%（目標①10%、目標②10%、目標③5%、目標④20%、目標⑤5%）
受講上の注意	授業は、内ズックを履き、動きやすい服装で受けること。また、ノートのまとめ方も学ぶので、ノート・筆記用具・のりを必ず持参し、提出物は期限を守るようにすること。

教員の実務経験	幼稚園教諭・主事・園長等40年の経験や、福井県内園の保育相談経験がある。それらの経験を活かして、将来の仕事や子育てに役立つ知識、楽しさ、大変さ等、具体的な事例や演習を通して共に考え学び合う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 人間関係論　　授業コード：1421301　1421302

英文科目名称： Studies on Human Relationships

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
清水　聡			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目(生活科学基盤科目)		講義	ナンバリング：14A502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会的場面における人間関係を学ぶことである。 複数の人間が近くに存在するあるいは一緒に活動している「社会的場面」における個人の心理的過程、対人行動、集団と個人の関係等についての代表的トピックスを取り上げて概説する。適宜実習も行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①社会的場面で外に表れた行動から、その場面における人間のこころの動きをある程度理解できる。	ＤＰ１	20
	目標②社会的場面における行動の法則性を理解した上で、日常社会生活で出会う場面に一段階深い問題意識を持てるようになる。	ＤＰ５	20
	目標③社会的場面における行動の法則性を理解した結果、社会生活上の問題を解決する能力を向上させる。	ＤＰ６	16
	目標④所属集団の他のメンバーについて省察するレポートを作成する過程で、他者の立場への理解度を向上させる。	ＤＰ７	29
	目標⑤同じ社会的場面においても人により考え方や行動の仕方に差異があることを学ぶことにより、所属集団における自己のあるべき姿について考察できる。	ＤＰ９	15
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	人間関係論とは、社会的促進	授業の進め方や評価の詳細について説明する。
	2	集団と人間1(集団の定義と集団の形成)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	3	集団と人間2(集団の凝集性)	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	4	集団と人間3（斉一性への圧力と集団規範）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	5	集団と人間4（集団による問題解決）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	6	リーダーとリーダーシップ	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	7	集団内の人間関係の測定方法	実習を行い、それを踏まえレポート課題を出す。前回の授業の復習をして小テストに備える。
	8	自己1（自己概念と自尊感情）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	9	自己2（自己開示と自己呈示）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	10	自己3（自己意識と対人行動）	レポート課題を提出する。前回の授業の復習をして小テストに備える。
	11	魅力と対人関係（対人魅力の規定要因）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	12	援助と攻撃1（援助行動の規定要因）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	13	援助と攻撃2（攻撃行動の源泉と攻撃行動の抑制）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	14	社会的推論1（帰属理論）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
	15	社会的推論2（ヒューリスティック）	前回の授業の復習をして小テストに備える。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		

準備学習に必要な時間	毎回の小テストに備えて、授業中に指示したポイントを中心に前週の授業の復習を最低2時間は行うことが必要となる。また第7回目に課したレポート課題の作成には数日以上要する。レポート等は、評価後にフィードバックする。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	適宜プリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方および評価の方法については第1回目の授業の冒頭に説明する。第7回目に課すレポート課題については、作成上のポイントを詳細に記述したプリントを配布した上で説明する。
評価の配点比率	初回を除く毎回の授業中に行う小テスト（全14回）71%(目標①②③⑤）、中途に課すレポート29%(目標④)
受講上の注意	一般常識よりもう一つ深いレベルで人間関係を理解できるようになって欲しいです。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 情報活用演習Ⅱ　　授業コード： 1423401

英文科目名称： Information Literacy Seminar Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
辻岡　和孝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14B503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、情報活用演習Ｉで学んだ事務処理に必要不可欠な道具となっている表計算ソフトを利用した集計処理およびデータ管理の方法を習得したうえで、更なる表計算ソフトの効率の良い使用法を学び、課題を通してデータの活用方法や表計算ソフトの機能を学ぶ。主にMicrosoft Office Specialist Excel Expert 試験の対策を行い、試験に合格できる知識を学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①表計算ソフトExcelの詳細な操作が身についている。	ＤＰ２	50
	目標②目的に応じて、適切なデータ処理を選択できる。	ＤＰ５	20
	目標③ビジネスの場で用いる実用的な表を順序立てて作成できる。	ＤＰ６	20
	目標④Excelの知識を実生活に活かすことができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	共同作業・言語オプションを利用してブックを管理する	
	2	データに表示形式や入力規則を適用する	
	3	条件付き書式やフィルターを適用する	
	4	関数で論理演算を行う	
	5	関数を使用してデータを検索する	
	6	日付と時刻の関数を利用する	
	7	データ分析を行う	
	8	マクロの編集、参照元のトレースによるトラブルシューティング	
	9	高度なグラフの編集	
	10	高度なテーブルの管理	
	11	テキスト第1回模擬試験の実施、解説	
	12	テキスト第2回模擬試験の実施、解説	
	13	テキスト第3回模擬試験の実施、解説	
	14	テキスト第4回模擬試験の実施、解説	
	15	テキスト第5回模擬試験の実施、解説	

定期試験	試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。
準備学習に必要な時間	課題のため、各回１時間程度の事後学習が必要。
教科書	『Microsoft Office Specialist Mos Excel 365 & 2019 Expert 対策テキスト&問題集』（FOM出版）
参考図書、教材、	参考図書:Excelに関する書籍

準備物等	
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題はMoodleにてフィードバックを行う。MOS試験の場合は結果をプリントしたものをフィードバックする。
評価の配点比率	目標①授業毎の課題50％ 目標②～④実技試験50％(期末試験またはMOS試験)
受講上の注意	MOS試験対策を通じ、EXCELの詳細な機能を習得することで、効率よい事務処理が期待できます。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 情報システムⅠ　　授業コード：1421401　1421402

英文科目名称： Information SystemⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14B501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、コンピュータの基礎的な仕組み・周辺機器の役割に関する知識を身につけることである。２進数・１６進数から始めてコンピュータの動作原理や構造を学ぶ。また、様々な入出力インターフェースや周辺機器について、特徴や用途を学ぶ。これらをもとに、コンピュータシステム全体に対する理解を深める。ITパスポート試験「テクノロジ系　大分類７:基礎理論・大分類８:コンピュータシステム」範囲の内容を扱う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①コンピュータの簡単な仕組みを理解できる。	ＤＰ２	20
	目標②コンピュータの周辺機器の役割を理解できる。	ＤＰ２	20
	目標③職場でのコンピュータや周辺機器の用途を理解できる。	ＤＰ３	10
	目標④コンピュータや周辺機器を目的に合わせて適切に選択できる。	ＤＰ５	30
	目標⑤コンピュータの最新情報やセキュリティなどに関心を持つことができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：授業の目標・内容、成績評価、授業の取り組み方 コンピュータの種類	事前学習：Moodleに示した教科書の該当範囲を読み、理解できない技術用語をリストアップしておく 事後学習：講義ノートを完成し、Moodleに提出する。確認テストを行い、間違えたところを復習する。発展課題は各自調べて講義ノートに記述する。 以後毎回同様に行う。
	2	入力装置　コンピュータと情報	
	3	接頭辞(K、M、G等)	
	4	２進数と１０進数の相互変換	
	5	まとめテスト１：講義第１～４回の範囲	講義ノート・教科書を見ながらやってよいMoodle上のテスト テスト終了翌日、問題が公開されるので、講義ノートを用いて振り返りを行い、間違えた問題は再度解いて、解答をレポートとして提出
	6	１６進数	
	7	コンピュータの仕組み　CPU	
	8	記憶階層　主記憶装置　補助記憶装置（１）(磁気ディスク)	
	9	情報のデータ化　補助記憶装置（２）(光学ディスク、USBメモリ等)	
	10	まとめテスト２：講義第６～９回の範囲	講義ノート・教科書を見ながらやってよいMoodle上のテスト テスト終了翌日、問題が公開されるので、講義ノートを用いて振り返りを行い、間違えた問題は再度解いて、解答をレポートとして提出
	11	インターフェース(種類・特徴・用途)	
	12	出力装置（１）(画像のデジタル化　ディスプレイ)	
	13	出力装置（２）(画像フォーマットの種類　プリ	

	13	ンタ)	
	14	いろいろなソフトウェア	
	15	まとめテスト３：講義第１１～１４回の範囲	講義ノート・教科書を見ながらやってよいMoodle上のテスト テスト終了翌日、問題が公開されるので、講義ノートを用いて振り返りを行い、間違えた問題は再度解いて、解答をレポートとして提出

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、事前学習としてMoodleに示した教科書の該当箇所を読むこと(1時間)。事後学習として発展課題を含めて講義ノートを完成させ、確認テストで内容の定着を図ること(2時間)
教科書	ITパスポート試験 対策テキスト&過去問題集（よくわかるマスター)令和6～7年度版　FOM出版
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 「いちばんやさしいITパスポート」　高橋京介　SBクリエイティブ 「ITパスポートの 新 よくわかる教科書」　原山麻美子　技術評論社 その他ITパスポートに関する書籍 Moodle上にITパスポート試験のシラバスや過去問へのリンクがある
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回のガイダンスで説明する。 Moodle上で行う確認テスト・まとめテストは採点フィードバックされる。 まとめレポートは、Moodleの「まとめ用スライド」と比して内容が不十分だった場合は再提出を求める。 質問等がある場合は、Moodleのメッセージ、または電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト12%、まとめテスト6%、発展課題2% 目標②：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト１２%、まとめテスト６%、　発展課題２% 目標③：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト５%、　まとめテスト３%、　発展課題２% 目標④：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト１９%、まとめテスト９%、　発展課題２% 目標⑤：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト１２%、まとめテスト６%、　発展課題２% 計　：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト６０%、まとめテスト３０%、発展課題１０%
受講上の注意	この授業で扱う内容はコンピュータの基礎的な知識です。しっかりと身に付け、他の授業や就職後の職場、実生活等で役立てていきましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している ■他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 情報システムⅡ　　授業コード： 1421501

英文科目名称： Information SystemⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14B505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、高度情報化社会における情報技術の基本であるデータベース、ネットワークの技術、IT機器を使う際のセキュリティ対策について理解することである。 これらの各項目について具体的な例をもとに技術やしくみについて詳しく学ぶ。また、これらの情報通信技術が社会で果たす役割や日常生活における活用及び問題解決の方法について考察する。 ITパスポート試験「テクノロジ系　大分類９:技術要素」範囲の内容を扱う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ヒューマンインタフェース、データベース、ネットワークおよびセキュリティ対策に関する事項を理解し説明することができる。	ＤＰ２	30
	目標②ネットワーク接続のための知識や運用上必要となるセキュリティ対策について理解し、日常生活において活用することができる。	ＤＰ６	40
	目標③ヒューマンインタフェース、データベース、ネットワークおよびセキュリティ対策に関する技術的な事項について自ら調査し問題を解決するための方法について考察することができる。	ＤＰ８	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：授業の目標・内容、成績評価、授業の取り組み方 マルチメディア	事前学習：Moodleに示した教科書の該当範囲を読み、理解できない技術用語をリストアップしておく。 事後学習：講義ノートを完成し、Moodle上に提出する。確認テストを行い、間違えたところを復習する。 発展課題は各自調べて講義ノートに記述する。 以後毎回同様に行う。 さらに事後学習として２回の特別課題がある。
	2	ヒューマンインタフェース	
	3	関係データベースの基礎	発展課題は、外部のデータベース体験サイトを利用する
	4	関係データベースの演算	発展課題は、外部のデータベース体験サイトを利用する 特別課題１　データベースの課題 外部のデータベース体験サイトを利用して発展的な演習問題を行う
	5	まとめテスト１：講義第１～４回の範囲	講義ノート・教科書を見ながらやってよいMoodle上のテスト テスト終了翌日、問題が公開されるので、講義ノートを用いて振り返りを行い、間違えた問題は再度解いて、解答をレポートとして提出
	6	ネットワークの基礎	Moodle上の資料「回線速度に関する計算の解説」を読む
	7	ネットワークのアドレス管理	
	8	ネットワークのプロトコル	
	9	インターネットサービス	Moodle上の資料「同報メールの使い方」を読む
		まとめテスト２：講義第６～９回の範囲	講義ノート・教科書を見ながらやってよいMoodle上のテスト

	10		テスト終了翌日、問題が公開されるので、講義ノートを用いて振り返りを行い、間違えた問題は再度解いて、解答をレポートとして提出
	11	情報セキュリティの脅威（マルウェア）	
	12	技術的脅威の種類と特徴（様々な攻撃手法）	特別課題２　情報セキュリティの映像学習 外部サイトの情報セキュリティの映像を見て考察をする
	13	情報セキュリティ対策	
	14	情報セキュリティ実装技術（暗号技術・認証技術）	
	15	まとめテスト３：講義第11～14回の範囲	講義ノート・教科書を見ながらやってよいMoodle上のテスト テスト終了翌日、問題が公開されるので、講義ノートを用いて振り返りを行い、間違えた問題は再度解いて、解答をレポートとして提出

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、事前学習としてMoodlに示した教科書の該当箇所を読むこと（1時間）。事後学習として発展課題を含めて講義ノートを完成させ、確認テストで内容の定着を図ること(2時間)
教科書	「情報システムＩ」で指定されている教科書を使用する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 「いちばんやさしいITパスポート」　　高橋京介　　SBクリエイティブ 「ITパスポートの 新 よくわかる教科書」原山麻美子　技術評論社 　　その他ITパスポートに関する書籍 Moodle上にITパスポート試験のシラバスや過去問へのリンクがある
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回のガイダンスで説明する。 Moodle上で行う確認テスト・まとめテストは採点フィードバックされる。 講義ノートは、「講義ノートの作成例」と比して内容が不十分だった場合は再提出を求める。 質問等がある場合は、Moodleのメッセージ、または電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト２０％、まとめテスト１０％ 目標②：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト２０％、まとめテスト１５％、発展課題５％ 目標③：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト２０％、まとめテスト　５％、発展課題５％ 　計　：ビデオ視聴・講義ノート提出・確認テスト６０％、まとめテスト３０％、発展課題１０％
受講上の注意	技術用語が多いので、地道にしっかりと理解するようにしてください。特にセキュリティに関する内容は、就職後の職場や実生活等で知識として必要なものが多いです。しっかりと身に付け、役立てていきましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している ■他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： データサイエンス演習　　授業コード： 1421601　1421602

英文科目名称： Data Science Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
諏訪　いずみ			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14B502
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、情報を整理・分析するための知識・技術を身に着けることを目的とする。 基礎的な数学と統計処理についての講義と演習を通して、データの処理・分析に必要な基礎知識と技術を学ぶ。表計算ソフトを使用した演習を行うことで、基礎数学・統計処理に関して立体的・実用的な知識・技術を身につける。これらを通して、データに基づいて考える力を身に着ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①データ分析で必要となる基本統計量の意味や相関・回帰分析・検定の考え方を理解して利用できる。	ＤＰ２	33
	目標②数学的知識を元に、データとして現れる事象の数学的・物理的背景について説明する意欲がある。	ＤＰ９	27
	目標③データに基づいた論理的な判定・予想ができる。	ＤＰ７	28
	目標④表計算ソフトを用いて基本的なデータ処理ができる。	ＤＰ６	12
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、Excel 関数の基礎	以下毎回、Excel課題と記述課題の提出あり。 以下毎回、Moodle上で指定した動画や資料を事前に見て、用語や概念を理解しておく。 以下毎回、Moodle上の「全講義テキスト」から該当回部分を事前に読んでおく。
	2	関数・数式の利用、参照	関数・数式と絶対参照・相対参照・名前つけを組み合わせた利用
	3	簡単なデータ処理	桁を扱う関数、SUM関数族、COUNT関数族 第１回特別課題
	4	様々なグラフ	適切なグラフの使い分け、１次関数
	5	２次関数とグラフ	文字式、複雑なグラフの作成、２次関数に関連する事象
	6	指数関数と対数関数	指数関数の意味、指数関数で表される事象、対数関数の意味、対数関数を利用した指標
	7	確率	確率の基礎、乱数、期待値
	8	データの利用	データの種類、オープンデータサイトを利用したデータ分析
	9	基本的な統計量	基本統計量、分位数、箱ひげ図 第２回特別課題
	10	分布の状態を知る	分散、標準偏差、偏差値
	11	正規分布	正規分布の意味、標準正規分布、確率分布、累積分布
	12	２変量の関係：相関	散布図、相関、相関係数
	13	回帰分析	回帰直線、データ予測
	14	平均値の差の検定：ｔ検定	検定の手順と用語の意味、Excelを使った平均値の差の検定

	15	アドインの利用	データ分析ツールの導入と利用
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前・事後学習が必要。講義の全プリントをMoodle上に公開するので、毎回の講義部分に目を通して授業に臨む。指定した動画や資料を事前に見て、用語や概念を理解しておく。毎回の課題は、次回に解答を行うので、理解が不十分だった点を復習する。特別課題は、授業時間内の空き時間や事後学習として行う。		
教科書	使用しない。 毎回，授業内容・課題に関するプリントとスライドをMoodle上に掲示する．必要なら各自プリントアウトすること。 講義の全プリントは講義開始時にMoodle上に掲示する。		
参考図書、教材、準備物等	教材：教員の作成した講義プリント・スライド（Moodle上で配布） 参考図書：高校数学教科書ＩA・ⅡB 上記レベルの「統計学」や「データサイエンス」の本で自分が見てわかりやすいもの 他授業の教科書で関連する内容のもの （例：「はじめの第一歩　基礎からはじめるデータサイエンス」nao出版）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方、成績評価の詳細に関しては、第１回のガイダンスで説明する。 Excel課題・記述課題は基本的に講義時間内で作成・提出とする。Excel課題で指定の項目が達成されていない場合は再提出を求める。記述課題は、毎回授業のはじめに、解答解説をする。 質問等がある場合は、Moodleのメッセージ、または電子メールで連絡すること。		
評価の配点比率	目標①：授業内課題２０％、２回の特別課題８％、　期末課題５％ 目標②：授業内課題１６％、２回の特別課題６％、　期末課題５％ 目標③：授業内課題２１％、２回の特別課題４％、　期末課題３％ 目標④：授業内課題８％、　２回の特別課題２％、　期末課題２％ 計　：授業内課題６５％、２回の特別課題２０％、期末課題１５％		
受講上の注意	授業は演習です。Moodle上に設定したリンク等で、授業で扱う項目内容を予習してください。 情報を整理・分析するための知識・技術を身に着け、情報を見極め、的確な判断を下すことができるようなレベルをめざします。 受講に際しては、Moodle上に掲示する「受講のレベルと進め方」を必ず確認してください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している ■他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： プログラミングⅡ　　授業コード：1421701　1421702

英文科目名称： ProgrammingⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
辻岡　和孝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14B504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、プログラミングの基礎と論理的な思考力を身につけることである。 デザイナー・アーティストのために開発されたプログラミング言語「Processing」を利用して、プログラミングによる視覚的な表現技法（イメージの生成、アニメーション、インタラクション）を学ぶ。 アプリの作成を通じてオブジェクト指向プログラミングについて習得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①コードによる視覚的な表現を通して、基本的なプログラミング技法を習得する。	ＤＰ２	30
	目標②論理的に物事を考えられる。	ＤＰ５	40
	目標③アイデアをアプリケーションとして形にできる。	ＤＰ６	20
	目標④主体的にアプリケーション開発に取り組める。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Processingとは（開発環境の使い方）	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	2	プログラミングの第一歩（Processingの図形描画命令について）	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	3	座標と図形描画プログラミング	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	4	画像ファイルの表示	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	5	画像を動かす	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	6	画像を加工する	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出することこと
	7	三角関数を用いた描画	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	8	マウス座標の利用	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	9	ランダム命令の利用	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	10	オブジェクト指向プログラミングの実際	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	11	オブジェクトの定義と利用	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	12	ゲームを作成する①	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	13	ゲームを作成する②	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	14	オリジナル作品を作成する	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること
	15	オリジナル作品のプレゼンテーションをする	復習により新しく学んだ技法を定着させること 課題をmoodle上に提出すること

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の復習をすることが必要。
教科書	教科書は使用しない。
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配布する。 参考図書：Casey Reas, Ben Fry, 船田 巧（翻訳）『Processingをはじめよう』第2版（オライリージャパン 2016/9）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	Processingは公式サイト http://processing.org から無償でダウンロードができる。復習の際は、授業で学んだコードを改造し自分なりの表現を加えてみよう。
評価の配点比率	目標①～④：期末課題30%、授業毎の課題70%
受講上の注意	日頃からなじみのある「アプリ」の制作を通して、プログラミングの楽しさを知ってほしいです。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： プログラミングⅢ　　授業コード： 1421801

英文科目名称： ProgrammingⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
辻岡　和孝			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14B508
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、VBA(Visual Basic for Applications)とPythonを用いたプログラミングを通して業務上必要とされる論理的思考力を身につけることである。VBA統合開発環境の基本的な操作方法と各プログラミングの基礎を学ぶ。プログラミングの基本的な文法、制御構造（順次処理、分岐処理、反復処理）を学び、データ処理の応用プログラミングにも取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①VBA、Pythonのプログラムコードを実装できる。	ＤＰ２	30
	目標②プログラミングの制御構造を駆使してアプリケーションを構築できる。	ＤＰ５	30
	目標③課題に応じたアプリケーションを構築できる。	ＤＰ６	30
	目標④主体的に課題へ取り組む熱意がある。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	講義概要とVBAの基本操作	
	2	フォームの作成	Projectの作成とForm作成 オブジェクト挿入とプロパティ設定
	3	定数と配列の定義	変数型宣言
	4	イベントプロシージャ	Subプロシージャ Functionプロシージャ
	5	分岐処理	IF文、SELECT文による分岐処理
	6	繰り返し処理	For～Next分による繰り返し処理 Do～Loop分による繰り返し処理
	7	配列	1次元配列、多次元配列
	8	ファイル処理（読み込み・書き込み）	シーケンシャルファイルの読み込みと書き込み
	9	EXCELシート処理（読み込み・書き込み）	EXCELシートの読み込みと書き込み
	10	プロシージャ	イベントプロシージャの作成
	11	ユーザ関数	ユーザ関数の作成
	12	オブジェクト指向プログラミング	クラスについて理解する
	13	Pythonの概要	Pythonの概要を理解する
	14	Pythonを用いた自動化処理	PythonモジュールからEXCELを操作する
	15	総合問題と試験対策	

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習、課題のため、毎回１時間程度の事後学習が必要。
教科書	使用しない。

参考図書、教材、準備物等	参考図書:VBA、Pythonに関する書籍
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題はMoodle上にてフィードバックを行う。試験は答案用紙を返却する。
評価の配点比率	目標①～④：期末試験50%、授業毎の課題50%
受講上の注意	毎回の課題、確認テストをしっかりやり、随時内容をちゃんと理解してから次回の授業に臨むようにしましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： マルチメディア演習Ⅱ　　授業コード： 1423501

英文科目名称： Multimedia SeminarⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
吉村　正照			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14B505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、映像表現を用いて情報を人に伝える力の基盤を養うことである。専用の制作ツールを用いながら、アニメーションから実写動画まで幅広く知識と技術を学び、様々なメディアに対応した映像作品を制作していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①制作ツールの扱い方を理解し、速く正確に作業ができる。	ＤＰ２	20
	目標②映像表現の基本を理解し活用できる。	ＤＰ４	30
	目標③目的や対象を想定し、観る人の側に立った映像表現ができる。	ＤＰ６	30
	目標④映像表現の意図を言語化して説明できる。	ＤＰ７	10
	目標⑤チームで協力しながら作品の制作ができる。	ＤＰ10	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業概要、制作ツールの紹介	事後学習：制作ツールの使い方を復習する ※毎回、Moodleに振り返りレポートを記述する
	2	映像の原理、時間操作、カットつなぎ、ストップモーションアニメーション	事後学習：映像表現の原則を復習する
	3	撮影の基本：カメラの設定、構図、カメラワーク、撮影実習	事後学習：映像表現の原則とカメラの使い方を復習する ※雨天時は他の回と入れ替える
	4	制作ツール Adobe After Effects の基本操作①画面の操作、アニメーションの基本	事後学習：映像表現の原則と制作ツールの使い方を復習する
	5	制作ツール Adobe After Effects の基本操作②モーショングラフィックス、Web用素材の書き出し	事後学習：映像表現の原則と制作ツールの使い方を復習する
	6	制作ツール Adobe Premiere Pro の基本操作：画面の操作、素材の読み込み。カットをつなぐ	事後学習：制作ツールの使い方を復習する
	7	カットつなぎにおける様々な技法	事後学習：映像表現の原則と制作ツールの使い方を復習する
	8	テロップのデザイン	事後学習：映像表現の原則と制作ツールの使い方を復習する
	9	音の効果と補正	事後学習：映像表現の原則と制作ツールの使い方を復習する
	10	ナレーションの追加	事後学習：映像表現の原則と制作ツールの使い方を復習する
	11	企画、絵コンテ	事後学習：映像表現の原則を復習する
	12	最終課題①　プリプロダクション	事前学習：最終課題の企画を練る 事後学習：プリプロダクションを完了する
	13	最終課題②　ポストプロダクション	事後学習：ポストプロダクションを完了する
	14	最終課題③　ブラッシュアップ、公開	事前学習：最終課題について先行事例を調査する 事後学習：期日までに課題作品を完成し、YouTubeに限定公開、URLをMoodleに提出する

	15	最終課題④　プレゼンテーション、相互評価、口頭試問	事前学習：プレゼンテーションを準備する 事後学習：レビューの結果を踏まえて課題作品の完成度を高め、Moodleに提出する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。毎回の授業で知識や技術を積み重ねるため、事後学習は事前学習を兼ねている。 短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれることが望ましい。 最終課題においては、6時間以上の自主制作が必要。
教科書	『センスがUPする 動画編集の教科書』（ビー・エヌ・エヌ 2023）
参考図書、教材、準備物等	参考図書や資料は授業内で紹介する。 教材はMoodle上で配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小テストは主にMoodle上で実施する。課題はMoodle上に提出してもらう。これらのフィードバックは原則としてすべてMoodle上で行う。詳細は以下の通り。 小テスト（第1回～第12回）：毎回の授業で学んだ基礎知識が3～5問出題される。自動採点によりフィードバックする。 授業毎の課題（第1回～第11回）：毎回の授業で小さな作品を制作し提出する。点数とコメントによりフィードバックする。 レポート（第1回～第15回）：授業終了時に振り返りレポートを提出する。コメントによりフィードバックする。 最終課題（第15回）：プレゼンテーション時、講評によりフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　小テスト5%、授業毎の課題作品5%、レポート5%、最終課題5% 目標②　小テスト5%、授業毎の課題作品5%、レポート5%、最終課題15% 目標③　授業毎の課題作品10%、最終課題20% 目標④　レポート5%、最終課題のプレゼンテーション5% 目標⑤　授業毎の課題作品5%、レポート5%
受講上の注意	技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1～2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。 質問はオフィスアワーまたはeメール、Moodleメッセージで受け付けます。
教員の実務経験	デザイナーおよびディレクターとして20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かし、実際の現場で使われてる専門的な制作ツールを用いて実践的な課題を扱う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： Web制作演習Ⅰ　　授業コード：1423201　1423202

英文科目名称： Web Designing Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
吉村　正照			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格必修	演習	ナンバリング：14B506
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、Web制作の実践力を養うことである。ビジネスにおけるWebサイトの役割を理解し、UI/UXデザインにおける知識を深め、技術力を向上する。インタラクティブ性の高い表現やページ数が増えた場合の効率的な制作技法を習得していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①Web制作の基本を理解し、静的な複数ページのWebサイト構築ができる。	ＤＰ２	30
	目標②UIデザインの基本を理解し、意図したデザインをコードで再現できる。	ＤＰ４	20
	目標③UXデザインの基本を理解し、使う人の側に立ったデザインができる。	ＤＰ６	30
	目標④デザインの意図を言語化して説明できる。	ＤＰ７	10
	目標⑤Web制作に取り組む上で必要となる姿勢を身につけ、Web制作演習Ⅱでの実践的な制作に対応できる基礎力を習得することができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	授業概要、ビジネスにおけるWebサイトの役割、戦略的なWeb制作の流れ	事後学習：授業資料を再読する ※毎回、Moodleに振り返りレポートを記述する
	2	コンテンツ設計、コンテンツの種類と型	事後学習：授業資料を再読する
	3	UXデザインとは	事後学習：授業資料を再読する
	4	複数ページのWebサイト、共通部分のモジュール化、CSSの管理	事後学習：授業資料を再読する
	5	CSS3による表現	事後学習：コードの書き方を復習する
	6	jQueryの書き方①　画像スライド、モーダルウィンドウ	事後学習：コードの書き方を復習する
	7	jQueryの書き方②　バーガーメニュー、そのほかのライブラリ	事後学習：コードの書き方を復習する
	8	Webサイト構築の実践演習①　画面設計、プロトタイピング	事後学習：コードの書き方を復習する
	9	Webサイト構築の実践演習②　コーディング：HTML、CSS	事後学習：コードの書き方を復習する
	10	Webサイト構築の実践演習③　コーディング：jQuery、レスポンシブデザイン	事後学習：コードの書き方を復習する
	11	Webサイト構築の実践演習④　公開、検証	事後学習：コードの書き方、ツールの使い方を復習す
	12	Webサイト構築の実践演習⑤　Web解析、最終課題のオリエンテーション	事後学習：最終課題となるWebサイトの目的や対象を整理して、画面設計のアイデアを練る
	13	最終課題①　画面設計、プロトタイピング	事後学習：プロトタイピングを完了し、コーディングに備える
	14	最終課題②　コーディング、サイト公開	事後学習：期日までに課題作品し、Webサーバにアップロードする
	15	最終課題③　プレゼンテーション、相互評価、口頭試問	事前学習：プレゼンテーションを準備する 事後学習：レビューの結果を踏まえて課題作品の完成度を高め、Moodleに提出する
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。		

	■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。毎回の授業で知識や技術を積み重ねるため、事後学習は事前学習を兼ねている。 短時間でも構わないので、1〜2日に一度は制作ツールにふれることが望ましい。 最終課題においては、6時間以上の自主制作が必要。
教科書	『プロを目指す人のためのHTML&CSSの教科書』（マイナビ出版 2022）
参考図書、教材、準備物等	参考図書や資料は授業内で紹介する。 教材はMoodle上で配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小テストは主にMoodle上で実施する。課題はMoodle上に提出してもらう。これらのフィードバックは原則としてすべてMoodle上で行う。詳細は以下の通り。 小テスト（第1回〜第13回）：毎回の授業で学んだ基礎知識が3〜5問出題される。自動採点によりフィードバックする。 授業毎の課題（第1回〜第12回）：毎回の授業で小さな作品を制作し提出する。点数とコメントによりフィードバックする。 レポート（第1回〜第15回）：授業終了時に振り返りレポートを提出する。コメントによりフィードバックする。 最終課題（第15回）：プレゼンテーション時、講評によりフィードバックする。
評価の配点比率	目標①　小テスト5%、授業毎の課題作品5%、レポート5%、最終課題15% 目標②　小テスト5%、授業毎の課題作品5%、レポート5%、最終課題5% 目標③　授業毎の課題作品10%、最終課題20% 目標④　レポート5%、最終課題のプレゼンテーション5% 目標⑤　授業毎の課題作品5%、レポート5%
受講上の注意	技術を習得するためには反復練習が欠かせません。短時間でも構わないので、1〜2日に一度は制作ツールにふれるようにしましょう。 質問はオフィスアワーまたはeメール、Moodleメッセージで受け付けます。
教員の実務経験	デザイナーおよびディレクターとして20年以上の実務経験を有する教員が、その経験を活かし、実際の現場で使われてる専門的な制作ツールを用いて実践的な課題を扱う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： Web制作演習Ⅱ　　授業コード： 1423601

英文科目名称： Web Designing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
中谷　蓉織			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格必修	演習	ナンバリング：14B509
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、Web制作演習Ⅰに引き続き、htmlとcssでWebが構築できるようになった学生向けに、無料で使えるCMS（コンテンツマネジメントシステム）Wordpressを用いて、Webのマーケティングを学びながら、実際に社会に出て役にたつWeb制作を身につける。 Web制作演習Ⅰの基礎に加え、過程として、実際に自分がなんらかのお店を持つとしたらとしてその業界・市場・ターゲットを調査し、どのようなページ構成にしたらいいか、どのようなコンテンツが有用かを検討し、構成を検討し、できるだけ簡単にノーコードで実装できる方法を取りながら、CMSでホームページを作る。 この演習を通して、マーケティング能力・提案能力・CMS構築能力の3つの基礎の力を軸に養っていくことができる。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	Webが必要となるフェーズを理解し、どういったWebが必要か考察・選択できる。	ＤＰ２	20
	選択した業界に対して市場調査・ターゲット調査などのマーケティングを行い、Webサイト設計を作成できる。	ＤＰ４	15
	設計に沿って、Figmaでサイトの構成とTOPデザインを制作できる。	ＤＰ４	15
	実際にローカルでCMS環境を用意し、作成したデザインをもとに、既存テーマ、プラグインなどを活用し、店舗の集客サイトを作ることができる。	ＤＰ５	10
	他者のサイトを評価し、アナリティクスなどの情報を考察・検討できる	ＤＰ７	20
	作成したサイトの設計意図、見せたい箇所、今後の運用イメージをプレゼンできる。	ＤＰ８	20

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	マーケティング概論、制作の流れ	事前学習：自分（もしくは家族・友人）がお店を持つとしたら、どんなお店を持ちたいか考えてくる。 Webサイトがなぜ必要なのか、マーケティングとブランディングの必要性を知り、Webの設計・制作・運用の流れを把握する。 事後学習：業界の競合他店のホームページを3個、自分が好きなイメージのサイトを3個探してくる。
	2	市場調査・マーケティング	競合他社のWebサイト、Googleの検索結果やインスタグラムのハッシュタグ検索を用いて調査し、その業界の動向をリサーチする。 想定されるペルソナを複数立て、興味関心の指標を作成し、業界のターゲットの分析を行う。 事後学習：どの様なホームページにしたいか構想を練ってくる
	3	Webサイト企画・設計	Webサイトのコンセプトを決め、サイトマップを作成し、トップページのワイヤーフレームを起こす。 事後学習：上記を完成させる
	4	Webサイトトップページ方向性決め	Webサイトのトップページデザインの方向性を定める。トーン&マナーを固める。 事後学習：トップページデザインを完成させる。
	5	デザイン提出＆評価・CMSローカル環境導入	作成してきたトップページデザインを講師・学生相互にレビューし、Wordpressのローカル環境を導入し、無料のテーマを当てる
	6	CMS構築①　トップページ一部作成	インストールしたWordpressのテーマをカスタマイズし、ファーストビュー、コンセプト部分を作る 参考書：p38～49

			事後学習：作り込みたいところを作り込んでくる
	7	CMS構築②　下層固定ページ作成	主要な固定ページを1ページ作る（メニューページ・サービスページなど） 参考書：p50～73 事後学習：作り込みたいところを作り込んでくる
	8	CMS構築③ 投稿ページ作成	投稿の1記事（お知らせなど）を作成し、必要であればブロックエディタで複数のブロックを用いて編集する。 参考書：p74～94 応用：p95～150（必要なブロックの章だけ参照） 事後学習：もう１記事、使っていないブロックを使って記事を作ってくる
	9	CMS構築④ 下層固定ページ追加作成	トップページに魅力的なセクションをもう1つ作成し、下層の固定ページをもう1ページ作成する（例：価格表など）参考書：p150～170 事後学習：作成したページを完成させる
	10	CMS構築⑤　サイトメニュー作成・調整	ヘッダーメニューにページを追加し、サイトのロゴをあてる細かな調整を行う 参考書：p172～199 事後学習：作成したページの完成度をあげる
	11	CMS構築⑥　お問い合わせフォーム設置	サイト内にプラグインを利用してお問い合わせフォームを設置する。必要なデザインの場合はサイドバーを用意する参考書：P200～212 事後学習：作成したページ全体の完成度をあげる
	12	CMS完成・本サーバーアップ	できたものをサーバーにアップし、本サイトURLを発行する。アナリティクス・サーチコンソールを導入する（noindex設定、サイトマップは送信しない） 参考書：P214～236 事後学習：アナリティクスとサーチコンソールを見ておく
	13	アナリティクス・サーチコンソール確認	アナリティクスの発火確認を行い、コンバージョン設定を行う。 アナリティクス・サーチコンソールを確認し、見方を学ぶ事後学習：グループ内全員のサイトを、訪問し、動作チェックする。
	14	期末課題制作①プレゼン資料作成	最終プレゼンにむけての資料作成をする 事後学習：プレゼン資料を完成させ、Moodleに提出
	15	期末課題制作②プレゼンテーション	各自マーケティングから制作までの経緯、作成したサイトの発表、想定される今後の活用方法をプレゼン 事後学習：それぞれの発表に対する気づきと自己評価をMoodleに提出

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、各1時間程度の事前・事後学習が必要。
教科書	「今すぐ使えるかんたん Wordpressやさしい入門 いちばんわかりやすい！ワードプレスの教科書です。」技術評論社 桑名由美 著
参考図書、教材、準備物等	授業内で紹介する
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小品（毎回）：毎回の授業で小さな作品を制作し、ローカルのURLで提出してもらう。点数とコメントによりフィードバックする。 質問はMoodleに記載のメールアドレスまたはMoodleメッセージで受け付ける。他者の作品を見る力も評価する。 期末課題は別途採点し、評価する。
評価の配点比率	目標①課題作品10%、授業毎の課題10% 目標②課題作品5%、授業毎の課題進捗10% 目標③課題作品5%、授業毎の課題進捗10% 目標④課題作品5%、授業毎の課題進捗5% 目標⑤課題作品10%、授業毎の課題進捗10% 目標⑥課題作品10%、授業毎の課題進捗10%
受講上の注意	数年おきに目まぐるしく変わっていくWeb業界において、これからのWeb概論、いつの時代も役にたつマーケティングを学び、かつ最も秘匿普及しているCMSであるWordpressを、簡易的にでも一人で組み上げられるようになり、ぜひ実践に役立てて欲しいと思います。 本科目では、有用なWeb担当者になれる基礎を学ぶことで、社会に出てからどんな課題も解決できる人材の育成を目指しています。
教員の実務経験	14年以上ウェブデザイナーおよび、ディレクターとして数々のサイトや制作物、広告物を世に送り出してきた経験を持つ。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　ビジネス実務演習Ⅰ　　授業コード：1421901　1421902

英文科目名称：　Seminar in Business Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
澤崎　敏文			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14C501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会人として必要なビジネススキル（コミュニケーション、情報処理、企画立案、プレゼン、企画実行能力）を、演習活動を通して身につけることである。具体的な事例を用いて課題に対し具体的な解決策を見つけ出すケースメソッド型の演習を実施する。ビジネス実務総論で習得した基本知識を活用し、課題解決、企画立案等の手法をマーケティングやマネジメントの考え方を応用しながら演習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①業務遂行に必要な分析や計画性に関する知識や手法について述べることができる。	ＤＰ３	15
	目標②ビジネス文書の目的・意義について理解することができる。	ＤＰ３	15
	目標③状況に応じて業務を管理する力を備えている。	ＤＰ６	30
	目標④課題に対してチームで協働的に問題解決をすることができる。	ＤＰ10	20
	目標⑤業務における課題を主体的に発見し、それに対応した的確な解決策を提示できる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、ビジネス実務の基礎と実際	ケースメソッド型での演習活動について、進め方などのガイダンスをおこないます。 事後学習：ビジネス実務総論で学習した知識・技能等の振り返り
	2	マーケティング入門（1）：マーケティングに関する基礎的な知識（３つのＣやＳＷＯＴ分析）を学びます。	Moodleのフォーラムを活用したオンラインでのグループディスカッション（非同期）を実施します。ビジネス事例について全員で議論を行います。（オンライン上でのグループワーク） 事後学習：ビジネス事例についての問題点などをＳＷＯＴ分析に基づき検討する
	3	マーケティング入門（2）：マーケティングに関する基礎的な知識（３つのＣやＳＷＯＴ分析）を学びます。	Moodleのフォーラムを活用したオンラインでのグループディスカッション（非同期）を実施します。ビジネス事例について全員で議論を行います。（オンライン上でのグループワーク） 事後学習：分析したビジネス事例についてレポート作成
	4	マーケティング入門（3）：マーケティングに関する基礎的な知識（４つのＰ、セグメント、ターゲティング）を学びます。	Moodleのフォーラムを活用したオンラインでのグループディスカッション（非同期）を実施します。ビジネス事例について全員で議論を行います。（オンライン上でのグループワーク） 事後学習：福井の事例に関するＳＷＯＴ分析の検討
	5	マーケティング入門（4）：マーケティングに関する基礎的な知識（ポジショニング）を学びます。	Moodleのフォーラムを活用したオンラインでのグループディスカッション（非同期）を実施します。ビジネス事例について全員で議論を行います。（オンライン上でのグループワーク） 事後学習：福井の事例に関するＳＷＯＴ分析のレポート作成
	6	マーケティング演習：基礎を応用して経営について考えます。	ＳＷＯＴ分析、４つのＰ（マーケティングミックス）から、さらに、セグメンテーション、ターゲティングという考えを用いて効果的な戦略を考えます。 事後学習：ＳＷＯＴ分析を基に、経営計画を検討

	7	マーケティング演習：経営計画の発表	検討してきたビジネスプランを発表し、意見交換を行います。（動画等による発表を予定） 事前学習：経営計画を策定し、発表できる準備を行う。
	8	事例演習１（事例に基づくグループ演習）	福井市が主催するビジネスプランコンテストに出品します（予定）。その概要説明および企画立案について演習を行います。 事後学習：ビジネスプランについて、各自アイディアを出す
	9	事例演習２（事例に基づくグループ演習）：シナリオグラフで考えるビジネスプラン	シナリオグラフという手法を用いて、アイディアを広げます。 事後学習：アイディアのまとめ、議事録の作成
	10	事例演習３（事例に基づく演習）：事業計画書の検討・作成	ビジネスプランコンテストのプラン作成 ターゲット、ポジション、４つのPを考えたビジネスプランづくり 事後学習：事業計画の具体的な案を考える
	11	事例演習４（事例に基づくグループ演習）：事業計画書の検討・作成	ビジネスプランコンテストのプラン作成 ターゲット、ポジション、４つのPを考えたビジネスプランづくり 事後学習：事業計画案の作成、議事録の作成
	12	事例演習５（事例に基づくグループ演習）：発表準備	作成したビジネスプランをグループごとに発表できるように準備します。 事後学習：発表案の作成
	13	事例演習６（事例に基づく演習）：発表準備、パワーポイント作成	作成したビジネスプランをグループごとに発表できるように準備します。 事後学習：発表原稿および発表スライドの作成
	14	ビジネスプラン（事業計画）の発表と考察（１）	各ビジネスプランを、申込書および資料（パワーポイント）で説明します。 事前学習：発表原稿および発表スライドの作成
	15	ビジネスプラン（事業計画）の発表と考察（２）、相互評価、まとめ	各ビジネスプランを、申込書および資料（パワーポイント）で説明します。 その後、授業全体の振返りを実施 事後学習：これまでのビジネス実務演習Ｉ（ビジネス実務総論も含む）での学びを振り返る

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事後学習、授業準備に毎回１時間程度の時間が必要。ニュースソースに目をとおして、気になった記事を簡単にまとめて、伝えることができるように準備しておくこと。
教科書	「大学生・新社会人のためのビジネス実務の基礎知識」（一粒書房） (ISBN 978-4-86743-028-6)
参考図書、教材、準備物等	適宜プリント（PDF)等を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	企業等の業種を問わず、様々な実務の場面で活用できる知識・技能の習得を目指して演習活動を実施していきます。 ＬＭＳ(Moodle)を利用して課題の配布・提出が行われます。
評価の配点比率	目標①②　7週目に実施する発表および提出資料（企画書）15%、最終レポートの提出 15% 目標③　授業で毎回提出するレポート課題　30% 目標④　授業内での演習課題　20% 目標⑤　7週目または14週目に実施する発表（プレゼンテーション）　20%
受講上の注意	課題等の提出が毎回あるので。Moodle（LMS）を定期的に確認すること。
教員の実務経験	企業経営の経験、商工会議所等での専門アドバイザーとしての経験を有する教員が、その経験を活かして、ビジネスにおける基本的な知識や今日的な課題について講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　ビジネス実務演習Ⅱ　　授業コード：1422001

英文科目名称：　Seminar in Business Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
野本　尚美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14C502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、流通業における販売知識を身につけ、さらに会計知識も含めて最新の管理知識・経営知識を身につけることである。 そのために、以下の５分野を学ぶ。（1）小売業の類型（2）マーチャンダイジング（3）ストアオペレーション（4）マーケティング（5）販売・経営管理　である。 最新の流通業界の大きな変化にも目を向けて、最終的には「販売士検定試験」に挑戦し合格する力を身につける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①本授業の特に（3）（4）（5）の学びを通して、流通業に関する基礎的・基本的な知識や課題について理解し、説明することができる。	ＤＰ３	60
	目標②本授業の特に（1）（2）の学びを通して、小売業における課題を多面的に考えることができる。	ＤＰ５	30
	目標③本授業の全体の学びを通して、流通業における課題と今後のキャリアについて主体的に考えることができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 第1章　小売業の類型　小売業とは　他 Section１～６	第1章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	2	第1章　小売業の類型　組織形態別小売業の運営特性①　他　Section７～１８	第1章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	3	第1章　小売業の類型　中小小売業の課題　他 Section１９～２１	第1章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	4	第2章 マーチャンダイジング　マーチャンダイジングの概念　他　Section１～４	第2章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	5	第2章 マーチャンダイジング　予算管理と利益計画　他　Section５～９	第2章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	6	第2章 マーチャンダイジング　棚割システムの活用方法　他　Section１０～１４	第2章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。

	7	第3章　ストアオペレーション　顧客満足度を向上させるストアオペレーションの　他　Section１～７	第3章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。 小テストを実施する。
	8	第3章　ストアオペレーション　購買促進を活発化させるディスプレイ方法　他　Section８～１２	第3章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	9	第4章　マーケティング　小売業のマーケティングミックス①　他　Section１～８	第4章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	10	第4章　マーケティング　販売促進広告　他　Section９～１６	第4章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	11	第4章　マーケティング　ポジショニングの設定　他　Section１７～２３	第4章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	12	第5章　販売・経営管理　契約に関する法知識　他　Section１～５	第5章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	13	第5章　販売・経営管理　経営分析とは何か　他　Section６～９	第5章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	14	第5章　販売・経営管理　小売業の組織形態の種類　他　Section１０～１４	第5章（事前）各Sectionの「重要ポイント」に目を通しておく。 （事後）各Sectionの「加点のポイント」を理解する。
	15	まとめ　模擬試験問題と解説	（事後）これまでのビジネス実務演習ＩＩでの学びを振り返る。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事後学習、授業準備に毎回１時間程度の時間が必要。新聞等に目をとおして、気になったニュースを簡単にまとめて、伝えることができるように準備しておくこと。 また、テキストの「重要ポイント」に目を通しておくこと。
教科書	「販売士２級一発合格テキスト＆問題集　第4版」海光　歩（著）　（株）翔泳社
参考図書、教材、準備物等	適宜プリントを配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却する。成績評価を含め、質問等がある場合は担当者までメール（nomoto@jin-ai.ac.jp）で連絡をすること。
評価の配点比率	目標①　小テスト10%　期末試験50% 目標②　小テスト10%　期末試験20% 目標③　小テスト10%
受講上の注意	この授業は日本商工会議所主催「販売士検定試験３・２級」を視野に行われる。したがって、検定試験を受ける希望者を対象とする。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： フードビジネス　　授業コード： 1424201

英文科目名称： Food Business

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
木内　貴子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14C504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、変容する社会環境や消費者の嗜好の中で、「人」と「食」を結ぶフードビジネスの基礎知識を身につけることである。「食」は生命維持に欠かせないもので、安全安心を基本としながら生活の質にも影響を及ぼす。また、地域とのかかわりを深めるなど社会的意義も大きい。そのため、授業では、地域の風土の中で育まれてきた食文化や、社会の中で変わりゆく食生活に触れながら、フードサービスの運営に必要な知識を習得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①外食産業、中食産業と食生活の変化の関連性を説明できる。	ＤＰ１	10
	目標②食空間を演出・運営するための基本的な知識を身につける。	ＤＰ１	10
	目標③フードサービスビジネスの経営管理に関する基礎知識を身につける。	ＤＰ３	20
	目標④消費者の食行動の特徴について把握できる。	ＤＰ５	10
	目標⑤身近なフードサービスビジネスに関する課題を見つけられる。	ＤＰ５	10
	目標⑥今後のフードサービスビジネスについて自分の考えを持てる。	ＤＰ５	20
	目標⑦食事はその土地の気候風土の影響を受け、食文化や食習慣が反映されていることを理解する。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：人間と文化や生活環境に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	食生活の多様化と食品消費の変化	ガイダンス 食生活を支える食市場と食品消費の変化 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食生活の多様化と食品消費の変化
	2	日本の外食産業・中食産業	外食産業の動向と展開 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。外食産業の業態の特徴
	3	食行動の特徴	食品の選択から消費まで、店舗・食品選択 事前学習：提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食行動の特徴
	4	食品のアクセス問題	買い物の実態と自立度、買い物弱者 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食品摂取の多様性
	5	食品の安全と衛生	食品の安全と仕組み、食品異物、食品の腐敗、食品衛生対策 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食品の安全確保とフードビジネス
	6	食品消費と環境問題	安定した食生活と環境問題、食品ロス、食品廃棄物、３R 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。フードビジネスをめぐる環境問題
		和食とさまざまな食事の文化	食生活の歴史的な成り立ちと文化・風土、世界の国々

	7		の食事 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。日本料理と和食、世界の料理
	8	食品・食材の知識	生活者の目的に応じた食品と調理方法 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食品の特徴
	9	調理方法と設備の基礎知識	飲食店の設備計画の基本 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。厨房づくりのポイント
	10	食空間のコーディネート	「おいしさ」を引き出す食環境、厨房、食時空間、売場 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食空間・キッチンコーディネイトの基礎
	11	食卓のコーディネート	心豊かにおいしく食べるための食卓企画・設計 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。食卓コーディネートのポイント
	12	食卓のサービスとマナーの基本	食卓のアメニティーの創造とマナー 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。提供する側、提供される側
	13	メニュープランニング	献立と料理内容の企画立案 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。顧客ニーズと条件とメニュープランニング
	14	食マーケットの経営と管理	飲食業の経営管理の動向と特性、フードサービスマネジメント 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。フードサービスビジネスの経営管理
	15	食企画の実践	食企画の流れと基礎的なスキル 事前学習： 提示されたキーワードについて調べ学習する 事後学習：講義内容をまとめる。企画提案に必要なスキル

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の事前・事後学習を要します。 事前学習では講義内で提示されるキーワードについて調べておきましょう。 事後学習では講義内容をノートにまとめるようにしましょう。
教科書	使用しません。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：講義内で随時紹介します。 教材：必要に応じて資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	仁短moodle等を利用してフィードバックを行います。
評価の配点比率	期末課題60％　小テスト20％　中間課題20％ 目標①：小テスト5％　期末課題5％ 目標②：小テスト5％　期末課題5％ 目標③：小テスト5％　期末課題15％ 目標④：中間課題5％　期末課題5％ 目標⑤：中間課題5％　期末課題5％ 目標⑥：期末課題20％ 目標⑦：小テスト5％　中間課題10％　期末課題5％
受講上の注意	授業の取り組み方については、第1回目のガイダンスで説明します。
教員の実務経験	栄養士業務に携わった経験のある教員が、おいしい食事の提供のために必要な食事の運営について講義します。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　☑グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 地域ビジネス論　　授業コード： 1423701

英文科目名称： Regional Business

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
高原　裕一			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14C510
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会の課題を解決し地域に価値をもたらすことが企業をはじめとするあらゆる組織体の使命であるということを再認識する。 さらに、社会起業家の事例や地域の企業の研究を通して学びを深め、新社会人としての心構えや課題に取り組む視点を学ぶ。 それによって、主体的に課題に取り組むリーダーシップを持った人となり、将来活き活きと仕事や人生に向き合うことができるようになることを目的とする。 個人あるいはグループで地域課題を経営の視点で解決できないかについて検討を進め、考えた事業案をまとめ発表してもらうことをゴールとする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①地域の課題について考え、その解決策についてわかりやすく説明することができる。	ＤＰ３	50
	目標②地域における本質的な課題を見いだすための仮説を立て検証するという、論理的な思考ができる。	ＤＰ５	20
	目標③地域の課題を解決するために考えられた戦略の選択肢をもとに中長期的視点に立って合理的な判断ができる。	ＤＰ６	20
	目標④主体的に地域の課題解決に取り組むことにより、自らのキャリアを形成することができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	地域とビジネス	授業の概要説明、進め方と目標 地域とビジネスがどのようにかかわっているかについて講義、ディスカッション。 地域の課題を見つける視点。
	2	地域の課題について考える	自身が感じている地域の課題について発表・ディスカッション。 地域の課題に対して「仮説」を立てる視点に関する講義。
	3	地域の課題の解像度を高める	課題を見いだすだけでなく、その周辺の課題や当事者意識を持つためのアプローチの仕方。 本質的課題を見いだす視点と方法について講義とディスカッション。
	4	経営的視点で課題を解決するための方法	事業が永続するしくみの作り方について講義とディスカッション。
	5	社会起業家の事例研究（１）	社会起業家とは何か。企業家と社会起業家の違いと共通点。 事例をもとに講義とディスカッション。
	6	社会起業家の事例研究（２）	社会起業家の事例とビジネスモデルの構築について講義とディスカッション。
	7	社会起業家の事例研究（３）	社会起業家の事例と経営資源の集め方について講義とディスカッション。
	8	地域企業研究（１）	地元福井をはじめとする企業における地域ビジネス的要素の研究について講義とディスカッション。
	9	地域企業研究（２）	自身が興味のある企業や就職する企業・組織体の地域ビジネス的要素について検討する。

	10	地域ビジネスの作り方（1）	課題に焦点をあて、ビジネスで解決する方法について講義とディスカッション。
	11	地域ビジネスの作り方（2）	課題に焦点をあて、ビジネスで解決する方法について講義とディスカッション。
	12	地域ビジネスのリーダーとなるために	事業を自ら進めていくうえで必要なリーダーとしての在り方について講義とディスカッション。
	13	発表準備（1）	自身が考えたビジネスについて発表の準備を行う。質疑応答と課題共有。
	14	発表準備（2）	自身が考えたビジネスについて発表の準備を行う。質疑応答と課題共有。
	15	発表と評価	事業プランを発表し相互評価する。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事後学習、授業準備に毎回2～3時間程度の時間が必要
教科書	講師オリジナル資料
参考図書、教材、準備物等	チェンジメーカー～社会起業家が世の中を変える～渡邊 奈々（著） 非営利組織の経営　P.F.ドラッカー（著） 興味のある方は読んでおいていただいても構いません。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	個人またはグループで事業プランを考え、パワーポイントで発表してもらいます。
評価の配点比率	目標1：プレゼンテーションの内容　50% 目標2：ディスカッションでの発表　20% 目標3：期末試験　20% 目標4：講義後の課題提出　10%
受講上の注意	
教員の実務経験	広告代理店で10年間マーケティングの仕事に携わっていました。 その後コンサルティング会社に3年勤め、経営戦略やマネジメントのサポートを行いました。 その後独立し、コンサルティング会社を経営しています。 22年前にNPO法人も立上げ、起業教育、起業人材育成を図る活動も行っています。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： ビジネス法務　　授業コード： 1423801

英文科目名称： Business Law

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
大西　新吾			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14C505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、ビジネスにおいて必要不可欠な法律の知識を身につけることです。 本授業の学びを通して、皆さんはあらゆる業種で求められる基礎的な法律知識を修得し、リスク回避につながるコンプライアンス（法令順守）能力を身につけることができます。なお、受講生全員が「ビジネス実務法務検定3級試験」を受験することを前提に授業を進めていきます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①：ビジネス法務を学ぶことを通して、マネジメント技法に関する知識・技能を身につけることができる。	ＤＰ３	60
	目標②：ビジネス法務を学ぶことを通して、問題を多面的かつ順序立てて分析する論理的な思考能力を身につけることができる。	ＤＰ５	15
	目標③：ビジネス法務を学ぶことを通して、問題を発見・解決するための合理的な判断力を身につけることができる。	ＤＰ６	15
	目標④：ビジネス法務を学ぶことを通して、主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけることができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ビジネス実務法務の法体系（1）ビジネスを取り巻くリスクと法律のかかわり	テキスト第1章（1節） （予習）「コンプライアンス」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第1章【第1問】に取り組むこと。
	2	ビジネス実務法務の法体系（2）企業活動の根底にある法理念と法律の基礎知識	テキスト第1章（1節）（2節）（3節） （予習）テキスト（2頁～38頁）を読んでおくこと。「法律の体系」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第1章【第2問～第7問】に取り組むこと。
	3	企業取引の法務（1）契約の成立（売買契約の成立から代理制度まで）	テキスト第2章（1節）（2節） （予習）テキスト（40頁～73頁）を読んでおくこと。「契約の成立」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第2章【第1問～第12問】に取り組むこと。
	4	企業取引の法務（2）契約成立後の法律関係と売買以外の契約形態（契約の効力の発生から賃貸型の契約まで）	テキスト第2章（2節）（3節）（4節） （予習）テキスト（73頁～112頁）を読んでおくこと。「債務不履行責任」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第2章【第13問～第20問】に取り組むこと。
	5	企業取引の法務（3）ビジネス文書の保存・管理と不法行為等	テキスト第2章（4節）（5節）（6節） （予習）テキスト（112頁～166頁）を読んでおくこと。「不法行為」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第2章【第21問～第32問】に取り組むこと。
	6	企業財産の管理と法律	テキスト第3章（1節）（2節）（3節） （予習）テキスト（168頁～206頁）を読んでおくこと。「知的財産権」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第3章【第1問～第13問】に取り組むこと。

	7	企業活動に関する法規制	テキスト第4章（1節）（2節） （予習）テキスト（208頁～248頁）を読んでおくこと。「マイナンバー法」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第4章【第1問～第12問】に取り組むこと。
	8	債権の管理と回収（1）通常の債権の管理と取引の決済（手形・小切手等）	テキスト第5章（1節）（2節） （予習）テキスト（250頁～295頁）を読んでおくこと。「クレジットカード」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第5章【第1問～第8問】に取り組むこと。
	9	債権の管理と回収（2）債権の担保と緊急時の債権の回収	テキスト第5章（3節）（4節） （予習）テキスト（296頁～321頁）を読んでおくこと。法律上の「担保」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第5章【第9問～第23問】に取り組むこと。
	10	企業と会社のしくみ	テキスト第6章（1節）（2節） （予習）テキスト（324頁～366頁）を読んでおくこと。「株式会社」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第6章【第1問～第11問】に取り組むこと。
	11	企業と従業員の関係	テキスト第7章（1節）（2節）（3節） （予習）テキスト（368頁～400頁）を読んでおくこと。「男女雇用機会均等法」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第7章【第1問～第9問】に取り組むこと。
	12	ビジネスに関連する家族法	テキスト第8章（1節）（2節） （予習）テキスト（402頁～423頁）を読んでおくこと。「遺言」について調べてみること。 （復習）テキストの復習をし、問題集第8章【第1問～第9問】に取り組むこと。
	13	模擬問題演習（1）問題演習と解説	（予習）テキストを最初から最後まで読んでおくこと。公式問題集の問題を解きなおすこと。 （復習）模擬問題（1）の復習をしっかり行うこと。
	14	模擬問題演習（2）問題演習と解説	（予習）テキストを最初から最後まで読んでおくこと。公式問題集の問題を解きなおすこと。 （復習）模擬問題（2）の復習をしっかり行うこと。
	15	模擬問題演習（3）問題演習と解説	（予習）テキストを最初から最後まで読んでおくこと。公式問題集の問題を解きなおすこと。 （復習）模擬問題（3）の復習をしっかり行うこと。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、3時間程度の事前および事後の学習が必要となる。テキストと問題集を予習・復習に徹底的に使用すること。
教科書	東京商工会議所編『ビジネス実務法務検定試験3級　公式テキスト』（中央経済社）2025 東京商工会議所編『ビジネス実務法務検定試験3級　公式問題集』（中央経済社）2025
参考図書、教材、準備物等	菅谷貴子・厚井久弥『ビジネス実務法務検定試験3級　テキストいらずの問題集』（翔泳社）2025 コンデックス情報研究所編『ビジネス実務法務検定試験3級　テキスト＆問題集2025年度版』（成美堂出版）2025
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の理解を深めるために、毎回、問題に取り組み、課題として提出を求めます。課題は毎回3点評価で10回あります（成績に占める割合30%）。各課題は採点し、その結果をフィードバックします。疑問点がある場合には、メールまたはオフィスアワーを利用してください。
評価の配点比率	毎回提出の課題（30%）、模擬試験（10%）、定期試験（60%） 目標①課題15%、模擬試験10%、定期試験35% 目標②課題5%、定期試験10% 目標③課題5%、定期試験10% 目標④課題5%、定期試験5%
受講上の注意	本授業は、「ビジネス実務法務検定試験3級」の受験を前提にしています。3級の受験料は5,500円で、試験はIBT方式となります。15回の授業では学習時間が相当に不足するため、公式テキストと公式問題集は必ず購入し、毎回の授業はしっかりとテキストを読み込んだうえで（予習）臨んでください。また、授業後には問題演習を繰り返し行ってください（復習）。授業で使う教材とは別に、参考図書にあげた市販の問題集を各自が購入し、積極的に活用することが望ましいです。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 秘書実務演習　　授業コード： 1423901

英文科目名称： Secretarial Practice Seminar

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
野本　尚美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	秘書士資格選択	演習	ナンバリング：14C507
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、サービス接遇に関する基礎的知識について学習し、サービススタッフとして働くための基本的姿勢を身に付けることである。サービス接遇検定の勉強を通して、サービススタッフとして求められる資質、話し方、マナー、接遇用語など、接客接遇のために必要な知識及び技能について実践的に学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①サービスの意義を理解し、サービス業務に必要な一般知識を身に付けている。	ＤＰ３	60
	目標②サービス接遇者として適切な話し方ができる。	ＤＰ７	30
	目標③サービス接遇者としてふさわしい振る舞いや態度について自ら考え、実践することができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	サービススタッフの資質①必要とされる要件	授業の進め方、予習や復習の仕方などについて説明を行う。宿題としてp.18－26の練習問題を解いておくこと。
	2	サービススタッフの資質②従業要件	授業後にp.55までの練習問題を解いておくこと。
	3	専門知識①サービス知識	授業後にp.71までの練習問題を解いておくこと。
	4	専門知識②従業知識	授業後にp.83までの練習問題を解いておくこと。
	5	一般知識（社会常識・時事問題）	授業後にp.119までの練習問題を解いておくこと。
	6	対人技能①人間関係と顧客心理の理解	授業後にp.131までの練習問題を解いておくこと。
	7	対人技能②一般的なマナー・接遇者としてのマナー	授業後にp.145までの練習問題を解いておくこと。
	8	対人技能③話し方・服装	授業後にp.167までの練習問題を解いておここと。
	9	実務技能①問題処理	授業後にp.179までの練習問題を解いておくこと。
	10	実務技能②環境整備	授業後にp.183までの練習問題を解いておくこと。
	11	実務技能③金品管理	授業後にp.187までの練習問題を解いておくこと。
	12	実務技能④金品搬送	授業後にp.191までの練習問題を解いておくこと。
	13	実務技能⑤社交業務	授業後にp.199までの練習問題を解いておくこと。
	14	面接練習（基本言動・接客対応）	授業後にp.204-224の内容を読み返し、丁寧な動作や言葉遣い等について復習すること。接客対応に関するレポートを提出すること。
	15	まとめ・模擬試験	授業後にp.251までの練習問題を解いておくこと。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要。授業で学習したテキストのページの練習問題を解いておくこと。
教科書	藤原由美『カラーイラストでスイスイわかる！サービス接遇検定3級2級準1級合格テキスト＆問題集』（ナツメ社，2022）

参考図書、教材、準備物等	参考図書：実務技能検定協会『サービス接遇検定実問題集1-2級』（早稲田教育出版）、実務技能検定協会『サービス接遇検定実問題集3級』（早稲田教育出版）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。質問は授業の前後に教室にて受け付けます。質問等があればnomoto@jin-ai.ac.jpまで連絡すること。
評価の配点比率	目標①筆記試験　60% 目標②③レポート　40%
受講上の注意	丁寧な話し方や相手の気持ちを理解した対応の仕方について学ぶことは、就職後にも役立ちます。主体的に取り組みましょう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： ビジネスイングリッシュ　　授業コード： 1422101

英文科目名称： Business English

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
Johnson Casey Duane			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14C511
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、主にビジネスで用いられる英語の運用スキルを身につけることである。具体的には、来客応対や電話応対、会議、ビジネスEメール、プレゼンテーションなどで用いられる英語表現などについて学ぶ。また、TOEICテストについてもリーディング・リスニングを中心に学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ビジネス英語に関する文章や会話文を読んで、その内容を理解することができる。	ＤＰ２	50
	目標②ビジネス英語に関する基礎的な語彙力や文法力を背景として、状況に応じた英語表現を考えることができる。	ＤＰ５	20
	目標③積極的に他者と議論し、自分の考えをまとめ、発表することができる。	ＤＰ６	20
	目標④異なる文化について理解を深める意欲がある。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Introduction / TOEIC練習	授業の進め方や、予習・復習の仕方について説明する。 TOEICテストの概要を説明する。
	2	Unit 1 Checking in #1	P81のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	3	Unit 1 Checking in #2 ミニレポート提出	P81のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	4	Unit 2 At a trade fair #1	P81のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	5	Unit 2 At a trade fair #2	P81のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	6	Unit 3 Schedules #1	P81のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	7	Unit 3 Schedules #2	P81のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	8	Unit 1-3 Review/ TOEIC練習 小テスト①	Unit 1-3 のリスニング、学んだフレーズ等を復習しておく。
	9	Unit 4 Companies #1	P82のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	10	Unit 4 Companies #2 プレゼンテーション	P82のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	11	Unit 5 Meeting People #1	P82のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	12	Unit 5 Meeting People #2	P82のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	13	Unit 6 In the office #1	P82のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。
	14	Unit 6 In the office #2	P82のvocabulary listを見て、わからない単語は調べておく。

	15	Unit 4-6 Review / TOEIC 練習 小テスト②	Unit 4-6 のリスニング、学んだフレーズ等を復習しておく。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回30分程度の事前・事後学習が必要です。授業後は必ず復習をした上で次回の授業に臨んでください。		
教科書	Business Venture Beginner (Oxford) ISBN: 978-0-19-457819-6		
参考図書、教材、準備物等	その他、必要と思われる教材を適宜配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メール（caseysenseiufo@gmail.com）で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①筆記試験　40% 目標②小テスト　30% 目標③プレゼンテーション　20% 目標④ミニレポート　10%		
受講上の注意	実践的なビジネス英語について学びます。わからないところは積極的に質問してください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 簿記演習　　授業コード：1423301　1423302

英文科目名称： Seminar in Bookkeeping

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
大西　新吾			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14C508
添付ファイル			

授業の概要	この授業の目的は、1年後期に学習した「会計学入門」をベースにして、会計記録から決算書の作成に至る一連の流れを、「複式簿記」という技法を通して身につけることです。 企業は決算書を作成し、公開する必要がありますが、その決算書は「複式簿記」の技法を通して作成されます。皆さんが多言語（たとえば「英語」）を学習する際に、日本語を多言語に言い換えるためのルールとして「文法」を学習しますが、「複式簿記」というシステムは、その「文法」に相当します。複式簿記という会計「言語」の文法を学びながら、ビジネス社会について考えていきましょう。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①複式簿記の学びを通して、マネジメント技法に関する基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	ＤＰ３	60
	目標②複式簿記を通して作られた会計データの分析を通して、問題を多面的かつ順序立てて分析する論理的思考力を身につけることができる。	ＤＰ５	30
	目標③複式簿記を通して、様々な業種を考察することで、自らのキャリアを形成する態度を身につけることができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	簿記の意義・仕組みと貸借対照表	（予習）テキストの序章（１頁～２頁）、第１章（３頁～４頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	2	貸借対照表と損益計算書（１）	（予習）テキストの第１章（４頁～７頁）と第２章（８頁～９頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	3	貸借対照表と損益計算書（２）	（予習）テキストの第２章（10頁～13頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	4	仕訳の決まり	（予習）テキストの第３章（１４頁～１７頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	5	仕訳から総勘定元帳への「転記」	（予習）テキストの第３章（１７頁～２０頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	6	小テスト１と解説・確認	（予習）テキスト序章～第３章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認すること。
	7	現金出納帳と現金過不足の取扱い	（予習）テキストの第４章（２１頁～２８頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	。	小口現金出納帳	（予習）テキストの第４章（２８頁～３３頁）の説明と例題を読んでおくこと。

	8		（復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	9	預金の種類と「当座預金」	（予習）テキストの第５章（３４頁～３８頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	10	当座預金取引の処理と当座預金出納帳	（予習）テキストの第５章（３８頁～４１頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	11	小テスト２と解答・解説	（予習）テキスト第４章～第５章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認すること。
	12	商品売買（１）分記法・３分法と掛け取引	（予習）テキストの第６章（４２頁から４４頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	13	商品売買（２）総仕入高と純仕入高・総売上高と純売上高	（予習）テキストの第６章（４３頁から４７頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	14	商品売買（３）売掛金元帳と買掛金元帳	（予習）テキストの第６章（４８頁から５３頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	15	商品売買（４）仕入帳・売上帳と商品有高帳	（予習）テキストの第７章（５４頁～５８頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	16	商品売買（５）商品有高帳（先入先出法）	（予習）テキストの第７章（５８頁～６１頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	17	商品売買（６）商品有高帳（移動平均法）	（予習）テキストの第７章（６１頁～６５頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	18	小テスト３と解答・解説	（予習）テキスト第６章～第７章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認すること。
	19	手形	（予習）テキストの第８章（６６頁～７４頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （ただし、６８頁～７１頁の「手形貸付金と手形借入金」は除く。） （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	20	債権と債務（１）貸付金と借入金、未収入金と未払金	（予習）テキストの第９章（７５頁～８０頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	21	債権と債務（２）前払金と前受金、立替金と預り金	（予習）テキストの第９章（８０頁～８６頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	22	債権と債務（３）仮払金と仮受金、受取商品券、差入保証金	（予習）テキストの第９章（８６頁～９１頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	23	貸倒損失と貸倒引当金	（予習）テキストの第１０章（９２頁～９８頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	24	小テスト４と解答・解説	（予習）テキスト第８章～第９章までの例題及び練習問題を繰り返し練習すること。 （復習）小テストで見つかった不明点や疑問点を確認すること。
	25	有形固定資産と減価償却（１）	（予習）テキストの第１１章（９９頁～１０１頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	26	有形固定資産と減価償却（２）	（予習）テキストの第１１章（１０１頁～１０６頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	27	資本取引と会社の税金	（予習）テキストの第１２章（１１０頁～１１２頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。

	28	会社の決算	（予習）テキストの第１６章（１４６頁）に挙げられている決算整理項目①～⑨のうち、 ③当座借越勘定（３８頁～４０頁）、④売上原価の算定（１４７頁～１４９頁）、 ⑦貯蔵品勘定（１５０頁）の説明と例題を読んでおくこと。 （復習）テキストの練習問題を解き、課題を提出すること。
	29	貸借対照表と損益計算書の作成	（予習）貸借対照表と損益計算書の構成をいま一度確認しておくこと。 （復習）取引を仕訳し、貸借対照表と損益計算書を作成するまでのプロセスをよく復習しておくこと。
	30	財務諸表の作成（総合問題）とまとめ	（予習）会社の利益計算全体を理解しているか確認しておくこと。 （復習）総合問題にもう一度取り組み、これまでの学習内容の振り返りをすること。 定期試験に関しては、「期末試験直前復習問題」を配布するので、繰り返し練習すること。 また、小テスト１～４をもう一度見直すこと。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前の学習として毎回30分程度、テキストの例題までを読んでから授業に参加すること。また、事後の学習として、毎回30分程度の時間をかけて、テキストの練習問題を復習すること。
教科書	片山覚ほか『新・入門商業簿記』（創成社）2019
参考図書、教材、準備物等	参考図書：渡部裕亘・片山覚・北村敬子『検定 簿記講義3級』（中央経済社）、その他、市販の日商簿記検定3級関連テキスト及び問題集
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の進度に応じて、小テストを4回実施します。小テストの評価は各10点です。小テストは返却し、解答も配布します。解説を聞いても不明点や疑問点がある場合には、メールまたはオフィスアワーを利用してください。
評価の配点比率	毎回の課題（20%）と小テスト（20%）と期末試験（60%）の合計で評価されます。毎回の課題（20回）は、各１点×20回＝20点となります。小テストは各10点で4回実施しますが、4回中点数の高い2回分の点数（20点満点）が成績評価の対象となります。期末試験は定期試験期間中に実施し、60点満点です。 目標①課題10%、小テスト10%、期末試験40% 目標②課題5%、小テスト5%、期末試験20% 目標③課題5%、小テスト5%
受講上の注意	この授業は、＜簿記をはじめて学ぶ方＞や＜簿記を学んだことはあるが基礎的なところから学び直しをしたい方＞を対象にしています。なお、この授業は、1回生後期の「会計学入門」と連動しているので、合わせて受講することが望ましいです。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 会計情報論　　授業コード： 1422201

英文科目名称： Accounting as an Information

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
大西　新吾			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14C512
添付ファイル			

授業の概要	この授業の目的は、企業会計を「情報とその活用」という視点から捉え、理解することです。 　具体的には、企業の決算報告書（貸借対照表・損益計算書）を用いた財務分析（経営分析）及び企業会計と税務会計との関連性の観点から、会計を広く「情報」の一種とみて学んでいきます。これによりビジネス社会で生活していく能力を高めることができます。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①企業会計の学びをとおして、ビジネスに関する基礎知識を身につけることができる。	ＤＰ３	30
	目標②財務分析（経営分析）をとおして、情報に関する論理的な思考力を身につけることができる。	ＤＰ５	30
	目標③企業会計と税務会計の関連性についての学びをとおして、課題に対する合理的な判断力を身につけることができる。	ＤＰ６	30
	目標④組織の一員として経理に関わる人間に求められる協働する態度を身につけることができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	企業会計の概要と貸借対照表	事前学習：1年後期の「会計学入門」、2年前期の「簿記演習」の学習内容を確認しておくこと。 事後学習：取引から決算までの一巡の流れ及び貸借対照表の重要項目をしっかり復習しておくこと。
	2	損益計算書と5つの利益	事前学習：損益計算書とは何か、どのような項目があるかについて確認しておくこと。 事後学習：＜5つの利益＞について復習すること。
	3	貸借対照表の分析	事前学習：自分の関心のある企業のホームページを閲覧し、その企業の貸借対照表を確認しておくこと。 事後学習：授業で学習した分析方法について、関心のある企業数社のIR情報を検索し、その企業の貸借対照表を 用いて授業内容を復習すること。
	4	損益計算書の分析	事前学習：自分の関心のある企業のホームページを閲覧し、その企業の損益計算書を確認しておくこと。 事後学習：授業で学習した分析方法について、関心のある企業数社のIR情報を検索し、その企業の損益計算書を 用いて授業内容を復習すること。
	5	貸借対照表と損益計算書の関連性分析	事前学習：自分の関心のある企業のホームページを閲覧し、その企業の財務諸表を確認しておくこと。 事後学習：授業で学習した分析方法について、関心のある企業数社のIR情報を検索し、その企業の貸借対照表と 損益計算書の関連性分析を行うことで授業内容を復習すること。
	6	事例分析	事前学習：第3回～第5回で学んだ財務分析の手法をもう一度確認しておくこと。 事後学習：授業中に紹介した事例研究をもとに、自分で分析クイズを作成してみること。

	7	中間試験と振り返り	事前学習：第1回～第6回の学びの内容をしっかり復習しておくこと。 事後学習：中間試験で求められた授業理解のためのポイントを確認すること。
	8	税金の意義と分類	事前学習：税金の種類を調べてくること。 事後学習：海外の税金についても調べてみること。また、どんな税金が良い税金と言えるのか、自分の考えを整 理しておくこと。
	9	所得税（1）概要	事前学習：所得税という税金について、他の税金との違いから事前に調べておくこと。 事後学習：10個の所得の違いについて、自らの職業選択を考えてよく復習しておくこと。
	10	所得税（2）　所得控除	事前学習：所得税の計算の仕組みをあらかじめ調べてみること。 事後学習：人的控除と物的控除について、自分の家族の場合に当てはめてよく復習しておくこと。
	11	所得税（3）　給与所得	事前学習：所得税の源泉徴収制度についてあらかじめ調べてみること。 事後学習：年末調整について、自分に当てはめて計算し、所得控除との関連性について確認すること。
	12	法人税	事前学習：法人の種類について調べておくこと。 事後学習：法人税と所得税（事業所得）との違いを復習すること。
	13	相続税	事前学習：相続とは何か、贈与との違いは何か、事前に調べておくこと。 事後学習：自らの家族構成に当てはめて、相続税に計算の仕組みをしっかりと復習すること。
	14	消費税	事前学習：消費税について調べてみること。 事後学習：消費税の問題点について考え、自らの答えをまとめること。
	15	その他の税金と振り返り	事前学習：第8回から第14回で学習した税金以外の税金について調べてみること。 事後学習：定期試験に向けてテキストをもう一度読み直すこと。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、2時間程度の事前学習と2時間程度の事後学習が必要となる。特に、自らのキャリア（就職）を意識して、関心が有る企業の場合に当てはめて調べていく態度が求められる。
教科書	『これだけは知っておきたい「税金」のしくみとルール(改訂新版11版)』　(2025)フォレスト出版(株)
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『会社四季報 業界地図』（東洋経済新報社2024）、『日経 業界地図』（日本経済新聞社2024）、『会計クイズを解くだけで財務3表がわかる　世界一楽しい決算書の読み方』・大手町のランダムウォーカー・2020年3月28日初版(KADOKAWA)
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎回の授業終了後、事業内容の理解の確認のため、Moodleへの課題提出を求め、フィードバックをする。また、中間試験及び定期試験の実施前に内容の確認を行う。成績評価を含め質問がある場合はMoodleからのメールまたはオフィスアワーを利用すること。
評価の配点比率	毎回の課題（13点）、中間試験（40点）、定期試験（47点）の配点比率。 目標①:中間試験（10%)、定期試験（20%) 目標②:課題（6%）、中間試験（24%) 目標③:課題（7%）、定期試験（23%) 目標④:中間試験(6%)、定期試験（4%)
受講上の注意	履修にあたっては、「会計学入門」、「簿記演習」を履修しておくことが望ましい。特に金融機関（銀行・証券会社・会計事務所等）に就職予定の学生は受講することが望ましい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： コミュニティデザイン論　　授業コード： 1424001

英文科目名称： Community Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
内山　秀樹			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14C509
添付ファイル			

授業の概要	・本授業の目的は、コミュニティーデザインについての基礎知識を修得し、地域課題解決のための企画力、実行力を高めることである。 ・座学に加え、具体的なまちづくり活動にも参画し、まちづくりの現場からも学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①まちづくりの好事例について、まちの特性や地域課題とまちづくりの取り組み内容の関連性について説明することができる。	ＤＰ３	30
	目標②地域の強みと弱みなどを分析し、問題解決のための方策を提案することができる。	ＤＰ６	30
	目標③課題解決のための企画について他者と協働して具体的に検討し、取りまとめることができる。	ＤＰ７	20
	目標④③で立案した企画の実現に向け、段取り、実行できる。	ＤＰ10	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第1回	ガイダンス：授業の概要とコミュニティデザインへの理解	授業全体の概要とまちづくり、コミュニティデザインとは何かについて説明する。 事前学習：まちづくりをキーワードにネット検索して、興味を持った事例を３つ程度収集しておく。
	第2回	まちづくりの好事例のプレゼン資料の作成	第1回に向けて収集した事例のうち１つに絞り、その事例の地域課題と取り組み内容についてまとめる。 事前事後学習：１事例を絞り込んでプレゼン作成作業をある程度進めておく。
	第3回	まちづくりの好事例のプレゼン	１事例５分間程度でプレゼンし、受講者でディスカッションする。 事前事後学習：プレゼン資料を完成させておく。→課題１：街づくりの好事例
	第4回	好事例からの理解(1)	優れた取り組みをしている全国の事例をもとに、コミュニティデザインの本質を学ぶ。
	第5回	好事例からの理解(2)	優れた取り組みをしている全国の事例をもとに、コミュニティデザインの本質を学ぶ。
	第6回	森田地区まちづくり企画の説明とアイデアの検討	森田地区のまちづくりに参画するための事前学習として、森田地区の街づくりの流れ、地域課題等について説明する。その後、個別にイベントでの企画を検討し、まとめる→課題２：まちづくりイベントの個人企画
	第7回	グループワーク(1)：まちづくりプロジェクトアイデアの出し合いと絞り込み	前回の個別企画案を持ち寄り、グループ案を絞り込み、内容を深め、グループ企画をまとめる.
	第8回	グループワーク(2)：まちづくりプロジェクトグループ企画の準備	本番に向けた企画のブラシアップ、準備を行う。 事前事後学習：必要物についてはあらかじめ用意しておき、不足物については事後に購入する。→課題３：まちづくりイベントのグループ企画
	第9回	グループワーク(3)：まちづくり企画の実行(1)	イベント本番での実行 休日の半日を要するため、２回分の授業として扱う。

	第10回	グループワーク(4)：まちづくり企画の実行(2)	″イベント本番での実行 休日の半日を要するため、２回分の授業として扱う。″
	第11回	地域課題解決のための企画検討(1)課題の洗い出し	自分が存在する地域や社会における課題をSWOT分析等を用いて洗い出す。 事前事後学習：対象を身近な地域にするか社会にするかを決めておき、SWOT分析の進め方について事前に調べておくように。
	第12回	地域課題解決のための企画検討(2)企画検討(1)	課題解決のための企画を検討する。 事前事後学習：SWOT分析から得られる課題を整理しておくように。
	第13回	地域課題解決のための企画検討(3)企画検討(2)	課題解決のための企画絞り込む。 事前事後学習：企画の絞り込みをある程度しておく。
	第14回	地域課題解決のための企画検討(4)プレゼン資料の作成	絞り込んだ企画について、内容を深め、プレゼン資料を作成する。 事前事後学習：プレゼン作成のための準備をしておく
	第15回	地域課題解決のための企画検討(5)プレゼン	作成したプレゼン資料をもとに企画をプレゼンする。 →課題４：地域課題解決のための企画。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	・毎回3時間程度の予習。復習が必要。
教科書	・教科書は使用しない。 ・その都度必要に応じてmoodleに掲載するので、あらかじめプリントアウトまたは各自のデバイスにダウンロードして授業に臨むこと。
参考図書、教材、準備物等	山崎　亮『コミュニティデザイン―人がつながるしくみをつくる』（2011 学芸出版社） 筧　裕介『地域を変えるデザイン-コミュニティが元気になる30のアイデア』（2011 英治出版） 筧　裕介『ソーシャルデザイン実践ガイド-地域の課題を解決する7つのステップ』（2013 英治出版）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題の評価後、フィードバックする。
評価の配点比率	目標①レポート等：30% 目標②企画内容と成果：30% 目標③分析内容と方策についてのレポート：30% 受講姿勢（毎回の振り返りシートの内容）：10%
受講上の注意	注意：机上には、授業に関係ない、かばん等を置くことを禁ずる。 私語が目立つ場合は座席指定とする。 フィールドワークを実施する際は休日半日で長時間になるため、スケジュール調整を行い、欠席しないように。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している ■他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している(https://www.youtube.com/@chiikidukuri)

講義科目名称： プロジェクト演習　　授業コード： 1424301

英文科目名称： Project Based Learning

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	２年次	１単位	選択
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14C506
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、身の回りのモノコトヒトへの興味関心から課題を発見し、実践から学ぶことである。 そのため、課題の見つけ方、調査方法、表現方法をプロジェクト活動を通して学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①プロジェクトを実施するためのマネジメント技法を身につけている。	ＤＰ３	10
	目標②伝わりやすいデザイン表現を身につけている。	ＤＰ４	10
	目標③課題を解決するために多くの情報を収集することができる。	ＤＰ５	10
	目標④効率の良い作業ができる。	ＤＰ６	20
	目標⑤伝わりやすいレポートが書ける。	ＤＰ７	10
	目標⑥チームで協働する態度を身につけている。	ＤＰ10	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：マネジメント技法に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、自分の興味・関心を可視化する	興味関心マップの作成、グループワーク。事後学習：興味関心マップの完成。※毎回、振り返りノートを提出。
	2	プロジェクトテーマの検索	プロジェクト計画表の提出。
	3	プロジェクトテーマの共有	プロジェクト計画表の提出。
	4	プロジェクトテーマの決定	プロジェクト計画表の提出。
	5	プロジェクトの準備	プロジェクト計画表の提出。
	6	プロジェクトの準備	プロジェクト計画表の提出。
	7	プロジェクトの試作発表	プロジェクト計画表の提出。
	8	プロジェクトの準備（改善）	報告シートの提出。
	9	プロジェクトの準備（改善）	報告シートの提出。
	10	プロジェクトの準備（改善）	報告シートの提出。
	11・12・13・14	実践実習	報告シートの提出。
	15	まとめ、振り返り	他者の発表と自身の発表を評価する。 レポートの提出。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。
教科書	田中元子『1階革命 私設公民館「私ランドリー」とまちづくり』晶文社／2022
参考図書、教材、準備物等	藤文俊・木村健世・木村亜維子『つながるカレー コミュニケーションを「味わう」場所をつくる』フィルムアート社／2014

	上野千鶴子『情報生産者になる』ちくま書房／2018
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題に対するフィードバックは、仁短Moodleで行う。プロジェクト型学習のため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。質問等がある場合は、担当教員へ連絡してください。
評価の配点比率	目標①プロジェクト計画表　10% 目標②プロジェクト成果物　10% 目標③プロジェクト実施状況とレポート　10% 目標④作業態度及び報告シート　20% 目標⑤報告シート　10% 目標⑥プロジェクト実施状況　40%
受講上の注意	開講時期が不定期ですので、スケジュール管理をしっかり行ってください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： グラフィックデザインⅢ　　授業コード：1422301　1422302

英文科目名称： Graphic DesignⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
西畑　敏秀			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14D501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、課題をとおして実社会で必要とされる発想・表現要素・表現技術を学ぶことである。グラフィックⅠ、Ⅱで学んだビジュアル・コミュニケーションを活かして、グラフィックソフト／イラストレーターの技術を駆使しながら実践的な演習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①実際に社会で活用されている案件の課題を実践することで現実的なデザインに対応できる応用力を習得できる。	ＤＰ２	40
	目標②Webデザイン、演習Ⅱと連動してトータルに実践的な応用デザインを習得できる。	ＤＰ７	30
	目標③今後さまざまなグラフィックデザインにおける社会的な要望に、目的や用途に応じた企画立案、提案する力を習得できる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション　・イラレ復習	今回の到達目標：1年後期__欧文フォント構成のコツを学ぶ 今回の授業内容：イラストレーターを活用した応用デザインについてガイダンス／欧文フォント復習 次回課題モノグラムデザインについて
	2	モノグラムデザイン__01	今回の到達目標：イニシャルを組み合わせて紋章をデザインするモノグラムについて学ぶ 今回の授業内容：自分のイニシャルを組み合わせてブランドマークを作成するため まずは様々な欧文フォントから、試作10案程度を提出する
	3	モノグラムデザイン__02	今回の到達目標：アイデアを練り上げて完成に導くプロセスを学ぶ 今回の授業内容：2案程度を絞り込んで、細部を調整して最終検討案を作成する
	4	モノグラムデザイン__03	今回の到達目標：最終デザインを精査し、実際の現場で使用できるデータ作成を学ぶ 今回の授業内容：最終検討2案から決定案を選択し、縦組み、横組みの組み合わせを試作検討しながら 最終的な完成作品として提出する
	5	名刺のデザイン__01	今回の到達目標：名刺の役割について学ぶ 今回の授業内容：小さいスペースでのデザイン　必要最小限の情報　独自性と印象 などを考慮したラフ案を縦組み、横組みで2案ずつ考案する 前回に制作した自分のブランドマー

			ク（モノグラム）を使用する
	6	名刺のデザイン__02	今回の到達目標：使用して役立つ名刺のデザインを学ぶ 今回の授業内容：考案した縦組み・横組みのデザインを 情報の優先順位・視認性・文字の大きさ・書体・ブランドマークの配置など 本来の目的に応じて使用する場面を想定しながら、最終データを完成する
	7	前回課題講評／ピクトグラムデザイン_01	今回の到達目標：ピクトグラムの社会的な役割について学ぶ 今回の授業内容：ピクトグラムとは何か　ピクトグラムの活用例　ピクトグラムのデザイン例 課題オリエンテーション～優秀参考作品解説
	8	ピクトグラムデザイン_02	今回の到達目標：課題／動物園のピクトグラムのアイデアを考える 今回の授業内容：新しい動物園が開園すると仮定して、ネーミングを考える。 そして好きな動物（昆虫、魚、鳥等、生物なら自由）のピクトグラムを、その動物園にふさわしいデザインで考案する。 ・同じデザイン趣旨による4～6点のピクトグラムを　原則〇＝円形内にデザインすること ・色数は「白」＋1色（無彩色＝黒、グレーは使用不可）　シリーズとしての4～6色のトーンを意識すること ・出来るだけシンプルに記号化してデザインすること　・動物園のロゴマークも合わせてデザインする まずはデザインスケッチをペアで、3～4パターン考案する
	9	ピクトグラムデザイン_03	今回の到達目標：課題／動物園のピクトグラムのデザインを作成する 今回の授業内容：ラフスケッチから選定したアイデアを、実用可能なデジタルデータで作成する 同じデザインテーマ トーンが統一された時カラーリング　特徴的な動物園のロゴタイプをデザインして 専用のデザインフォーマットに従って提出すること
	10	前回課題講評／パッケージデザイン__01	今回の到達目標：日常生活で利用されるパッケージのデザインを学ぶ 今回の授業内容：先行事例から、パッケージデザインの特徴を検証し 目的や用途に応じたパッケージデザインのラフ案を2～3点考案する
	11	パッケージデザイン__02	今回の到達目標：パッケージデザインのバリエーションを学ぶ 今回の授業内容：考案したデザインをもとに、イラストレーターを駆使して、書体や配置、カラーリングなどの 構成要素を自由に組み合わせて、タイプが違うバリエーションを作成する
	12	パッケージデザイン__03	今回の到達目標：パッケージデザインのデータ作成を学ぶ 今回の授業内容：最終的に選定したデザイン案の微調整を行い 実際に印刷可能な仕様でのデジタルデータを作成する
	13	前回課題講評／シンボルマーク・ロゴタイプ__01	今回の到達目標：経済社会で重要なシンボルマークを学ぶ 今回の授業内容：先行事例から、経済社会におけるブランディングとビジュアルデザインの相関関係を知り 新たな起業を想定したネーミング企画と、シンボルマークのラフスケッチを5案以上考案する
	14	シンボルマーク・ロゴタイプ__02	今回の到達目標：アイデアスケッチを具現化する技術を学ぶ 今回の授業内容：考案したラフスケッチをもとに、イラストレーターを使用して 実践的な手法を駆使して、シンボルマーク、ロゴタイプの基本的なデザイン案を作成する
		シンボルマーク・ロゴタイプ__03	今回の到達目標：シンボルマーク・ロゴタイプのマニュアルデータ作成を学ぶ

	15		今回の授業内容：最終的に選定したデザイン案の微調整を行い 実社会で使用可能な仕様でのシンボルマーク・ロゴタイプの組み合わせ、 使用基準をまとめたデジタルデータを作成する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度、前回の操作や手順を復習して次回に備えておくこと
教科書	教科書は使用しない。
参考図書、教材、準備物等	なし
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業課題の講評、掲示、返却時に個別にアドバイス
評価の配点比率	授業課題100％ 目標①40％　目標②30％　目標③30％
受講上の注意	
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー４年、広告企画制作会社でアートディレクター４年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年　県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 広告コミュニケーションデザイン　　授業コード： 1422401

英文科目名称： Advertising and Communication Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
西畑　敏秀			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	ウェブデザイン実務士資格選択	演習	ナンバリング：14D505
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、あらゆるデザインの現場で基本的な構成要素となる、文字、レイアウト等、情報伝達のコツ・ポイントを学ぶことである。和文、欧文、文字組み（縦・横）、大小、文字間、行間等具体的な構成を日常使用するコンピュータソフトを自在に操作できる技術とノウハウを学習する。さらには、情報を的確に伝えるために必要な、ことば（コピー）や図案（写真・イラストレーション）の編集構成を学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①写真の大小と文字組、配置構成、余白の効果的構成等、レイアウトの基本と実践をマスターし、プレゼンテーションパネル作成や企画書を作成する場合などのテクニックを習得できる。	ＤＰ９	30
	目標②パソコンでの操作に先立ち、発想や企画があってこその表現であることを理解できる。	ＤＰ２	30
	目標③社会における自分の役割を自覚し、主体的に行動できるようにする。	ＤＰ８	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	デザイン模写__01／A4フライヤー	主に美術館の告知等で活用される、A4サイズの広報ツールを分析して、 メインビジュアル、タイトルコピー、会期会場、概要等の構成手法を学習する。
	2	デザイン模写__02／A4フライヤー	選定した既存のA4広報物を題材に、フォント、カラーリング、必要事項のテキスト情報、 それぞれの文字サイズ、行間、行長などを、可能な限り模倣して 自身の作品や企画案に差し替えて、デザインの模写作業を行う。 制作者のデザイン意図や、コツを学び取る。
	3	実践課題／森田文化祭ポスター __01	実際に地域社会で開催される催しを広報するためのポスターを制作する。 これまでの事例を検証しながら、地域社会（森田地区）のデザイン要素を探求。 題材をもとにラフスケッチを考案する。
	4	実践課題／森田文化祭ポスター __02	前回考案したラフスケッチをもとに、実際に印刷入稿するためのデザインデータを制作する。 これまでに学んだ写真、イラストレーション、タイポグラフィーを駆使して 地域の催しの広報活動に貢献することを学ぶ。 ※地域の選定委員会で決定した案は、実際に印刷し掲示される
	5	写真構成課題ポスター__01／PEOPLE	◎制作条件 ・A3（縦横自由）に、5枚以内の自分で撮影した写真と、メッセージ性のある 　連動したテーマのキャッチコピー、200字程度の本文を組み合わせ構成する。 ・制作者名（和・欧自由）は必ずデザインの要素として入れる。 ・その他、コピーやタイトルと連動した素材等表現は自由。

			・テーマは「PEOPLE」人、人々、家族、友人、人の気配等　解釈は自由。 ※他者の著作を侵害する素材は使用しない。
	6	写真構成課題ポスター__02／TIME	◎制作条件 ・A3（縦横自由）に、5枚以内の自分で撮影した写真と、メッセージ性のある 　連動したテーマのキャッチコピー、200字程度の本文を組み合わせ構成する。 ・制作者名（和・欧自由）は必ずデザインの要素として入れる。 ・その他、コピーやタイトルと連動した素材等表現は自由。 ・テーマは「TIME」時間、歳月、間、経緯、変化等解釈は自由。 ※他者の著作を侵害する素材は使用しない。
	7	写真構成課題ポスター__03／LIFE	◎制作条件 ・A3（縦横自由）に、5枚以内の自分で撮影した写真と、メッセージ性のある 　連動したテーマのキャッチコピー、200字程度の本文を組み合わせ構成する。 ・制作者名（和・欧自由）は必ずデザインの要素として入れる。 ・その他、コピーやタイトルと連動した素材等表現は自由。 ・テーマは「LIFE」暮らし、生活、家族、人生、いのち等　解釈は自由。 ※他者の著作を侵害する素材は使用しない。
	8	実践課題／青空文庫__01	附属図書館が主催する著作の切れた文学作品の表紙デザインを考案する（作品01） これまでに学んだイラスト、写真、タイポグラフィを駆使して、 自由な表現方法で、課題作品の最も象徴的な場面をタイトルと効果的に編集する ※審査を経て採用作品は次年度に制作され、附属図書館から一般学生に貸し出される
	9	実践課題／青空文庫__02	附属図書館が主催する著作の切れた文学作品の表紙デザインを考案する（作品02） これまでに学んだイラスト、写真、タイポグラフィを駆使して、 自由な表現方法で、課題作品の最も象徴的な場面をタイトルと効果的に編集する ※審査を経て採用作品は次年度に制作され、附属図書館から一般学生に貸し出される
	10	実践課題／青空文庫__03	附属図書館が主催する著作の切れた文学作品の表紙デザインを考案する（作品03） これまでに学んだイラスト、写真、タイポグラフィを駆使して、 自由な表現方法で、課題作品の最も象徴的な場面をタイトルと効果的に編集する ※審査を経て採用作品は次年度に制作され、附属図書館から一般学生に貸し出される
	11	卒業アルバムのデザイン__01	自分たちの学年の卒業アルバムの表紙、およびカバーデザインを考案する。 過年度に提案した事例を参照に、メインんの題材のアイデアスケッチを考案する。
	12	卒業アルバムのデザイン__02	前回考案したアイデアスケッチをもとに、これまでに学んだ写真、イラストレーション、タイポグラフィーを駆使して 表紙、および連動したカバーデザインを作成する。
	13	卒業アルバムのデザイン__03	前回制作したデザインの細部を修正し、提出フォーマットに構成する。 提案作品は、学び支援課、および学生アンケートにて投票を行い 採用作品は、実際に今年度の卒業アルバムとして制作・配布される。
	14	編集デザイン_中級	今回の到達目標：アートボードのページ設定　縦組み・横組み編集　タイトル見出し＋本文等の基本を学ぶ 今回の授業内容：中級編／卒業研究ファイルを題材に、50ページ前後で写真、テキスト、イラスト等の情報を編集する
	15	編集デザイン_上級	今回の到達目標：画像（ipeg png ）の配置／モノクロ2階調TIFF／テキストの行間　文字間　文字列等を習得 今回の授業内容：上級編／卒業研究ファイルを題材に、50ページ前後で写真、テキスト、イラスト等の情

	報を編集する
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度、日常的に一般消費者の立場から、名刺やリーフレット、ウェブサイトの構成など、わかりやすくするための工夫がどこにあるのか、その手順や工夫している点を調査してして次回の授業に備えておくこと。
教科書	教科書は使用しない。
参考図書、教材、準備物等	なし
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業課題の講評、掲示、返却時に個別にアドバイス
評価の配点比率	授業課題100％ 目標①30％　目標②30％　目標③40％
受講上の注意	
教員の実務経験	広告会社制作部でグラフィックデザイナー４年、広告企画制作会社でアートディレクター４年、デザインプロダクションでデザインプロデューサー15年　県内企業を中心に、メディア広告・グラフィックデザインを核としたブランディングコミュニケーション、デザインマネジメントを手がける。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： インテリアデザインⅡ　　授業コード： 1422501

英文科目名称： Interior DesignⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
辻野　由美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		講義	ナンバリング：14D502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、インテリアコーディネーター資格試験のうち、一次試験合格である。 ※一次試験は学科（CBT方式）、二次試験は実技（平面計画・パース・小論文等） 受験予定者を対象に、一次試験に必要な知識を習得する。 主な内容としては、インテリアコーディネーター誕生とその背景、インテリアの歴史、インテリアコーディネーション計画とその表現方法、インテリアエレメント関連知識、インテリアの構造・構法・仕上げ、環境と設備、インテリア関連の法規・規格・制度などである。 これらの知識を学び、人間らしい住まいを考えられる能力を身に付けて、社会で活躍することが最終目的である。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①インテリアエレメントの知識を習得し、インテリアコーディネーションができる	ＤＰ４	25
	目標②人間工学に基づき、バランスの取れた住まいのプランニングができる	ＤＰ６	35
	目標③インテリアコーディネーターの職能とその必要性を理解し、説明することができる	ＤＰ８	20
	目標④インテリア関連法規、建築とインテリアの歴史、建築構造についての基礎的な事項について説明することができる	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：本授業の目的であるインテリアコーディネーター資格試験一次合格に向けた流れについて Part1市場調査・建築とデザインの基礎 1クライアントインタビュー 2環境への取り組み	インテリアコーディネーターの職種及び資格試験についてのガイダンス 第1回目から本論に入るので、授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	2	4インテリアと造形 5建築とインテリアの歴史（前半）	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	3	5建築とインテリアの歴史（後半） 課題：「私の好きなインテリア」コラージュボード作成	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること 課題：自分の好きなインテリア写真をWord等でコラージュする（A3サイズ）
	4	6建築構造の基礎知識 7リフォーム 課題発表：「私の好きなインテリア」コラージュボードプレゼンテーション	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること 課題発表：授業内にグループ分けして自分の好きなインテリアを説明する
	5	Part2 住宅の基本とコーディネーション 8平面計画 Part1理解度確認テスト① 解答20分、答え合せ・解説10分	授業予定箇所の予習を必ずするとともに、Part1についての理解度確認テストを行うので、十分復習をして臨むように 理解度確認テスト①：出題範囲は１回目～４回目の授業内容 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること

	6	家の森モデルハウス見学 課題：見学レポート提出	現地までの往復手段については、要相談とします 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること 課題：見学で学んだこと感じたことなど写真とともにレポート作成
	7	9室内環境計画	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	8	10住宅設備	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	9	11内装材その他の建材	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	10	12造作 13エクステリア	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	11	Part3 インテリア商材の基本とコーディネーション 14色彩 15照明 Part2理解度確認テスト② 解答20分、答え合せ・解説10分	授業予定箇所の予習を必ずするとともに、Part2についての理解度確認テストを行うので、十分復習をして臨むように 理解度確認テスト②：出題範囲は５回目と７回目～１０回目の授業内容 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	12	16家具 17寝装・寝具	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	13	18ファブリックス 19ウィンドウトリートメント 20インテリアアクセサリー	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	14	Part4 表現技法と仕事の流れ 21表現技法 22業務 インテリアコーディネーター資格試験受験に向けたガイダンス	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	15	Part1市場調査・建築とデザインの基礎 3インテリア関連の法規	授業予定箇所の予習を必ずして臨むように 前回の授業範囲から小テスト実施 仁短Moodle内[ふりかえり]へ記述すること
	16	理解度確認総合テスト 解答45分、答え合せ・解説15分	期末テストとして、理解度確認総合テストを行うので、全体を十分復習して臨むように

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回３時間程度の予習・復習が必要。 各回の授業内容についての詳細は、仁短Moodle上に記載する。
教科書	『インテリアコーディネーター合格テキスト』第４版　※2025年2月27日発売予定 監修・著者：町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー 発行所：株式会社エクスナレッジ
参考図書、教材、準備物等	『インテリアコーディネーターハンドブック』　統合版上巻・下巻　最新版 発行所：公益社団法人インテリア産業協会
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題や試験の結果については、その都度フィードバックする 小テスト、理解度確認テスト①、理解度確認テスト②は授業内に解答解説を行う
評価の配点比率	目標①～④共通 小テスト：10%、Part１理解度確認テスト①：20%、Part２理解度確認テスト②：20%、プランニング・レポート課題：20%、理解度確認総合テスト：30%
受講上の注意	この科目は、インテリアコーディネーター資格試験受験を目指すものであり、授業内容のボリュームが大きく、その進行速度も早い。そのために予習・復習は不可欠である。 受講者は少なくとも毎回予定されている授業内容の予習を90分程度して臨むこと。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： インテリアデザイン演習　　授業コード： 1422601

英文科目名称： Exercise of Interior Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
辻野　由美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14D506
添付ファイル			

授業の概要	インテリアコーディネーターの職能に必要である、①CAD作図技術の習得、②３Dマイホームデザイナーでのプレゼンテーション方法についての知識とスキルを高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①インテリアコーディネートに必要なプランニングとインテリア図面が作成できる	ＤＰ４	15
	目標②インテリアコーディネートに必要な知識と技術を身につけて、住まいに関して総合的な事項について説明することができる	ＤＰ６	35
	目標③クライアントの意向を理解し、総合的な知識と的確な対応力をもって、プレゼンテーションする能力を身につけることができる	ＤＰ７	40
	目標④必要な情報を整理し、主体的にインテリアコーディネートに取り組むことができる	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス：本授業概要とインテリアコーディネーター資格試験との関わりについて 家具レイアウト済みマンション平面図をもとに、コーディネートイメージを設定。それに応じた家具・照明・窓まわりなどのコーディネートプランを作成する(全3回その①)	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ 作業内容：CAD図面をPDFデータに変換し、各画像と共にWordを使用しプランボード作成 ※常に前期テキストを復習すること
	2	家具レイアウト済みマンション平面図をもとに、コーディネートイメージを設定。それに応じた家具・照明・窓まわりなどのコーディネートプランを作成する(全3回その②) ※各自作業につき、個別で確認・指導する	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ 作業内容：CAD図面をPDFデータに変換し、各画像と共にWordを使用しプランボード作成 ※常に前期テキストを復習すること 課題：第４回授業までにクライアントを設定しどのように住みたいかをヒアリングする
	3	家具レイアウト済みマンション平面図をもとに、コーディネートイメージを設定。それに応じた家具・照明・窓まわりなどのコーディネートプランを作成する(全3回その③) ※各自作業につき、個別で確認・指導する	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ 作業内容：CAD図面をPDFデータに変換し、各画像と共にWordを使用しプランボード作成 ※常に前期テキストを復習すること プラン完成後、仁短Moodleへ提出 課題：第４回授業までにクライアントを設定しどのように住みたいかをヒアリングする
	4	マンション平面図（レイアウトなしスケルトン）に対して、クライントを設定し、人間工学に基づきコーディネート(全3回その①) JW-CADの使い方を学び、家具等をCADで作図する	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ ※常に前期テキストを復習すること
	5	マンション平面図（レイアウトなしスケルトン）に対して、クライントを設定し、人間工学に基づきコーディネート(全3回その②) JW-CADの使い方を学び、家具等をCADで作図する ※各自作業につき、個別で確認・指導する	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ ※常に前期テキストを復習すること

	6	マンション平面図（レイアウトなしスケルトン）に対して、クライントを設定し、人間工学に基づきコーディネート(全3回その③) JW-CADの使い方を学び、家具等をCADで作図する ※各自作業につき、個別で確認・指導する	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ ※常に前期テキストを復習すること
	7	４回目～６回目で作成したCAD平面図をもとに、画像等コラージュしてプレゼンテーションボードを作成する。(全2回その①)	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ 作業内容：CAD図面をPDFデータに変換し、各画像と共にWordを使用しプランボード作成 ※常に前期テキストを復習すること
	8	４回目～６回目で作成したCAD平面図をもとに、画像等コラージュしてプレゼンテーションボードを作成する。(全2回その②)	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ 作業内容：CAD図面をPDFデータに変換し、各画像と共にWordを使用しプランボード作成 プラン完成後、仁短Moodleへ提出 ※常に前期テキストを復習すること
	9	インテリアイメージスケール作成 ソファ、チェア、照明、グリーンなどからひとつのアイテムを選択し、色・かたち・素材などを分析してイメージスケールにかける	インテリアコーディネート＆プレゼンテーション技術を学ぶ 作業内容：インテリアアイテムをイメージスケール上にレイアウトし、曖昧なインテリアセンスを整える プラン完成後、仁短Moodleへ提出 ※常に前期テキストを復習すること
	10	３Dマイホームデザイナー操作説明 ４回～６回で作成したCAD平面図を３Dで立ち上げ	３Dマイホームデザイナーの基本操作を学ぶ
	11	最終課題(後期試験扱い)：CAD作図と３Dソフトによるプレゼンテーション作成(全4回その①) ※インテリアコーディネーター資格試験２次試験問題から設定	人間工学等の知識習得レベルの確認を目的とする
	12	最終課題(後期試験扱い)：CAD作図と３Dソフトによるプレゼンテーション作成(全4回その②) ※インテリアコーディネーター資格試験２次試験問題から設定	人間工学等の知識習得レベルの確認を目的とする
	13	最終課題(後期試験扱い)：CAD作図と３Dソフトによるプレゼンテーション作成(全4回その③) ※インテリアコーディネーター資格試験２次試験問題から設定	人間工学等の知識習得レベルの確認を目的とする
	14	最終課題(後期試験扱い)：CAD作図と３Dソフトによるプレゼンテーション作成(全4回その④) ※インテリアコーディネーター資格試験２次試験問題から設定	人間工学等の知識習得レベルの確認を目的とする
	15	インテリアパース（透視図）手書き作成の指導 ※インテリアコーディネーター資格試験２次試験対策	手書きでのスケッチパースはクライアントへ説明する際に役立つため習得する 前期テキスト内、特に[Part２]・[Part３]について予習のこと

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前事後学習1時間程度
教科書	インテリアデザインⅡで使用した『インテリアコーディネーター合格テキスト』第４版　※2025年2月27日発売予定 監修・著者：町田ひろ子インテリアコーディネーターアカデミー 発行所：株式会社エクスナレッジ も引き続き使用する。
参考図書、教材、準備物等	『インテリアコーディネーターハンドブック』　統合版上巻・下巻　最新版 発行所：公益社団法人インテリア産業協会
課題（試験・レポート等）のフィードバック	CADでの作図や３Ｄ製作はその都度必要に応じて個別に指導する。 プレゼンテーション課題は仁短Moodleへ提出とし、個別に添削・評価する。
評価の配点比率	目標①～④：実技課題：60%、プレゼンテーション力：30%、受講姿勢：10%
受講上の注意	インテリアデザインⅡを受講した学生を対象とします。前期で習得したインテリアの基礎知識をもとに、平面図・展開図等のCAD作図技術・３Ｄソフトでのプレゼンテーション作業を中心とした授業構成となります。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： テキスタイルデザイン　　授業コード：1422701　1422702

英文科目名称： texitile design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
前田　博子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14D503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、テキスタイル制作における基礎的な技法を身につけながら、持続可能なモノづくりについて考察する力を身につけることです。 実際につくることを通してファッション業界が抱える問題に気づき、解決策について深く考え、自ら行動する姿勢を養う。 作業の効率上、集中授業を実施する場合があります。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①布の染色方法を知っている。	ＤＰ４	20
	目標②問いに対して多面的な情報を収集できる。	ＤＰ５	20
	目標③自身の立てた問いに対して自身の考えを述べることができる。	ＤＰ６	10
	目標④調べたことをもとにレポートを作成できる。	ＤＰ７	20
	目標⑤社他者と協力して作業ができる。	ＤＰ10	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ニードル／体験	ニードル技法を用いてブローチをつくる。
	2	ニードル／実践	前回の振り返りを生かして、ニードル技法を用いてブローチをつくる。 まとめレポートの提出。
	3	染め／染料の準備	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。
	4	染め／引き染め	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。 まとめレポートの提出。
	5	染め／引き染め（混色）	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。
	6	染め／引き染め（のこりもの）	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。 まとめレポートの提出。
	7	染め／定着・水洗	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。
	8	私たちの流行色／相談	着なくなった衣服を持参してください。 まとめレポート提出。
	9	染め／植物染料準備	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。
	10	染め／植物染料	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。 まとめレポート提出。
	11	私たちの流行色／準備、染め	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。
		私たちの流行色／染め、定着	染料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、

	12		作業着）で受講してください。 まとめレポート提出。
	13	プリント／版制作	顔料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。
	14	プリント／顔料準備	顔料を使用するので、汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。
	15	プリント／定着	これまでの課題を通して、身近な衣服はどのような技法で作られているのかを考察する。 まとめレポート提出。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	次課題に入る前には事前にどのようなものがあるのかについて調べておくこと。 授業時間内に終えられなかった課題については1時間程度作業を進めておくこと。
教科書	特になし
参考図書、教材、準備物等	準 備 物：スケッチブック、裁縫道具、筆記用具など制作に必要なものは各自で準備。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	事前調査資料や制作した作品を「まとめレポート」にまとめ課題終了後に毎回提出すること。 まとめシートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。 成績評価を含め、質問等がある場合は電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①主体的な制作姿勢　20% 目標②レポート　20% 目標③レポート　10% 目標④レポート　20% 目標⑤制作態度による協働性　30%
受講上の注意	染料を使用するので汚れても良い格好（エプロン、作業着）で受講してください。 授業時間内に終えられなかった課題については1時間程度作業を進めておくこと。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： クラフトデザイン　　授業コード： 1422801

英文科目名称： Craft Design

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
古木　晶子			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14D504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、自らのイメージを形に表現し、他者が身につける物として完成させる技術の取得である。 ガラス工芸の日本内外での歴史・その種類に造詣を深め、いくつかの基本的技術を学習し、とんぼ玉およびフュージング等でガラスパーツを制作する。 それらを用い、アクセサリー作りの手法・道具などについて基礎を身につけ、「贈るアクセサリー」の制作を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ガラス工芸の歴史を理解できる。	ＤＰ２	5
	目標②ガラス工芸の種類と特性を理解できる。	ＤＰ２	5
	目標③ガラスカッターなど道具を安全・適切に使用することができる。	ＤＰ４	10
	目標④ガラスの特性を理解し自分のイメージをガラスとして表現できる。	ＤＰ４	10
	目標⑤身につける対象・TPOを考えて、主体的にアクセサリーづくりができる。	ＤＰ６	20
	目標⑥アクセサリー作りの基本的な技術を作品に反映することができる。	ＤＰ６	20
	目標⑦自分のコンセプト・考えをわかりやすく伝える事ができる。	ＤＰ７	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：情報技術に関する知識・技能を身につけている。 ＤＰ４：デザイン表現に関する知識・技能を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガラス工芸史を学習する。	メソポタミアから始まるガラスの歴史がどのように発展し日本に持ち込まれたかを資料を用いて学習し理解する。 プリント資料配布。
	2	ガラス工芸の種類とその広がりを学習する。	メソポタミアで生まれた最古のガラス器の制作方法から現代の急速に展開している酸素バーナーを用いるガラス工芸まで実際の作品を見ながら学習する。 実際の制作風家のを動画をみて学習する。 提出物①：確認プリント（授業を聞いているとわかるごく簡単なものです） ここでの内容をこの先の授業内容で実践・確認していくので資料は都度持参してほしい。
	3	ホットワーク・フュージング①板ガラス	キルンワークは電気炉を使いガラスを変形して形成するガラス工芸の一つである。 授業ではまず工芸としてのキルンワークの歴史について学習し実際ガラス片を固定する作業を行う。 ガラスの特性がわからないと変形・変色などの原因となるので確認しながら作業を行う。 セットしたガラスを電気炉で焼成する。 熱で溶着すると変形するさまを確認しガラスの熱変化について学習する。 板ガラスをガラスカッターを用い切断する。 ガラス切断は手を切ることもあるため十分気をつける。

	4	ホットワーク：とんぼ玉 アクセサリー基本技術①： 身につける物を作ることについてのレクチャー／金具を使わずコードを結んで作るアクセサリー	実際に火を使ってとんぼ玉を制作することが出来ないので、とんぼ玉はこちらが用意します。 （制作工程は動画を見て学習する） 基本的なアクセサリーを仕立てるための道具・材料の使い方を学ぶ。 世代・性別・TPOによって素材や仕立て方が違うことを学習。自分の手を離れたものが安全に使われるために気をつけることなどについて考える。金具を使わず着脱できるアクセサリーを制作するためコードの編み方結び方を中心に学習する。 提出物②：基礎技術で制作したネックレス。コードの結び方を理解しているか確認する。
	5	ホットワーク： フュージング②ミルフィオリとレース棒を使用する／クリアガラスを用いてのモザイクペンダントトップの制作	プライヤーを使用してミルフィオリ（花模様のガラスパーツ）を切断し焼成をおこなう。
	6	アクセサリーの基礎技術②：基本的な材料と道具を使うアクセサリー	商品として人の手に渡るアクセサリーは制作者の見えないところで使用される。 適切な材料を用い細部を丁寧にしあげないと、壊れやすいものに仕上がったり思わぬけがの原因となることもある。 ここではそれらのことを学習し、基本的な金具と道具の種類とその使い方を身につける。制作中にケガをする事例もあるのでそれらについてもしっかり学習する。
	7	前回制作したフュージングパーツの始末について／	フュージング①で作成したパーツの使用方法について学習する。 裏面や側面の処理について。 接着剤を用いるが接着剤に一般的なものからガラス工芸に特化したものまで様々な特性がある。材料の基礎とともにこちらの基礎も学習する。 ガラスには複数の種類があり、それに伴い特性が違う。それらの学習を通しガラス工芸について改めて理解を深める。
	8	アクセサリー応用技術①：ガラス以外の素材との組み合わせ／金具とアレルギー・安全に身に着けるために気を付けることは何か？	なぜ人はアクセサリー／身につけ身を飾るものを欲するのかを考え学習する。 金属パーツや自然素材などガラス以外の素材との組み合わせを通し自分の思いを表現することについて学習する。 また身につけるものには避けて通れない「アレルギー」について、体が思うように動かせない人が身につけるものを作ることについて意見を交換したい。
	9	フュージング③：自由制作	①②での基本的なフュージングでの制作を踏まえ、小さな模様のガラスモザイクパーツと板ガラスの組あわせによる制作を行う。 制作した物は提出物③としてフュージングへの理解があるか確認・評価対象。
	10	イメージを形にする	モノづくりをする時にはターゲットにする性別・年齢層・生活などについて具体的に想定することが大切になる。 こちらから「ある人物X」についてその人物像を提示し、それに沿ってその人が身につけるアクセサリーを制作する。授業内容８も踏まえ、人物像のどの情報をどのように膨らませてもよい。情報から制作へとつなげる工程を実践し学習する。
	11	講評と意見交換	前回授業10で制作したアクセサリーについて、互いに発表しあい、意見交換をする。 アクセサリーにつかった材料の使い方は適切かも含め、互いに確認しあう。人の作品を通して自分の作品の足りないところ、改善できるところについて考える力をつける。 提出物③：制作した作品と制作意図についてのプリント（メモ程度の簡単なものです）
	12	コールドワーク：ミクロモザイク （授業内容２の内容を踏まえ制作・確認） ホットワーク以外の工芸を学習する。	ガラス片を並べて粘土などで固定し模様を作る14－15世紀イタリアのガラス工芸を実践する。 ミクロモザイク技法を通しローマ時代のモザイクガラスなどガラス工芸の幅広さと歴史を今一度理解する。 バーナーワーク・キルンワーク・コールドワークと、ガラス工芸の３種類をそれぞれ学習した。それぞれの特性と成り立ちを授業内容②を振り返り今一度理解する。
	13	アクセサリー応用技術②：「自分以外の誰かに贈るアクセサリー」の制作	自分以外の誰かに贈るアクセサリーを考え仕立てる。 ガラス以外の素材との組み合わせを考える。 アクセサリーそのものを制作してもよい、また再度フュージングの制作をしたいものはそれも可。 授業内容⑩を踏まえ「自分以外の誰かに贈るアクセサリー」の制作に取り組む。 提出物④：制作物に対する講評用のプリント　講評会までに提出。

	14	アクセサリー応用技術③：「自分以外の誰かに贈るアクセサリー」の制作	授業内容⑬と同じく。二時間続けての制作となる。
	15	講評	提出物⑤「自分以外の誰かに贈るアクセサリー」を提出し、 プレゼンテーションをする。 それとともに提出物④をふまえての質疑応答・講評を行う。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	小さい金属片やガラス片がでる作業です。髪の毛や洋服につかないようにエプロンの使用、髪をまとめるなどの対処を推奨します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出物①について：ガラス工芸史（日本国内での発展について）の簡単なレポートを提出。 提出物②について：提出物は採点し返却。次回授業で解説をする。 提出物③について：提出物は採点し返却。次回授業で解説をする。 提出物④について：講評会の場で各々の発表のあとこちらから質問、それを踏まえて解説・意見交換をする。 提出物⑤について：上記同様それを踏まええて解説。
評価の配点比率	提出物① 目標①５％　目標②５％ 提出物② 目標③５％ 提出物③ 目標③5% 目標⑤5% 提出物④⑤ 目標④イメージを伝えるためのアプローチ10% 目標⑤対象、TPOの考慮度15% 目標⑥基本技術の反映度20% 目標⑦プレゼン力15% 目標⑦プリントの内容15%（※提出物④）
受講上の注意	溶けて形を変える素材にはなかなか出会えないと思います。直接触って微調整することもできません。思い通りにならない素材ではありますが思いがけない美しさに出会うこともあります。今回は電気炉をしようしたガラス工芸を制作します。メソポタミアから続くガラス工芸の歴史も学習しましょう。どんな人がどんなふうに身につけるかを考えて、その人だけのアクセサリーに仕立てましょう。道具を使い自分で直す技術も同時に身につけてください。自分を表現することと相手を思いやることの両方を大切にできる物づくりを学んでもらいたいです。
教員の実務経験	バーナーワークでのガラス装飾品（とんぼ玉のアクセサリーや和装小物）、ガラスのモチーフを使ったシルバージュエリー、コアガラスという世界最古のガラス器製作法による冷酒杯・香合などの制作、ギャラリーやデパートなどでの個展・常設展示、といった実務経験を生かし、バーナーによる制作技術のほか、アクセサリーの制作方法、身につけるアクセサリーを作るための基本的な知識、技術、注意点などを講義する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： インターンシップ　　授業コード： 1422901

英文科目名称： Internship

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
集中講義	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
野本　尚美			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14Z501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、インターンシップを通して、キャリアを形成する心構えを身につけることである。 そのため、「ふくいインターンシップ」（合同企業ガイダンス、事前研修会、インターンシップ、事後研修会）や伝統工芸職の就業を体験する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①論理的・合理的に考える。	ＤＰ５	20
	目標②問題に対して的確な判断を行う。	ＤＰ６	20
	目標③傾聴し、自らの考えを伝える。	ＤＰ７	20
	目標④主体的に行動する。	ＤＰ８	20
	目標⑤多様な文化や考えの意義を理解する。	ＤＰ９	10
	目標⑥仕事場の一員として協働する。	ＤＰ10	10

本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	
	2	インターンシップの説明	
	3	合同企業説明会	インターンシップフェア
	4	事前研修	振り返りシートを提出する
	5	インターンシップ	４コマ×３日
	6	事後研修会	ワークシートを提出する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	報告書に関しては、仁短Moodleにてフィードバックする。
評価の配点比率	目標①～⑥：振り返りシート20%、ワークシート30%、インターンシップ報告書50%
受講上の注意	
教員の実務経験	

アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 専門演習

英文科目名称： Seminar

授業コード： 1423001 1423002 1423003 1423004 1423005 1423006 1423007

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
野本　尚美・木内　貴子・澤崎　敏文・田中　洋一・辻岡　和孝・前田　博子・吉村　正照			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目	秘書士資格選択	演習	ナンバリング：14Z502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、チームで協働的に問題を解決する能力を身につけることである。 グループによるプロジェクト活動を通して、研究法やコミュニケーション方法を学ぶ。グループごとに課題を調査し、その課題に対して企画立案、企画実行し、自己評価・相互評価を経て、改善案を探り、報告書にまとめる。この授業での学習を卒業研究へとつなげていくことがねらいである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①研究テーマに合った研究法や研究デザインを考えられる。	ＤＰ５	20
	目標②根拠にもとづき、判断できる。	ＤＰ６	20
	目標③傾聴し、自らの考えを伝えられる。	ＤＰ７	20
	目標④主体的に行動することができる。	ＤＰ８	20
	目標⑤多様な文化や考えの意義を説明できる。	ＤＰ９	10
	目標⑥チームで目標を共有し、メンバーを支援することができる。	ＤＰ10	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス	※毎回、事後学習で次回までの課題を行う。
	2	研究テーマの検討	
	3	研究テーマとグループの決定	
	4	先行研究の調査（１）インターネット	
	5	先行研究の調査（２）書籍	
	6	先行研究の調査（３）論文	
	7	研究の方法（１）アンケート	
	8	研究の方法（２）インタビュー	
	9	研究計画の作成	
	10	データの収集	
	11	データの分析	
	12	データの考察	
	13	発表資料の作成	
	14	中間発表、相互評価	
	15	前期のまとめと後期研究計画	
	16	研究の振り返り	
	17	調査研究（１）	
	18	調査研究（２）	

	19	調査研究（３）	
	20	発表資料の作成	
	21	中間発表、相互評価	
	22	研究計画の修正	
	23	プロジェクト活動Ⅰ	
	24	プロジェクト活動Ⅱ	
	25	研究要旨の作成	
	26	発表資料作成	
	27	最終発表、相互評価	
	28	自己評価、改良	
	29	報告書作成（１）	
	30	報告書作成（２）	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。
教科書	向後千春『インストラクショナルデザイン研究法-卒論につながる３つの研究方法【2010年版】』 http://kogolab.chillout.jp/textbook/2010_IDK.pdf（参照2017/1/23 ）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：松井豊『改訂新版　心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために』（河出書房新社2010）. 教材：ジェネリックスキルPROGテスト（別途、受験料を回収する）.
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。紙での提出物は、適宜返却するか、すべてPDF化して学習支援システム（Moodle）上に返します。卒業研究の方法論を学ぶため、遅刻・欠席はせず、事後学習にしっかりと取り組むこと。成績評価を含め、質問等がある場合は、担当教員の研究室前に掲示してあるオフィスアワー等を利用するか、電子メールで連絡してください。
評価の配点比率	目標①研究計画書及び修正10%、報告書10% 目標②中間発表及び最終発表5%、報告書15% 目標③中間発表及び最終発表10%、報告書10% 目標④中間発表及び最終発表20% 目標⑤中間発表及び最終発表5%、報告書5% 目標⑥中間発表及び最終発表10%
受講上の注意	卒業研究指導担当者から卒業研究のための方法論を学ぶ科目ですから、主体的に取り組んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 卒業研究　　授業コード： 1423101

英文科目名称： Graduation Research

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	必修
担当教員			
田中　洋一			
生活科学学科　生活情報デザイン専攻専門科目		演習	ナンバリング：14Z503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、課題を探求する能力を身につけることである。 卒業研究を通して、問題を発見し、発見した問題に対する探究の方法を学び、問題を解決していく総合的な知識・技能・態度を学習する。 ※時間割の中には、授業を組まない。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①先行研究にもとづき、卒業研究のテーマ及び研究法を論理的・合理的に考えられる。	ＤＰ５	20
	目標②卒業研究における問題を解決するため、的確に判断できる。	ＤＰ６	20
	目標③他者の意見を傾聴し、自らの考えを伝えられる。	ＤＰ７	20
	目標④主体的に卒業研究に取り組むことができる。	ＤＰ８	20
	目標⑤多様な文化、多様な人や考えの意義を説明できる。	ＤＰ９	10
	目標⑥卒業研究の目標を実現するため、他者と協働し、リーダシップを発揮できる。	ＤＰ10	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：社会生活において、課題を発見するための論理的な思考力を身につけている。 ＤＰ６：社会生活において、課題を解決するための合理的な判断力を身につけている。 ＤＰ７：社会生活において、他者の声に耳を傾けて、自らの考えを伝える表現力を身につけている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：主体的に行動し、自らのキャリアを形成する態度を身につけている。 ＤＰ９：多様な文化や考えを理解し、共生する態度を身につけている。 ＤＰ10：地域社会や組織の一員であることを自覚し、チームで協働する態度を身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		情報技術・マネジメント技法・デザイン表現の分野についての研究を行う。研究はグループごとに主題を定め、指導教員の指示に従い、主として演習形式で行うが、主題によっては異なった形式で行う場合もある。下記の計画は、専攻全体で実施する。	卒業研究指導担当者ごとに、自主学習に関する指導がある。
		10月～11月：卒業研究中間発表会 1月末：卒業研究要旨、卒業研究成果物の提出 2月中旬：卒業研究発表会	卒業研究指導担当者ごとに、自主学習に関する指導がある。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回、１時間程度の予習・復習が必要です。		
教科書	向後千春『卒業研究はじめの一歩【2010年版】』http://kogolab.chillout.jp/textbook/2010_sotsuken.pdf（参照2017/1/23 ）		
参考図書、教材、準備物等	参考図書：都筑学『心理学論文の書き方-おいしい論文のレシピ』（有斐閣2006）、松井豊『改訂新版　心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために』（河出書房新社2010）		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては第1回目のガイダンスで説明します。質問等がある場合は、担当教員の研究室前に掲示してあるオフィスアワー等を利用するか、電子メールで連絡してください。 卒業研究は履修規程第15条の通り、卒業研究成果物（卒業論文、卒業作品等）の提出、卒業研究要旨の提出、卒業研究発表会での発表の３つすべてが修了したうえで評価を行う。課題のフィードバックは、卒業研究指導担当者ごとに行う。		
評価の配点比率	卒業研究成果物50%（目標①～③、⑤）、卒業研究要旨・発表50%（目標①～⑥）		

受講上の注意	他の科目内容を統合し、総合的に研究する科目ですから、主体的に取り組んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　人間と仏教Ⅱ　　授業コード：2120101

英文科目名称：　BuddhismⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	必修
担当教員			
CI委員長			
幼児教育学科　教養科目		演習	ナンバリング：20A102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、宗教行事や講演など様々な活動を通して、建学の精神「仁愛兼済」の生き方を育み、学園是「和敬・精進・反省」の実践力を養うことである。 ※キャンパスカレンダーに記載されたＡＨの日を具体的な活動の場とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①仁愛学園の建学の精神について理解する。	ＤＰ７	25
	目標②仁愛学園の歩みについて説明できる。	ＤＰ７	25
	目標③「仁愛兼済」を実践する姿勢を身につける。	ＤＰ８	25
	目標④自らを振り返る態度を身につける。	ＤＰ９	25
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	1年次 4月　2年後の理想像と1年次前期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の説明及び記入
	2	4月　降誕会	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加
	3・4	5月　開学記念	※詳細は後日連絡
	5	5月　理事長講義	レポート提出
	6	9月　1年次前期の自己評価と後期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	7	11月　成道会	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加『充実した学生生活を送るために』の記入
	8	1月　讃仰会（追弔会）	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加
	9	先輩に学ぶ【オンデマンド】	感想シート提出
	10	4月　1年次後期の自己評価と2年次前期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	11	4月　降誕会	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加
	12・13	5月　開学60周年記念	※詳細は後日連絡
	14	9月　2年次前期の自己評価と後期の目標設定【オンデマンド】	『充実した学生生活を送るために』の記入
	15	11月　成道会	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加
	16	12月　讃仰会（追弔会）／振り返りテスト	感想シート提出 式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加

	17	1月　同輩に学ぶ・2年間の自己評価【オンデマンド】	感想シート提出 『充実した学生生活を送るために』の記入

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	日常生活のなかで、常に仁愛の自覚を持ち、兼済の実践に努めること。また、課題の作成に多くの時間が必要になる。そのため、毎回60分程度の事前事後学習が必要。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『礼讃抄』2017（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『和』2022（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートに関しては、LMS（仁短Moodle）を用いてフィードバックする。成績評価を含め、質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。
評価の配点比率	目標①第1回レポート（15%）振り返りテスト（10%） 目標②第2回レポート（15%）振り返りテスト（10%） 目標③感想シート、『充実した学生生活を送るために』（25%） 目標④感想シート、『充実した学生生活を送るために』（25%）
受講上の注意	AHは式典にふさわしい衣服を着用し、学章・念珠を持って参加すること。ただし、5月の開学記念日は除く。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会活動実践　　授業コード： 2120201

英文科目名称： Social Activities

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
CI委員長・総合学務センター長・総合学務センター次長			
幼児教育学科　教養科目		演習	ナンバリング：20A501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、建学の精神に基づき、自らが他者のために働き出す実践的活動を行うことである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①ボランティア活動などを通して、地域社会に貢献することができる。	ＤＰ７	20
	目標②ボランティア活動の事前準備をすることができる。	ＤＰ８	10
	目標③活動を通して感じたことをレポートすることができる。	ＤＰ９	70
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】		
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		単位認定の方法 　本科目の単位認定は、通常の科目のように教員の作成したシラバスに基づいて実施されるものではなく、在学期間中に学生が自ら主体的に取り組んだ30時間以上の活動（ボランティア活動、地域支援活動、福祉活動、学習支援活動、NPO活動、国際貢献活動など）について単位を認定するものである。	
		活動後、所定の用紙（社会活動実践記録・単位認定申請書、社会活動実践レポート用紙）に活動内容、感想を記入し、資料と共に学び支援課に提出して認印を受ける。申請書類の提出をもって履修登録を兼ねることとする。	所定の用紙は学び支援課で受け取ること。
		活動を証明する資料提出が困難な場合は、所定の用紙に活動先責任者の証明をもらうこと。また学生が多数で取り組んだ場合には、活動の指導者または責任者が取りまとめて申請することも可とする。ただし、レポート用紙は学生各人が提出しなければならない。	
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	ボランティア終了後60分程度、習得した内容等の振り返りが必要。		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	使用しない		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートは、評価後にフィードバックする。質問等がある場合は、電子メールやMoodleメッセージ等で担当教員へ連絡すること。		
評価の配点比率	目標①②③レポート（100%）		
受講上の注意			

教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 人間と文学　　授業コード： 2120301

英文科目名称： Human Being and Literature

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
前田　敬子			
幼児教育学科　教養科目		講義	ナンバリング：20B501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、児童文学、短歌、詩に触れることや、自作表現を鑑賞し合うことによって、文学鑑賞力を高めるとともに、自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身に付けることである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①短歌、童謡の魅力や良さを語ることができる。	ＤＰ３	20
	目標②作品のいくつかを暗唱することができる。	ＤＰ４	30
	目標③自分の生き方や社会との関わり方を支える文学の意義と効用を理解し、自らの生活に活かすことができる。	ＤＰ９	10
	目標④自ら言葉を大切にし、読み書き、音声の表現が的確にできる。	ＤＰ７	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	文学の魅力　金子みすゞの生涯（1）	各自、これまでの文学経験を語り合おう（発表内容が評価対象）。
	2	金子みすゞの生涯（2）	作品の魅力を知る。
	3	金子みすゞの生涯（3）	作品のテーマや工夫を知る。
	4	金子みすゞの作品に親しもう。	好きな作品を選び、感想を伝え合おう。また、作品を声に出して読んでみよう。（発表の技能は評価対象）
	5	金子みすゞと西條八十	韻律になれ、声に出して読もう。（発表の技能は評価対象）
	6	金子みすゞと北原白秋	韻律になれ、声に出して読もう。（発表の技能は評価対象）
	7	山川登美子について調べよう。	グループごとに山川登美子について調べ、プレゼンテーションをする。（発表内容・技能ともに評価対象）
	8	山川登美子の歌を暗唱しよう。	好きな歌を紹介し合う。
	9	山川登美子の歌への理解を深めよう（1）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（1）（まとめられた感想は後日のレポートにつながり、評価対象）
	10	短歌を詠み、互選しよう	共感できる歌、工夫されている歌について話し合おう。（発表内容は評価対象）
	11	山川登美子の歌への理解を深めよう（2）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（2）（まとめられた感想は後日のレポートにつながり、評価対象）
	12	山川登美子の歌への理解を深めよう（3）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（3）（まとめられた感想は後日のレポートにつながり評価対象）
	13	山川登美子の歌への理解を深めよう（4）	『恋衣』全体を通読し、自分と結びつけて感想をまとめる（4）（まとめられた感想は後日のレポートにつながり、評価対象）
	14	山川登美子の晩年の歌を知る。	山川登美子を「明星」や故郷と結び付けて理解しよう。
	15	学びの成果をまとめよう	文学から受けた印象を様々な形で表現してみよう。（表現されたものが評価対象）

	15		作品制作とレポート作成に３時間程度を要する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	テキストの下読みや暗唱、作品創りやプレゼンテーションの準備などに、毎時間３時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	青空文庫『恋衣』（底本：「恋衣 名著復刻 詩歌文学館」日本近代文学館 1980（昭和55）年4月1日発行）
参考図書、教材、準備物等	新装版『金子みすゞ全集』Ⅰ～Ⅲ（ＪＵＲＡ出版局）、矢崎節夫『みんなを好きに金子みすゞ物語』（ＪＵＲＡ出版局2009）、逸見久美『恋衣全釈』（風間書房2008）、坂本正親編著『山川登美子全集』上下巻（文泉堂出版1994）など
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組みに関しては第１回のガイダンスで説明する。自主的に関連図書を通読することが望ましい。授業では臆せずに、感じた疑問や感想を発言するようにしてほしい。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーなどを利用して連絡すること　授業中の感想のまとめ、短歌や詩の創作、最終レポートはコメントとともに返却する。
評価の配点比率	目標①授業中の発表内容や感想のまとめ20% 目標②作品の暗唱30% 目標③短歌・詩の創作10% 目標④最終レポート40%
受講上の注意	時代は変わっても、人の心はそれほど大きくは変わらない。文学的な表現にふれて、言葉の美しさ、感覚の豊かさ、思考の深さを感じてみよう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 福井地域学　　授業コード： 2120801

英文科目名称： Science of Fukui area

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
南保　勝			
幼児教育学科　教養科目		講義	ナンバリング：20B502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、地域経済を歴史的・文化的視点から考察し、社会人としての教養を磨くとともに、地域のあるべき姿を考えることである。 そのために、以下３つの視点を学ぶ。 １．福井県はどのように成立し、近世、明治期の福井県にはどのような産業が栄えたか（過去）。 ２．そして現在、福井県の経済、それを支える産業・企業・地域人のすごさとは（現在）。 ３．その上で、今後求められる地域のあるべき姿、地方創生を考える（未来）。 テキストをベースに、授業計画に沿って進める。各講義の終わりに当日の講義の復習も兼ねた「演習」に取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①地域経済を歴史的・文化視点で考察できる。	ＤＰ３	30
	目標②地域の産業・企業・県民生活等、地域経済の特徴が説明できる。	ＤＰ３	15
	目標③地域経済・産業・企業等の未来について述べることができる。	ＤＰ８	15
	目標④地域活性化の方向性を示すことができる。	ＤＰ８	30
	目標⑤地域の課題に対し自己の主張が述べられる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	
授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス。福井県はどのように成立したか。	「継体天皇」と「越国」、近世・幕末へ、福井県の誕生について
	2	近世、明治期における福井県の産業	日本屈指の工業地域、和釘の生産では日本最大
	3	福井県経済の今（その1）	地域の経済規模、人口、産業
	4	福井県経済の今（その2）	労働、県民性、歴史から生まれたライフスタイル
	5	歴史で辿る市まちの姿（その1）	あわら市、坂井市、福井市、大野市、勝山市
	6	歴史で辿る市まちの姿（その2）	鯖江市、越前市、敦賀市、小浜市
	7	製造業（その1）	繊維産業、めがね産業
	8	製造業（その2）	化学、機械・金属、伝統的工芸品産業
	9	非製造業	商業・サービス業、建設業、転換期の原子力産業
	10	地域企業の特徴（その1）	意外と多い長寿企業
	11	地域企業の特徴（その2）	外発型企業群、小規模企業の技術水準の高さ
	12	地方創生に向けて（その1）	地方創生とはいったいどうゆう意味か
	13	地方創生に向けて（その2）	地方創生に向けて、官民が成すべきこととは
	14	総括（その1）	1回目講義～6回目講義までの復習
	15	総括（その2）	7回目講義～13回目講義までの復習
定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回の授業に合わせて、教科書の該当箇所を事前学習しておくこと（3時間程度）		
教科書	南保勝著「地域再生の未来像」[2023.3]晃洋書房		

参考図書、教材、準備物等	南保勝著「福井地域学」[2016.3]晃洋書房
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業への取り組み方については、1回目のガイダンスで説明します。授業終了前に実施する演習は、評価の対象とするため真面目に取り組み提出すること。試験等は、評価後にフィードバックする。疑問点、質問などは、Eメール(nambo@fpu.ac.jp)、Moodleメッセージで連絡ください。
評価の配点比率	目標①　筆記試験出題数50問のうち30% 目標②　筆記試験出題数50問のうち15% 目標③　筆記試験出題数50問のうち15% 目標④　筆記試験出題数50問のうち30% 目標⑤　授業終了後毎回実施する演習10%
受講上の注意	本講義を通して福井県の地域特性を少しでも理解し、社会人として活かしてほしい。
教員の実務経験	地方銀行及びそのシンクタンクで学んだ実践的な経済学、経営学を活かして、福井地域学という領域学を確立したが、その福井地域学でまとめた地域の歴史、文化、伝統、産業、暮らしなど地方創生にも関連する必要知識を教示し、地域愛を育てる。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 芸術と文化　　授業コード： 2120701

英文科目名称： Art and Culture

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
重村　幹夫			
幼児教育学科　教養科目		講義	ナンバリング：20B101
添付ファイル			

授業の概要	西洋の15世紀から20世紀までの美術史上重要な絵画を、同一主題（宗教的、世俗的）や同一画家の生涯における変遷などで比較したり、VTS(視覚方略）の手法で観察して、様式の変化等の意見を出し合う。 その後、個別の芸術家の生涯や、文化的、歴史的背景、造形性、技法等多様な観点から、理解のためのキーワードによるワークシートを用い調べ発表することで、作品を深く理解するとともに、様々な表現に対して自分なりの考えを持つことが出来る様にする。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①造形性を中心とした、多様な観点から作品を鑑賞することが出来る。	ＤＰ４	40
	目標②他人の意見を参考にしながら、自分の意見を述べることが出来る。	ＤＰ６	20
	目標③グループで協働して作品について研究・発表することが出来る。	ＤＰ８	40

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第1回	オリエンテーション、今後の調査画家の概要を同一主題（宗教的、世俗的）等で比較する	学習内容の概要、配点、留意事項 VTSによる導入と研究発表例示
	第2回	ファン・アイク　即物的な迫真性と象徴	発表後ワークシートへ記入する
	第3回	ボッティチェルリ　装飾性と時間表現	発表後ワークシートへ記入する
	第4回	ベラスケス　筆触と空間表現	発表後ワークシートへ記入する
	第5回	レンブラント　経年変化とマチエール、内容表現の深化	映画「レンブラントは誰の手に」を視聴してその評価を知る 発表後ワークシートへ記入する
	第6回	フェルメール　光の表現と暗箱	映画「真珠の耳飾りの少女」カメラオブスクラの制作 発表後ワークシートへ記入する
	第7回	ゴヤ　宮廷画家と黒い絵	発表後ワークシートへ記入する
	第8回	クールベ　社会派リアリズム	発表後ワークシートへ記入する
	第9回	マネ　絵画の平面性	発表後ワークシートへ記入する
	第10回	モネ　印象派	発表後ワークシートへ記入する
	第11回	ゴッホ　筆触や色彩による内面表現	発表後ワークシートへ記入する
	第12回	マティス　色彩と平面性	発表後ワークシートへ記入する
	第13回	ピカソ　キュビズム	発表後ワークシートへ記入する
	第14回	カンディンスキー　抽象絵画	発表後ワークシートへ記入する
	第15回	ポップアート　日常のリアリティー	発表後ワークシートへ記入する

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 毎回、授業終了後にワークシートを提出する。

準備学習に必要な時間	事前、事後学習として毎回1時間程度かけて作成したワークシートを提出する。
教科書	カラー版 名画を見る眼　新書　1、2巻　岩波書店 高階秀爾（著）
参考図書、教材、準備物等	どこからそう思う？学力をのばす美術鑑賞　淡交社　フィリップ・ヤノウィン著
課題（試験・レポート等）のフィードバック	ワークシートは毎回チェックする。
評価の配点比率	目標①40％、目標②20％、目標③40％
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 運動と健康　　授業コード： 2120401

英文科目名称： Health and Exercise

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
内田　雄			
幼児教育学科　教養科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：20C102
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、健康や体力を管理する上で必要な基本的な知識や方法を身につけることである。 具体的には、講義を通して生涯にわたる体力の発達過程やその構造、生活習慣病や女性各種健康課題など健康や体力の維持増進に関わる専門的知識を学ぶ。また、レポートやLMS(Moodle)での課題を通して身に着けた知識を日常生活で実践する方法を学ぶ。 ※ 自主学習支援としてLMS上に講義資料や確認テストを常時公開する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①健康を維持、増進するための手段・方法を考え実践できる。	ＤＰ９	20
	目標②生涯にわたって自主的に健康・体力づくりを実践できる知識を獲得する。	ＤＰ３	60
	目標③生涯にわたる体力の発育発達過程を理解する	ＤＰ３	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	健康とは	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	2	健康をめぐる情報と我が国の健康関連政策	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	3	健康・体力の維持増進のために　①生活習慣と健康	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	4	健康・体力の維持増進のために　②運動と健康	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。 レポート課題①
	5	健康・体力の維持増進のために　③トレーニングの基礎知識	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	6	健康・体力の維持増進のために　④ダイエットの基礎知識	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	7	女性の健康	事後学習：授業内容のスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する。
	8	筆記試験および解説	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業資料は事前にMoodle上に掲載する。スライド数が多いため授業前の予習を通して理解を深める必要がある（1時間程度）。また、授業後はスライドを復習し、Moodle上の復習問題に回答する必要がある（1時間程度）。さらにレポートや筆記試験（第8回）に向けて相応の自主学習が必要である。
教科書	出村愼一　監修「健康・スポーツ科学の基礎」（杏林書院）
参考図書、教材、準備物等	適宜必要な資料をプリントし配布予定
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート課題および試験結果に関しては希望者に対してオフィスアワー、もしくは電子メール（yuchida@jin-ai.ac.jp）で対応する。
評価の配点比率	目標①　レポート課題20%

	目標②　筆記試験40%、毎回の復習問題20% 目標③　筆記試験20%
受講上の注意	健康、運動がいかに大切かについて説明します。この講義が、日常生活の中で運動や健康を意識するきっかけとなれば幸いです。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　スポーツ実技(幼児教育学科)　　授業コード：2120501　2120502　2120503

英文科目名称：　Sports Practical Skill

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
内田　雄			
幼児教育学科　教養科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	実技	ナンバリング：20C103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、学生生活を健康で送るための体力をつけるとともに、生涯にわたってスポーツを楽しめる技術や知識、マナーの習得を体力とスポーツの技術、知識、マナーを身につけることである。そのために多種多様なスポーツに積極的に取り組み自分自身の体力・技能の向上に取り組む。 ※ 自主学習支援としてLMS上に必要に応じた参考資料を提示する。また活動反省の提出をLMSで実施しており、これまでの活動の振り返りが常時可能である。 ※ グループワーク：ほぼ全ての授業時間でグループ分けし、グループでの協同活動が必要となる。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①　積極的に各種スポーツに参加し、自分自身の健康増進や体力向上に取り組むことができる。	ＤＰ７	40
	目標②　各種スポーツの技術を理解し身につけることができる。	ＤＰ４	25
	目標③　スポーツ大会の実施を通して他者と協調しながら活動することができる。	ＤＰ８	20
	目標④　スポーツ大会の実施や、様々なスポーツ種目の実践を通して、自身の行動を反省することができる。	ＤＰ９	15

本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション　&　体力測定	体力測定実施のため初回から上履き持参 授業の反省をmoodle上から入力すること
	2	体力測定	授業の反省をmoodle上から入力すること
	3	フライングディスク　①基本技術の習得	授業の反省をmoodle上から入力すること
	4	フライングディスク　②アルティメットの紹介とミニゲーム	授業の反省をmoodle上から入力すること
	5	フライングディスク　③試合と実技試験	実技試験① 授業の反省をmoodle上から入力すること
	6	バドミントン＆卓球　①　ルールの理解とミニゲーム	授業の反省をmoodle上から入力すること
	7	バドミントン＆卓球　②　試合の実施	授業の反省をmoodle上から入力すること
	8	トランポリン　①ストレートバウンズ	膝保護のため、長パンを推奨 授業の反省をmoodle上から入力すること
	9	トランポリン　②ニードロップバウンズ	授業の反省をmoodle上から入力すること
	10	トランポリン　③シート・ドロップバウンズ	授業の反省をmoodle上から入力すること
	11	トランポリン　④連続技	授業の反省をmoodle上から入力すること
	12	トランポリン　⑤連続技の構成、実技試験	実技試験② 授業の反省をmoodle上から入力すること
	13	運動種目の考案と実施① グループで運動種目考案&実施	後期開始 グループワーク：生涯にわたって運動に親しむ意欲や態度を身に着けるためにグループで様々な運動種目を考案し実施してもらいます。
	14	運動種目の考案と実施② 考案した種目ルールの修正と実施	グループワーク：先週考案した運動種目の改善点を修正し、実施します。

	15	運動種目の考案と実施③ 他グループ考案種目の実施	グループワーク：他グループが実施してきた種目の実践を行います。
	16	運動種目の考案と実施④ 他クラス考案種目の実施①	他クラスが実施してきた種目の実践を行います。
	17	運動種目の考案と実施⑤ 他クラス考案種目の実施②	他クラスが実施してきた種目の実践を行います。 ※先週に実施できなかった分
	18	これまでの運動種目を利用した運動・スポーツ大会の実施	これまで各クラスで実施してきた種目による大会 1日かけて2クラス合同で集中開講（18～21回） グラウンドで実施（雨天時は体育館） ※補助教員2名配置予定
	19	これまでの運動種目を利用した運動・スポーツ大会の実施	これまで各クラスで実施してきた種目によるスポーツ大会 1日かけて2クラス合同で集中開講（18～21回） グラウンドで実施（雨天時は体育館） ※補助教員2名配置予定
	20	これまでの運動種目を利用した運動・スポーツ大会の実施	これまで各クラスで実施してきた種目による大会 1日かけて2クラス合同で集中開講（18～21回） グラウンドで実施（雨天時は体育館） ※補助教員2名配置予定
	21	これまでの運動種目を利用した運動・スポーツ大会の実施	これまで各クラスで実施してきた種目による大会 1日かけて3クラス合同で集中開講（18～21回） グラウンドで実施（雨天時は体育館） ※補助教員3名配置予定
	22	運動・スポーツ大会の反省	教室で実施 運動会レポート提出
	23	バレーボール　基本技術の習得とルールの理解	授業の反省をmoodle上から入力すること
	24	バスケットボール　基本技術の習得とルールの理解	授業の反省をmoodle上から入力すること 最終レポート課題提示
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	前期は各実技種目の実技課題やルールを確認して授業に臨むこと 後期はスポーツ大会の進行がスムーズにいくようグループ毎に準備を進めること		
教科書	使用しない		
参考図書、教材、準備物等	資料は掲示・板書によって提示する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	体調を整え、実技ができる状態で、また、運動に適した靴、服装で授業に臨むこと。実技およびレポートの評価に関しては希望者に対してオフィスアワー、もしくは電子メール（yuchida@jin-ai.ac.jp）で対応する。		
評価の配点比率	目標①毎回の活動反省 40% 目標②実技種目の実技試験 25% 目標③運動会レポート 20% 目標④運動会レポート 5%, 最終レポート10%		
受講上の注意	運動禁忌等がある方は事前に申し出てください。 運動は怪我のリスクを伴います。自身の体調管理に加え無理のない範囲で活動するようお願いします。 運動能力には個人差があります。他者に怪我をさせないような配慮をお願いします。 授業内では安全管理上、担当教員や補助教員の指示をよく聞き、従うようお願いします。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 英語会話　　授業コード：2120601　2120602　2120603

英文科目名称： English Conversation

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
野本 尚美			
幼児教育学科　教養科目	幼稚園教諭免許必修	演習	ナンバリング：20D101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、日常的な英語での会話ができ、またそれらを用いて簡単な指導を行うことができる力を身につけることである。園での１日の生活や年間行事などを軸に、様々な英語の語彙や表現、基本的な文法について学ぶ。テキスト内で用いられる英語は、園内だけに限らず日常生活においても役立つものである。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①基礎的な英語会話を行うための語彙や表現を身に付けている。	ＤＰ３	20
	目標②園児を対象とした英語活動について考え、発表することができる。	ＤＰ４	10
	目標③外国語や異文化について理解を深め、保育者として早期英語教育について省察できる。	ＤＰ６	30
	目標④基礎的な英語を用いて他者とコミュニケーションを取ることができる。	ＤＰ７	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	Introduction to Early English Education	早期英語教育の概要や英語でコミュニケーションをするときの基本表現について学ぶ。
	2	Unit 1　Hi, I'm Yuri Tanaka	人に何かを頼むときの表現や英語での自己紹介について学ぶ。
	3	Unit 2　Where Is the Multi-purpose Room?	位置を伝える表現や戸外での道案内について学ぶ。
	4	Unit 3　Good Morning. How Are You Today?	今日の調子を聞く・答えるときの表現や英語の手遊び歌について学ぶ。
	5	Review Unit 1～3	教科書の復習を行う。
	6	Unit 4　What Color Do You Like?	好きなもの／嫌いなものを聞くときの表現や英語の絵本の読み方について学ぶ。
	7	Unit 5　There's a Ladybug on the Leaf	教室内のものの名前や場所を表す表現について学ぶ。
	8	Unit 6　It's Time to Play Outside	人に何かをするよう／しないように言うときの表現や英語の絵本の読み方について学ぶ。
	9	Unit 7　She Is Allergic to Eggs	食に関する好き嫌い、アレルギーの有無を聞くときの表現や食材の名前について学ぶ。
	10	Review Unit 4～7	教科書の復習を行う。
	11	Practice in Ｐronunciation	英語の発音練習を行う。
	12	Speaking Test	スピーキングテストを行う。
	13	Discussion & Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動についてグループで意見を出し合い、準備を行う。
	14	Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動の準備を行う。
	15	Presentation	英語活動の発表を行う。
	16	Unit 8　You Should Go to the Bathroom	しなければならないことを伝える表現や英語圏のジェスチャーについて学ぶ。レポート課題を提出する。
	17	Unit 9　We Made Masks Today	1日の活動と様子を伝える表現や世界各国の年中行事について学ぶ。
	18	Unit 10　If It Rains, What Happens?	仮定の表現や園行事の英語名について学ぶ。
	19	Unit 11　What Shall We Do Today?	ネイティブとの打ち合わせの際に用いる表現や動物の

	19		英語名について学ぶ。
	20	Review Unit 8～11	教科書の復習を行う。
	21	Unit 12　I Feel Feverish	病気及びけがの症状を伝える表現や身体の部位・医療品の英語名について学ぶ。
	22	Unit 13　This Is Yuri from Cosmos Day Care Center	電話応対で用いる表現や英語の歌について学ぶ。
	23	Unit 14　Thank You Very Much for Everything	お礼の表現や誕生日カードの書き方について学ぶ。
	24	Review Unit 12～14	教科書の復習を行う。
	25	English Songs for Children	様々な英語の歌や、歌を用いた英語活動について学ぶ。
	26	Discussion & Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動についてグループで意見を出し合い、準備を行う。
	27	Presentation Preparation	園児を対象とした英語活動の準備を行う。
	28	Presentation Practice	英語活動の発表に向けて練習を行う。
	29	Presentation	英語活動の発表を行う。
	30	Presentation	英語活動の発表を行う。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習が必要です。授業後は必ず復習をした上で、次回の授業に臨んでください。
教科書	土屋麻衣子著『Happy English for Childcare　保育のための基礎英語』（金星堂、2015）
参考図書、教材、準備物等	その他、必要と思われる教材を適宜配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	テストは採点後に返却します。成績評価を含め、質問等がある場合は、オフィスアワーを利用するか、電子メール（nomoto@jin-ai.ac.jp）で野本まで連絡すること。
評価の配点比率	目標①　筆記試験20%　目標②　英語活動についての発表10% 目標③　レポート30%　目標④　筆記試験30%　スピーキングテスト10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育原理　　授業コード： 2121101

英文科目名称： Principles of Early Childhood Education and Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	必修
担当教員			
石川　昭義			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A104
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、「保育の本質・目的」に関する基礎的知識のうち、「保育の意義および目的」「保育に関する法令及び制度」「保育所保育指針における保育の基本」「保育の思想と歴史的変遷」「保育の現状と課題（諸外国及び日本）」について修得することを目的とする。具体的には、保育の理念と子どもの権利、子ども家庭福祉の法体系における保育の位置づけ、保育所の社会的役割と責任、保育所保育指針にもとづく養護と教育、子ども理解に基づく計画・実践・記録・評価・改善、西欧における保育思想の展開、日本における保育の歴史、わが国における保育の現状と課題（保幼小接続、多文化共生、医療的ケア児等）を学びながら、保育を捉えるうえで必要となる様々な見方を獲得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①「保育の意義および目的」「保育の思想と歴史的変遷」について説明できる。	ＤＰ１	25
	目標②「保育行政の現状と課題」「諸外国における保育の現状と課題」について説明できる。	ＤＰ３	25
	目標③「保育所保育指針における保育の基本」について説明できる。	ＤＰ５	25
	目標④ 子どもの権利条約の重要性について説明できる。	ＤＰ７	10
	目標⑤ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	ＤＰ６	15
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育の理念 ①子ども及び保育を取り巻く近年の状況 ②保育の理念と児童の権利に関する条約	【キーワード：児童の権利に関する権利条約】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	2	保育の意義及び目的 ①児童福祉法と保育所 ②保育の社会的役割と責任	【キーワード：児童福祉法、こども基本法】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：課題レポート〈第1回〉を作成し期限までに提出する。
	3	保育所保育指針にもとづく保育の基本（1） ①告示としての保育所保育指針 ②保育所保育に関する基本原則 ③保育所の役割	【キーワード：保育所保育指針第1章総則、児童福祉法第39条、保育所の役割、養護及び教育の一体】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	4	保育所保育指針にもとづく保育の基本（2） ①保育士の役割 ②保育の目標と保育の方法 ③養護に関する基本的事項	【キーワード：保育の方法、保育の環境、保育所の社会的責任、養護の意義】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	5	保育所保育指針における保育の基本（3） ①保育の計画及び評価 ②幼児教育を行う施設として共有すべき事項	【キーワード：全体的な計画、指導計画、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	6	保育所保育指針における保育の基本（4） ①保育の内容（乳児保育、3歳未満児の保育、3歳以上児の保育） ②保育の実施に関して留意すべき事項	【キーワード：3つの視点、5領域、自己評価】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：課題レポート〈第2回〉を作成し期限までに

			提出する。
	7	子ども・子育て支援新制度と幼保連携型認定こども園 ①認定こども園法 ②幼保連携型認定こども園	【キーワード：子ども・子育て支援新制度、幼保連携型認定こども園、保幼小（園小）連携】 事前学習：「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」第1章総則を事前に読む。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	8	西欧における保育の思想と展開（1） ①子どもの発見の時代 ②コメニウス、ルソー	【キーワード：コメニウス、『世界図絵』、ルソー、『エミール』、消極教育】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	9	西欧における保育の思想と展開（2） ①フレーベル ②モンテッソーリ	【キーワード：フレーバル、『人間の教育』、Kindergarten、Gabe、子どもの家、感覚教具】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	10	日本における保育の歴史 ①幼稚園の誕生と歩み ②恩物主義（フレーベル主義）	【キーワード：東京女子師範学校附属幼稚園、関信三、恩物】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	11	日本における保育の歴史(2) ①児童中心主義	【キーワード：倉橋惣三、誘導保育】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	12	日本における保育の歴史（3） ①保育所の誕生と歩み	【キーワード：二葉幼稚園（後の二葉保育園）、公立託児所の誕生】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	13	日本における保育の歴史（4） ①戦後の制度改革（二元制度） ②保育要領の発刊とその意義	【キーワード：学校教育法、児童福祉法、保育要領】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：課題レポート〈第3回〉を作成し期限までに提出する。
	14	諸外国における保育の現状と課題	【キーワード：レッジョエミリア、プロジェクト保育】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：授業の内容をノートに整理する。
	15	まとめ：これからの保育者に求められる資質能力 ①こども基本法とこども大綱 ②こども誰でも通園制度 ③多文化共生の保育	【キーワード：こども基本法、こども大綱、こども誰でも通園制度、多文化共生、医療的ケア児】 事前学習：上記「キーワード」を調べ、ノートにまとめておく。 事後学習：課題レポート〈第4回〉を作成し期限までに提出する。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、「事後学習プリント」などを参考にしながら整理しておく（毎回2時間程度）。 予習：次回の授業内容について、上記「補足説明」欄のキーワードなどを事前に調べ、理解しておく（毎回2時間程度）。
教科書	天野珠路他編『新基本保育シリーズ1　保育原理』（中央法規 2019） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018） 文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	教 材：適宜、プリント資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業期間中の課題レポートについては、授業担当者が添削し、採点して返却することでフィードバックする。
評価の配点比率	目標①筆記試験25％ 目標②筆記試験25％ 目標③筆記試験25％ 目標④筆記試験10％ 目標⑤課題レポート15％
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育社会学　　授業コード：2121201　2121202

英文科目名称： Sociology of Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	２単位	選択	
担当教員				
増田　翼				
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修		講義	ナンバリング：21A501
添付ファイル				

授業の概要	本講義は、幼稚園教諭として理解しておくべき教育の基礎理論のうち、とりわけ社会的事項について修得することを目的とする。また併せて、学校と地域との連携および学校安全への対応についても理解を深めていく。各回を通じて「教育と社会」との関係について学ぶとともに、私たちが教育について語る際に無意識のうちに抱いている「当たり前」の「常識」を疑いながら自らの教育観を見直してほしい。具体的には、早期教育、しつけ、学校の機能、学歴社会、子どもの安全、開かれた学校づくり、多文化共生社会、ジェンダーについて学ぶが、各テーマそれぞれにおいて、保育・幼児教育との関連性を踏まえながら考察していく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標① 教育と社会との関係を説明できる。	ＤＰ１	40
	目標② 社会変化によって生じる保育・教育の新たな課題とそれに対応するための教育政策の動向について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標③ 子どもの安全に関する現代日本の具体的状況と課題について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標④ 学校と地域との連携・協働について説明できる。	ＤＰ８	10
	目標⑤ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：「社会学」とは？ 「教育社会学」とは？	【本講義15回すべてに共通する事項】 各回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に提出すること。 また、各回で配布する授業資料には、復習等で活用するための参考文献（授業内容に関するもの）を記載している。
	2	早期教育（1）：早期教育が普及する理由	【キーワード：フラッシュカード、ドッツカード、バイリンガル、体操教室、ヨコミネ式】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	3	早期教育（2）：早期教育の何が問題なのか？	【キーワード：保育・幼児教育の学校化、ハイパー・メリトクラシー社会、早期教育産業】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	4	しつけ（1）：しつけと社会化、しつけ方法の種類	【キーワード：規範と文化、社会化、逸脱行為、自己統制、社会統制】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	5	しつけ（2）：見えない教育方法、子育ての私事化	【キーワード：日本のしつけの傾向、見えない教育方法、教育家族、子育ての私事化】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
		学校の機能：社会化、選別と分配、学校文化の伝達	【キーワード：社会化、選別と分配、学校文化の伝達、隠れたカリキュラム】

	6		事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	7	学歴社会（1）：日本型学歴社会とその変化	【キーワード：メリット、メリトクラシー、能力、学力、努力、可能性、平等、高校進学率、大学進学率】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	8	学歴社会（2）：教育格差、ハイパー・メリトクラシー社会と幼児期の育ち	【キーワード：学力格差、教育機会格差、文化資本、再生産、学力の「ふたこぶラクダ」現象、二極化】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	9	子どもの安全（1）：学校保健安全法にもとづく安全教育・安全管理、幼児期における危険回避能力の獲得	【キーワード：学校保健安全法、学校安全、安全教育、安全管理、保育の環境構成、危険回避能力、森のようちえん、規律訓練型社会、環境統制型社会】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	10	子どもの安全（2）：子どもと電子メディアとのかかわり、保育・幼児教育におけるICT利活用	【キーワード：スマホ育児、乳幼児のメディア利用、デジタル連絡帳】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	11	開かれた学校づくり：子どもが育つ地域社会、学校と地域との連携・協働	【キーワード：学校経営改革、選択と競争、学校運営協議会、消滅可能性都市、人口減少地図、地域の特色を活かした保育・教育】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	12	多文化共生社会と教育：社会的排除・包摂、日本および諸外国における多文化保育の現状と課題	【キーワード：多文化共生、社会的排除・包摂、マジョリティ・マイノリティ、一時的セミリンガル、ダブル・リミテッド、日本語指導が必要な児童生徒】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	13	ジェンダー（1）：幼児期における「男らしさ・女らしさ」構築のプロセス	【キーワード：子育てに関するジェンダー意識、男の子に対する期待・女の子に対する期待、遊びのなかの「男らしさ」「女らしさ」、男の子の国・女の子の国（戦隊ヒーロー、アニメ・漫画）、男性保育者】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	14	ジェンダー（2）：LGBTQと保育、「母親像」の変遷	【キーワード：LGBTQ、母性と父性】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	15	教育のこれから：近年の日本における教育政策、諸外国の教育改革の動向	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら整理しておく（毎回1時間程度）。 予習：次回の授業内容について、上記「補足説明」欄のキーワードなどを事前に調べ、理解しておく（毎回1時間程度）。 ※最終レポート（自由論述型：1800字以上）作成には、さらに多くの時間が必要となる。
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック（特徴的な意見の紹介、全体の傾向など）する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。
評価の配点比率	目標①授業内小課題 20%、最終レポート 20% 目標②授業内小課題 10% 目標③授業内小課題 10% 目標④授業内小課題 10% 目標⑤最終レポート 30%

受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子育て支援　　授業コード：2121301　2121302

英文科目名称： Child Care Support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
長谷川　清美			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C511
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育士の専門性を生かした子育て支援の意義・目的を理解し、保護者の支援や相談に必要な専門的知識及び技術を身につけることである。様々な場での子育て家庭に対し、職員間や地域関係機関との連携による保育相談支援の事例検討や、体験学習などを通して、保育士の行う子育て支援の特性と展開、保護者の保育実践力につながる支援内容・方法・技術を学習する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標①保育の専門性を背景とした保護者支援の意義と歴史的変遷を理解する。	ＤＰ１	10
	目標②保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の掲示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解できる。	ＤＰ２	25
	目標③事例検討や体験実習を通して子どもや保護者の心情・状況を理解し、子どもの最善の利益について自分の意見を述べることができる。	ＤＰ６	30
	目標④保育士の行う子育て支援について、子育て家庭の現状と課題に応じ、職員や他機関と連携して行う意義を説明できる。	ＤＰ３	15
	目標⑤体験実習に臨むにあたり、自己の課題を設定し、保護者とのコミュニケーションを踏まえた考察ができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス、子どもの保育とともに行う保護者支援 子育て支援センター体験学習について① 実技：親子で楽しめるふれあい遊び	①夏季休暇を利用して子育て支援センターで体験学習（1回‥３時間）を行う ・育児をしている保護者を理解する ・親子が一緒に楽しめる遊びの実践 事後学習：テキスト第１講「保育所の特性や保育士の専門性を生かした支援」について復習 ＊本演習15回とも、毎回授業後に振り返りレポートを記載し、提出すること。
	2	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 実技：親子で楽しめるふれあい遊び	グループワーク：ロールプレイ体験をする。 事前学習：テキスト第２講から「バイスティックの７原則」について予習 ・『紙コップシアター』『ビニール袋のボール遊び』 ・次回は紙コップのおもちゃ作り‥テーマを決めておく
	3	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 制作：ふれあい遊びに使う教材作り（紙コップを使用） ・作品は当日仕上げること　・後日発表時に持参する 準備物：ハサミ、のり、クレヨン、カラーフエルトペン、クレヨン	事後学習：テキスト第３講「障害受容の段階について」復習
	4	子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場の提供 子育て支援センターの体験学習について②　事業内容 保育案作成：『紙コップ教材を使った親子ふれあい遊びの提供」	テキスト第10講ｐ110「３．地域の子育て支援の場と人」及び配布資料に基づき、子ども・保護者が多様な他者とかかわる機会や場について考える 事後学習：子育て支援センターの事業内容・体験に向けた留意事項を理解する ・自分の教材を使ったふれあい遊び（絵本・手遊び歌・ゲーム）の保育案を立てる ・保育案は当日提出すること

	5	子どもおよび保護者の状況・状態の把握 保育実践：『親子で楽しめる紙コップを使った遊び」の紹介	演習：ジェノグラムとエコマップ作成 5～９回：保育案に基づいた保育実践を交代で行なう。 事前学習：テキスト第４講「ジェノグラム及びエコマップ」について予習
	6	支援の計画と環境の構成 目標の設定と支援計画	テキスト第５講演習１図表５－４支援計画ワークシート作成 事前学習：テキスト第５講演習１の事例及び図表５－３保育の記録について予習
	7	支援の実践・記録・評価・カンファレンス 保育士の専門的な知識・技術を活用した支援 事例検討①「子どもの発達に関する相談」	テキスト第６講演習１図表６－３作成 事前学習：テキスト第６講図表６－１、６－２について予習 ①演習『子育てファイルふくいっこ』基礎調査票
	8	職員間の連携・協働、 社会資源の活用と自治体・関係機関や専門職との連携・協働 市町主催の『幼児健診』と園との連携	事前学習：幼児健診：1歳６ヶ月、３歳児健診について調べておく グループワーク：保育場面切替時の職員間の連携を考える 事後学習：テキスト第８講から、「活用できる社会資源」について復習
	9	保育所等における支援 地域の保護者に対する子育て支援の内容	グループワーク（テキスト第9講演習２） 参考：福井市『はぐくむbook』子育て支援事業 事後学習：保育所・認定こども園・幼稚園等が行っている子育て支援情報を収集する
	10	地域の子育て家庭に対する支援 子育て支援センター体験計画書の作成	演習（課題レポート）：子育て支援センター体験学習で実践する保育相談支援計画案作成。 事前学習：子育て支援センター体験学習時の実践内容考えておく。 体験実習スケジュールを決める
	11	障害のある子ども及びその家庭に対する支援 身近な地域での発達支援 事例検討②「子どもの発達に関する相談」	障害のある子どものための連携機関、事業所について ②演習『子育てファイルふくいっこ』アセスメントと子ども理解 事後学習：テキスト第11講「実践力を高める手順」について復習
	12	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援 事例検討③「子どもの発達に関する相談」	事例検討（テキスト第12講演習１・２） ③園で行っている個別支援について 事後学習：保護者自身に特別な配慮が必要な事例について、図書館の本等から学習
	13	子どもの虐待の予防と対応	グループワーク：事例検討（テキスト第13講演習１・２） 事後学習：児童虐待防止法等関係する制度の内容を復習
	14	要保護児童等の家庭に対する支援 子育て支援の重要ポイントについての振り返り	グループワーク：事例検討（テキスト第14講演習１・２） 事後学習：子育て支援の重要ポイント復習
	15	多様な支援ニーズをかかえる子育て家庭の理解 子育て支援センター体験学習について③	事前学習：子育て支援の重要ポイントの学習 ③子育て支援センター体験学習での注意事項の確認 事後学習：子育て支援センターで実践する遊びや絵本の読み聞かせなどの練習をしておくこと

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前・事後学習が必要。特に課題レポート作成時には多くの時間が必要となる。また、グループワープでは、自分の考えを積極的に発表できるよう数時間の事前学習を行うことが望ましい。
教科書	西村重稀・青井夕貴編　新基本保育シリーズ⑲『子育て支援』（中央法規出版 2019） 厚生労働省編『保育所保育指針解説』（フレーベル館2018）
参考図書、教材、準備物等	教科書以外の資料及びプリントは、授業時に適宜配布する。各自ファイルに綴ること。 紙コップを使った教材作成時には、水性マジック、色紙、のり、ハサミを用意すること。 体験実習に際しては、各自親子遊びに必要な教材を準備すること。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・演習やグループワークの記録及び課題レポートに記載された内容や質問について、講義で説明してフィードバックする。確認してファイルに綴ること。 ・定期試験の前の週の授業で、子育て支援の重要ポイントについて振り返りをし、定期試験のフィードバックとする。 ・教材作りの授業時には材料を持参し時間内に作り上げること。教材を使った保育案を作成し発表する。
評価の配点比率	目標①復習レポート2%（1%×2）試験8% 目標②復習レポート3%（1%×3）紙コップを使った教材（作成3%　保育案作成4%　保育実践5% ）　試験10% 目標③復習レポート5%（1%×5）グループワークのまとめ9%（3%×3）　試験16% 目標④復習レポート4%（1%×4）試験11% 目標⑤子育て支援センターでの実習と体験学習レポート20%（保育相談支援計画案5%　実習態度5%　体験学習レポート10%） 成績は、子育て支援センターで体験学習し、体験学習レポート提出後の後期に発表する。
受講上の注意	演習やグループワークを通した理論や技術の習得を重視する為、積極的・意欲的な参加を求めます。 演習やグループワークの記録用紙及び作成したシートは評価しますので、授業終了時に提出すること。 子育て支援センター体験学習後実習先で体験学習レポートを仕上げて提出すること。
教員の実務経験	保育士として、保育園、福井市健康管理センターに勤務し、子育て支援に携わった経験をいかし、体験エピソードや実践例を挙げながら講義します。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等)

	□自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 社会的養護Ⅱ　　授業コード：2121401　2121402

英文科目名称： Social Nursing Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
霜　大輝			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C506
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、社会的養護を必要とするこどもたちとその保護者に対する理解を深めるとともに、この問題を社会の中でどう対応すべきなのかを学ぶことである。社会的養護Ｉで学んだことを前提に、施設養護や家庭養護の実際について理解を深めていく。その上で、社会的養護の計画・記録・自己評価について触れながら、日常生活支援・治療的支援・自立支援等についても学びを深め、こどもの福祉に関わる実践力を身につけていく。授業では、課題を与えて発表させ、意見交換（グループワーク）を行いながら社会的養護の理解を深めてもらう。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①こどもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解する。	ＤＰ１	10
	目標②施設養護及び家庭養護の実際について理解する。	ＤＰ２	20
	目標③社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解する。	ＤＰ５	40
	目標④社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解する。	ＤＰ８	10
	目標⑤社会的養護におけるこどもの虐待の防止と家庭支援について理解する。	ＤＰ１	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	社会的養護を必要とするこどもとは	グループワーク 事前学習：こども家庭庁のHPなどを利用し,社会的養護の基本理念と社会的養護を必要とするこども達はどのような環境で生活をしていたのかをまとめておく。 事後学習：社会的養護の原理として掲げられている６つをまとめレポートを出す。
	2	社会的養護の歴史的変遷	グループワーク 事前学習：児童福祉法誕生から1994年「児童の権利に関する条約」に批准し今日に至るまでの歴史を調べ、質問をまとめておく。 事後学習：2016（平成28年）「児童福祉法等の一部を改正する法律」について４つの概要をまとめたレポートを提出する。
	3	社会的養護を必要とする子どもの権利擁護	グループワーク 事前学習：「児童の権利に関する条約」の前文と第３条・第１２条・第１９条・第２０条・第２６条を熟読すること。 事後学習：児童福祉施設の子どもの権利養護の実践と課題をまとめレポートを提出。
	4	乳児院におけるこどもの養育	グループワーク 事前学習：全国乳児福祉協議会のHP等から乳児院のあゆみ・乳児院を利用する理由、また入所しているこどもたちの人数を調べておく。 事後学習：乳児院における養育の在り方と今後の課題をまとめレポートを提出。
	5	児童養護施設におけるこどもの養育（家庭的養育）	グループワーク 事前学習：全国児童養護施設協議会HPやこども家庭庁の HPから児童養護施設を利用する理由と児童養護施設ではどのようにこどもを養育しているのかをまとめる。 事後学習：児童養護施設での養育がどのように変化し

			ているのか、また今後の課題をまとめレポートを提出する。
	6	被虐待児（発達障害児）への関わり方（実技）	事前学習：こども家庭庁HP「児童虐待の定義と現状」から児童虐待の定義をまとめておく。さらにこども家庭庁 HPから平成２９年度児童相談所の児童虐待相談対応件数から４種類の虐待の数の移り変わりをまとめておく。 事後学習：被虐待児が受ける後遺症と援助方法をまとめレポートを提出する。
	7	第７回：被虐待児（発達障害児）への関わり方（施設の環境整備）	グループワーク 事前学習：発達障害について図書館などで調べ、それぞれどのような障害なのかをまとめておく。 事後学習：被虐待児および発達障害を抱えている児童の関わりとして大切なことを施設の環境整備の上からまとめレポートを提出する。
	8	第８回：社会的養護家庭再構築のアプローチ（児童虐待防止の家庭支援）	グループワーク 事前学習：要保護児童対策地域協議会について質問できるようにしておく。 事後学習：児童虐待防止に関する家庭支援の現状と課題をまとめレポートを提出。
	9	自立支援計画表アセスメントおよび作成	グループワーク 事前学習：児童自立支援計画とはなにかまとめておく。 事後学習：提示する事例に伴い自立支援計画を作成し提出する。
	10	こども最善の利益のための自立支援（リービングケア・アフターケア）　（実習）	事前学習：家庭的養護と家庭養護の違いと自立支援のためにどのようなケアをしているのかまとめておく。 事後学習：授業の内容から児童養護施設等の施設養育と里親養育においてアフターケアに関することをまとめアフターケアの計画表を作成する。
	11	パーマネンシーの保障と課題	グループワーク 事前学習：厚生労働省平成２９年８月に出された「新しい社会的養育ビジョン」の概要についてまとめておく。 事後学習：授業より里親支援センターおよびパーマネンシ - 保障としての特別養子縁組の推進についてまとめレポートを提出する。
	12	社会的養護の家庭支援に対する相談援助技術	グループワーク 事前学習：第１１回までの授業を復習し、社会的養護における家庭支援について、何が必要なのかを自分なりに考えまとめておく。 事後学習：社会的養護における家庭支援の在り方をまとめレポートを提出する。
	13	こどもの権利擁護ノート作成　（実技）	事前学習：児童福祉施設等の権利ノートの内容を調べ発表できるようにしておく。事後学習：児童の権利に関すはる条約・授業で扱ったこどもの権利をまとめ「権利ノート」を作成する。
	14	社会的養護と地域福祉の現状と課題	グループワーク 事前学習：令和7年4月に出される福井県社会的養育推進計画を読み、福井県の社会的養育の現状をまとめる。 事後学習：授業の内容から市町で行う子ども・子育て支援制度と社会的養護のつながりをグループで図にまとめ、今後の地域福祉のあり方をまとめる。
	15	援助者としての倫理と資質、専門技術と相談援助	グループワーク 事前学習：児童福祉施設および保育士の倫理綱領を熟読し、支援者における倫理の必要性をまとめる。 事後学習：社会的養護における倫理の重要性と専門性を深める意義をまとめレポートを提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前・事後学習が必要。
教科書	社会的養護Ⅱ（相澤　仁・村井美紀・大竹　智共著　　中央法規出版　2019年2月10日発刊）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業中にフィードバックを行う。
評価の配点比率	目標①　全講義終了後レポート10% 目標②　全講義終了後レポート20% 目標③　全講義終了後レポート40% 目標④　全講義終了後レポート10% 目標⑤　全講義終了後レポート20%
受講上の注意	他学生の受講の支障になるようなことをしないこと。
教員の実務経験	乳児院・児童養護施設の職員としての実務経験を基にして解説する。

アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教職論　　授業コード：2121501　2121502

英文科目名称： Introduction to the Childcare and Teaching Profession

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	講義	ナンバリング：21A103
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、保育者として理解しておくべき保育職・教職の社会的意義、保育者の役割、保育者の職務内容等を修得することを目的とする。具体的には、「保育職・教職の社会的意義」「保育者の役割と倫理」「保育者の制度的位置づけ」「保育者の組織的協働・危機管理」「保育者の専門性」「保護者対応」「保育者の資質向上とキャリア形成」について理解していく。各回において、保育職・教職において要求される資質能力の基礎について学ぶことを通じて、この仕事に対する自らの期待や不安を自覚・言語化し、保育者になることの意義を再認識する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①「保育職・教職の社会的意義」「保育者の役割と倫理」「保育者の制度的位置づけ（服務上・身分上の義務）」について説明できる。	ＤＰ１	30
	目標②「保育者の組織的協働（連携および分担）・危機管理」について説明できる。	ＤＰ３	10
	目標③「保育者の専門性」について説明できる。	ＤＰ５	10
	目標④「保護者対応」について説明できる。	ＤＰ２	10
	目標⑤「保育者の資質向上とキャリア形成」について説明できる。	ＤＰ９	10
	目標⑥ 自分の考えをレポートにまとめることができる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：保育職・教職の社会的意義、保育職・教職を選択するということ	【本講義15回すべてに共通する事項】 各回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に提出すること。
	2	保育者の役割と倫理(1)：子どもにとって保育者とは	【キーワード：全国保育士会倫理綱領、モデルとしての保育者、子ども理解（観察と評価）】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。 ※なお授業内では、仁短YouTubeチャンネル動画「保育者の一日（前編・後編）」を参照しながら保育者の役割について再考していくので、あらかじめ視聴しておくこと【自らの教育リソースの活用】。
	3	保育者の役割と倫理(2)：職場の多様性、園務分掌	【キーワード：新任・初任、中堅（ミドルリーダー）、熟練・熟達、キャリアアップ、園務分掌、職員会議、就労時間、記録物、保育要録・指導要録】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	4	制度的位置づけ：保育所・幼稚園に関係する法令、服務および身分保障	【キーワード：日本国憲法、児童憲章、児童の権利に関する条約、教育基本法、学校教育法、児童福祉法、幼稚園設置基準、児童福祉施設の設備及び運営に関する基準、児童虐待の防止等に関する法律、認定こども園法、教育職員免許法、地方公務員法、学校保健安全法】

			事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	5	保育者の組織的協働（1）：危機管理(ケガ・感染症への対応、災害時の対応)	【キーワード：crisis management、危機管理マニュアル、東日本大震災、「地震ごっこ・津波ごっこ」、保育中における事故・ケガ、食物アレルギー発症への対応】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	6	保育者の組織的協働（2）：リスクマネジメント(各種予防、避難訓練、不審者対策)	【キーワード：risk management、避難訓練、不審者対策、安全教育、感染症対策、ヒヤリ・ハット報告、情報のデータ化】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	7	保育者の組織的協働（3）：チームとしての学校、多職種・地域社会との連携・分担	【キーワード：チームとしての学校、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、看護師、特別支援教育支援員、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、地域資源の活用】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	8	保育者の専門性（1）：生活と遊びを通して	【キーワード：生活に必要なきまり、生活に伴う倫理的雰囲気、遊びの環境構成、遊びの援助・指導】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	9	保育者の専門性（2）：指導案作成と環境構成の意義	【キーワード：指導計画作成の注意点、環境構成の意義、子どもの前に立つときの注意点】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	10	保護者対応(1)： 登・降園時の留意点と連絡帳の役割	【キーワード：園バス送迎、礼儀・マナー、情報共有、連絡帳の役割、連絡帳の書き方】 ※授業内で、実際に連絡帳の返事を書き提出する。
	11	保護者対応(2)： 園だより・クラスだより	【キーワード：園だより・クラスだよりの役割、クラスだよりの書き方】 ※授業内で、実際にクラスだよりを作成し提出する。
	12	保護者対応(3)： クレーム対応から何を学ぶか	【キーワード：苦情解決、保護者のニーズ、理不尽なクレーム】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	13	保育者の資質向上とキャリア形成(1)：産前産後休業・育児休業、男性保育者	【キーワード：産休と育休、保母から保育士へ、男性保育者の悩み】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	14	保育者の資質向上とキャリア形成(2)：専門性の発達と研修体制（反省的実践家を目指して）	【キーワード：反省的実践家、リアリティショック、保育者効力感、研修の種類、初任者研修、中堅教諭等資質向上研修、保育者の専門性】 事前学習として、上記「キーワード」を調べ理解しておく。事後学習として、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら学習内容を整理しておく。
	15	まとめ：これからの保育者に求められるもの（マネジメントとリーダーシップ）	第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	復習：学習した内容について、授業内で紹介した参考文献や配布資料などを参考にしながら整理しておく（毎回1時間程度）。 予習：次回の授業内容について、上記「補足説明」欄のキーワードなどを事前に調べ、理解しておく（毎回1時間程度）。 ※最終レポート（自由論述型：1600字以上）作成には、さらに多くの時間が必要となる。
教科書	使用しない。適宜、資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018）

課題（試験・レポート等）のフィードバック	毎授業終了時に提出する小課題については、次回授業の冒頭でフィードバック（特徴的な意見の紹介、全体の傾向など）する。また最終レポートについては、授業担当者が添削し採点を付したPDFデータをMoodle上で返却することでフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。
評価の配点比率	目標①授業内小課題 10%、最終レポート 20% 目標②授業内小課題 10% 目標③授業内小課題 10% 目標④授業内小課題 10% 目標⑤授業内小課題 10% 目標⑥最終レポート 30%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) ■自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子ども家庭支援の心理学　　授業コード：2121601　2121602

英文科目名称： Psychology of child-and-family support

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
千崎　愛			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21B502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、生涯発達に関する心理学・精神保健の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解することである。また、家族・家庭の意義や機能、親子関係や家族関係、現代の社会状況に基づいて、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。	ＤＰ２	40
	②家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達的な観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。	ＤＰ２	20
	③子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題について理解する。	ＤＰ３	20
	④子どもの精神保健とその課題について理解する。	ＤＰ２	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	乳児期の発達	誕生から2歳頃までの初期発達の特徴とこの時期に必要な保育者の関わりについて理解する。
	2	幼児期の発達①	幼児期の発達段階における認知、社会性、自我の発達を理解する。
	3	幼児期の発達②	幼児期における保育者が直面する問題や子どもの発達を理解する視点について学ぶ。
	4	学童期の発達①	小学校入学以降の学童期前期の発達の特徴を理解する。乳幼児期から学童期への移行期の発達について考える。
	5	学童期の発達②	学童期に起こりうる教育の諸問題とその支援方法について考える。
	6	青年期の発達	学童後期から青年期にかけての身体的発達、認知発達、対人関係、問題行動について理解する。
	7	成人期・中年期・高齢期の発達	成人期・中年期の発達、対人関係や役割の変化について理解する。高齢期における発達、高齢期を取り巻く社会状況、高齢福祉や支援などについて理解する
	8	中間試験、中間まとめ	1～7回の授業内容について中間試験を実施し、解説する。
	9	家族・家庭の意義と機能、家族関係・親子関係の理解	家族に関する基本的な理解をもち、家族関係・親子関係を支援するための理論や技法について学ぶ。
	10	子育ての経験と親としての育ち	親の意識や心理を理解し、親としての育ちについて学ぶ。
	11	子育てを取り巻く社会的状況、ライフコースと仕事・子育て	日本における子育てをめぐる状況を理解する。ライフコースの視点から人の生涯発達を理解する。
	12	多様な家族とその理解、特別な配慮を要する家庭	さまざまな家族のカタチとそれらへの支援のあり方、不適切な養育と家族の機能不全について理解する。
	13	子どもの生活・生育環境とその影響	子どもの年齢に応じて必要とされる生育環境について理解し、適切な生育環境が整えられない場合に子どもの精神状態に与える影響について学ぶ。
	14	子どものこころの健康にかかわる問題	子どものこころの健康の課題や問題について理解する。

	15	子どものこころの健康にかかわる問題の対応	子どものこころの健康の課題や問題の対応について学ぶ。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回３時間程度の授業外学習を前提として、試験を実施する。 復習：授業ごとに2時間程度の事後学習として、授業内容を復習すること。 予習：次回の授業の教科書の指定範囲を読み、重要と思われる内容をノートにまとめること(1時間程度)。 その他、授業資料や授業内容に関係する参考動画等をmoodleにアップロードする。予習や復習の際に活用し、授業内容の理解を深めること。
教科書	白川佳子・福丸由佳（編)『新・基本保育シリーズ９　子ども家庭支援の心理学』（中央法規出版 2019) その他、適宜資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	準備物：教科書と授業資料を毎回持参すること。 各回の授業資料をmoodleに公開する。 参考図書：『子どもとかかわる人のための心理学　保育の心理学,子ども家庭支援の心理学,子どもの理解と援助への扉』(沼山博・三浦主博(編)、萌文書林、2020)、　『子どもも育つ おとなも育つ 発達の心理学』(柏木恵子、萌文書林、2012)、その他の参考図書や文献については授業中に紹介する。 教材：必要に応じて資料を配布する。配布資料はファイルを用意し、綴じておくことが望ましい。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	この授業の進め方、取り組み方、試験、評価については、第1回目の授業の冒頭に説明する。 試験は評価後にフィードバックする。
評価の配点比率	試験：100％ 目標①：中間試験40％、 目標②：期末試験20％、 目標③：期末試験20％、 目標④：期末試験20％
受講上の注意	疑問点は授業中に質問することが望ましい。 保育者として子どもやその家庭を理解し、支援・対応できる実践的知識を身につけることを目指す。
教員の実務経験	公認心理師・臨床心理士として医療機関や保育・教育機関で心理支援を行っている教員が、子ども家庭を支援するために必要な知識や援助方法について、講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子ども理解の理論と援助方法　　授業コード：2121701　2121702

英文科目名称： Theories and Methods for Understanding Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21B102
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、様々な心理学的知識を既習概念と対応させながら体系的に学び、行動観察や発達検査を通して子どもの理解に資する知識および技術を習得することを目的とする。子どもの問題行動や発達障害等の特徴とその指導法について理解を深め、適切な子ども理解ができる保育者としての実践力を養う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①乳幼児の発達を理解することの意義を説明できる。	ＤＰ１	20
	②乳幼児の発達状況を捉えるための様々な心理学の理論・概念を理解し、概説できる。	ＤＰ２	20
	③乳幼児の発達状況を捉えるための様々な手法について理解し、環境や各種資源の制約のもと、乳幼児の発達を捉えるための適した方法について説明できる。	ＤＰ３	30
	④様々な情報から乳幼児の発達状況を評価し、発達状況に即した援助方法を考えることができる。	ＤＰ６	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子どもを理解することとは 授業冒頭にオリエンテーションを実施する。	「子どもの発達を理解すること」は、自分の中でどのような位置づけなのかを確認するため、グループワークを実施する。 事後学習：配布する様式に合わせて、実習やボランティアでの子どもの発達を実感した体験をまとめること。
	2	乳児期の発達とその理解(1)：発達課題と子どもの行動の対応	乳児期の子どもの発達について、どのような行動が発達を理解する指標となりうるのかを学ぶ。 事前学習：第1回で示されたテーマについて200文字程度で言語化しておくこと。 事後学習：どのような客観的指標が発達理解に役立つかをまとめておくこと。
	3	乳児期の発達とその理解(2)：親と子どもの様子	愛着形成の過程を理解し、乳児期の愛着形成がいかに重要なのかを学ぶ。 事前学習：自分と親との愛着形成について、第2回で示す様式でまとめておくこと。 事後学習：愛着形成の重要性を概説できるようにまとめておくこと。
	4	行動観察法と質問紙法の理解(1)：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法の紹介 乳児期の発達に関する小レポート課題①を提示する。	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法について学ぶ。 事後学習：検査内容をまとめておくこと。
	5	幼児期の発達とその理解(1)：集団の中での子どもの行動	集団の中で子どもの様子をどのように捉えるのか、映像を活用して観察する。社会性の発達に着目することの重要性を理解する。 事後学習：社会性の発達について概説できるようにまとめておくこと。
	6	幼児期の発達とその理解(2)：4歳から6歳頃の子どもの認知機能と行動	3歳以降の子どもの発達の個人差や、認知機能と行動の関係について学ぶ。 事後学習：幼児期の知的発達の過程についてイメージ

			を持てるように学習内容を整理しておくこと。
	7	幼児用個別式発達検査（新版K式発達検査2001）の実施(1)	発達検査を実施し、検査内容を理解する。 事前学習：新版K式発達検査について情報収集しておくこと。 事後学習：自分の担当した検査項目について配布する様式に従いまとめておくこと。
	8	幼児用個別式発達検査（新版K式発達検査2001）の実施(2)	発達検査を実施し、検査内容を理解する。それぞれが担当した検査項目についてグループで共有し、第9回の検査結果の解釈に備える。
	9	幼児用個別式発達検査（新版K式発達検査2001）の解釈 個別実施検査に関する小レポート課題②を提示する。	発達検査の解釈方法を学ぶ。第7回と第8回の内容をグループで共有しておく必要がある。 事後学習：配布する様式に従い、グループでの検査結果の解釈をまとめる。
	10	行動観察法と質問紙法の理解(2)：生活能力評価	代表的な生活能力評価指標を紹介する。
	11	行動分析と記録方法	ABC分析と行動記録を体験する。ロールプレイから行動分析と行動記録を試みる。 事後学習：配布する様式に従い、任意の特定の人物の行動観察を実施すること。
	12	子育てファイル「ふくいっ子」にみる理解と援助	福井県が作成した『子育てファイル「ふくいっ子」』にふれ、実際に評価を行う。
	13	ビデオによる事例分析の方法 行動観察と記録に関する小レポート課題③を提示する。	保育者によるビデオ撮影と映像の利用について検討する。 事前学習：保育室のビデオ記録について、情報収集しておくこと。
	14	保護者支援のための子ども理解	保護者支援に不可欠な、保護者に寄り添うためのコミュニケーション方法についてグループワークで検討する。
	15	保育者の資質 最終レポート課題を提示する。	保育者の資質について、授業内容を振り返りながら考えをまとめる。 「子どもの発達を理解すること」についての考えは、第1回からどのように変化したのかをまとめよう。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前学習と事後学習が必要である。事前学習として各回のテーマについて情報収集を行うこと。事後学習として授業中に提示するテーマについてまとめておくこと。特に３回の小レポートの作成には多くの時間が必要であり、さらに最終レポートの作成時には既習知識の振り返りを含め文献調査等で多くの時間が必要となる。
教科書	『よくわかる！保育士エクササイズ⑧子どもの理解と援助演習ブック』（ミネルヴァ書房、2021）
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小レポートにはコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①：小レポート①(20%) 目標②：小レポート②(10%)、小レポート③(10%) 目標③：小レポート②(15%)、小レポート③(15%) 目標④：最終レポート30%
受講上の注意	各回の授業への質問や感想をミニッツペーパーを活用して収集し、次の授業冒頭でフィードバックを行う。ミニッツペーパーを積極的に活用することが望ましい。
教員の実務経験	公認心理師として行政機関、保育・幼児教育機関で心理支援を行っている教員が、子どもの発達保障や保護者支援のために必要な知識や援助方法について演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　子ども家庭支援と教育相談　　授業コード：2121801　2121802

英文科目名称：　Principles of Family Support and Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格選択	講義	ナンバリング：21B501
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、教育相談を実施し子育て家庭を支援する際に必要となる基礎知識の習得と、教育相談と子育て家庭の支援を実施するための具体的方略を学ぶことを目的とする。子どもだけでなく保護者について起こる問題についても理解を深め、問題解決のために第三者も含めて支援体制を構築し、どのように支援体制を維持するかを実践的に学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①「子ども家庭支援と教育相談」を保育者が行う意義について説明できる。	ＤＰ１	40
	②「子ども家庭支援と教育相談」に関わる基礎的な理論・概念を理解し、概説できる。	ＤＰ２	20
	③「子ども家庭支援と教育相談」の進め方やポイントについて、支援体制の構築や社会資源の活用などをふまえて説明できる。	ＤＰ６	20
	④発達障害や要保護児童など、乳幼児と家庭をとりまく教育的・社会的課題について、その多様性を理解している。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育相談の定義と歴史	授業の進め方についてオリエンテーションを実施する。 事後学習：教育相談の歴史的変遷について概説できるように配布資料を整理すること。
	2	基礎理論(1)：ライフサイクルと心理的問題の理解	我々が直面するであろう人生の様々な局面における心理的問題について、自身のこれまでの経験を踏まえながら考察していく。 事前学習：これまでに悩んだことがある様々な内容を思い起こし、言語化できるように300文字程度で文章化しておくこと。 事後学習：ライフイベントに特有の心理的問題について概説できるように配布資料を整理すること。
	3	基礎理論(2)：保育者の基本的態度（カウンセリングマインド）	カウンセリングマインドを基礎を学ぶために、ロールプレイを実施する。積極的に参加すること。 事前学習：バイスティックの7原則について情報収集しておくこと。 事後学習：カウンセリングマインドについて概説できるように配布資料を整理すること。
	4	基礎理論(3)：アセスメント方法 小レポート1の課題を提示する。	子どもの発達を評価する各種の発達検査や知能検査について紹介する。 事前学習：第3回で提示するキーワードを元に書籍やインターネットなどでアセスメント方法の特徴について情報収集しておくこと。 事後学習：発達検査や知能検査の特徴について的確に述べられるようにまとめておくこと。
	5	事例(1)：子どもの障害、虐待	子どもの障害や虐待など、養育・発育環境に影響を及ぼしうる様々な事象について理解する。 事前学習：インターネットを活用して子どもの障害や虐待に関する記事を5件程度収集すること。 事後学習：子どもの養育・発育環境を悪化させる様々

			な事象について概説できるようにまとめておくこと。
	6	事例(2)：問題行動、習癖	子どもの問題行動や習癖など、養育・発育環境に影響を及ぼしうる様々な事象について理解する。 事前学習：インターネットを活用して子どもの習癖に関する情報を収集すること。 事後学習：子どもの養育・発育環境を悪化させる様々な事象について概説できるようにまとめておくこと。
	7	教育相談と子育て家庭の支援を並行することの重要性	なぜ、教育相談と子育て家庭の支援を並行して行う必要があるのかを理解する。保護者と保育者のロールプレイを元に、グループワークで支援方法を検討する。 事前学習：自身の親子関係について、第6回に提示するテーマを元に300文字程度で文章化しておくこと。 事後学習：返却される第1回の小レポートを元に、授業内容を整理しておくこと。
	8	基礎理論(4)：育児不安とストレス	現代的な子育て家庭が抱える育児不安やストレス、さらには育児不安やストレスに起因する課題について理解する。 事前学習：第7回で提示する育児不安に関するキーワードを元に情報収集すること。 事後学習：育児不安やストレスを低減するために必要なことを概説できるように配布資料を整理すること。
	9	基礎理論(5)：精神障害	思春期以降に起こりやすい精神障害と、親の心理状態の関連を理解する。 事前学習：第8回で提示する精神障害に関するキーワードを元に情報収集すること。 事後学習：親の心理状態を知る様々な指標について概説できるように配布資料を整理すること。
	10	基礎理論(6)：介入方法（行動療法、集団療法）	子どもと保護者のそれぞれを対象とした行動療法と集団療法について理解する。 事前学習：第9回で提示する心理療法に関するキーワードを元に情報収集すること。 事後学習：様々な心理療法の特徴について概説できるように配布資料を整理すること。
	11	事例(3)：子どもの発達や育て方に関する相談支援 小レポート2の課題を提示する。	子どもの行動変容を元にした保護者との関係構築を理解する。 事前学習：実習での体験をもとに、第10回で示されるテーマについて300字程度で文章化しておくこと。 事後学習：カウンセリングマインドについて概説できるように配布資料を整理すること。
	12	事例(4)：親の様々な悩みの相談	保護者が抱える様々な悩みについて理解を深める。 事前学習：実習での体験をもとに、第11回で示されるテーマについて文章化しておくこと。 事後学習：第11回の内容も併せて、保護者との関係構築の方法を概説できるように資料を整理すること。
	13	子ども家庭支援と教育相談を円滑に行うための園内体制	子育て家庭の支援と教育相談を円滑に行うための環境構成を中心に、どのような視点が必要かをグループワークを通して理解する。 事前学習：実習での体験をもとに、第12回で示されるテーマについて文章化しておくこと。 事後学習：園内体制の構築と維持について概説できるように配布資料を整理すること。
	14	地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携 小レポート3の課題を提示する。	地域の専門機関について、事前の情報収集を元に理解を深める。 事前学習：インターネットを活用して医療機関や福祉施設などの情報収集をしておくこと。 事後学習：返却される第2回の小レポートを元に、授業内容を整理しておくこと。
	15	子ども家庭支援と教育相談の課題 最終レポートの課題を提示する。	これまでの授業の総括と課題について整理する。 事後学習：最終レポート作成に向けて、配布資料を整理すること。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間半程度の事前学習と事後学習が必要である。事前学習として各回のテーマについて情報収集を行うこと。事後学習として授業中に提示するテーマについてまとめておくこと。特に小レポートは複数回の授業テーマに渡る内容について論じる必要があり、毎回のまとめが不可欠となる。また、最終レポートの制作時には既習知識の振り返りや文献調査等で多くの時間が必要となる。
教科書	使用しない。必要に応じて資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書： 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『保育所保育指針解説』（厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、ﾌﾚｰﾍﾞﾙ館、2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	小レポートにはコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①最終レポート40％ 目標②小レポート1(10%)、小レポート2(10%) 目標③小レポート2(10%)、小レポート3(10%) 目標④小レポート1(10%)、小レポート3(10%)

受講上の注意	各回の授業への質問や感想をミニッツペーパーを活用して収集し、次の授業冒頭でフィードバックを行う。ミニッツペーパーを積極的に活用することが望ましい。
教員の実務経験	公認心理師として行政機関、保育・幼児教育機関で心理支援を行っている教員が、子どもの発達保障や保護者支援のために必要な知識や援助方法について、講義を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもの保健　　授業コード： 2121901

英文科目名称： Child Health

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	２単位	選択
担当教員			
齋藤　正一			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	講義	ナンバリング：21B105
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子どもの生命を守り心身の健康を増進するために必要な情報･知識を身につけることである。成長･発達（合わせて「発育」と呼ぶ）の基礎、子どもの健康（健全な成長･発達）、疾病やケガ、その予防と対処、さらには子どもの生育環境、家庭や子どもにかかわる他の職種の人たちとの連携の重要性ならびに望ましいありかたについても学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	目標① 子どもの健康と健全な成長･発達のありかたを理解し、説明できる。	ＤＰ２	40
	目標② 「こころとからだの健康」という観点から、子どもと成人との違いに気づき、理解する。	ＤＰ２	30
	目標③ 子どもの病気やケガ、その予防と対策、発生時の処置に関する知識を自らが修得すると同時に、子どもや保護者などの他者に教えることもできる。	ＤＰ３	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	導入講義： １．オリエンテーション ２．用語の説明 ３．健康の概念 ４．「子ども」の範囲	事前学習： 講義前に教科書の目次（全て）に目を通しておく。 事後学習： 講義中に教科書を読んでおくように指導したときは、該当箇所を精読する。 講義に用いたプレゼンテーションのファイルは全１５回の講義が終了し、定期試験（および再試験）が完了するまでＬＭＳで閲覧･ダウンロード可能な状態にしておくので、各回の受講後に見直しや必要に応じて印刷して知識を確かなものにする。疑問や質問があれば、次の講義の際やＬＭＳメッセージを利用して問い合わせること。個別に回答するとともに、有益な質問に関しては受講者全員への講義対象に加える。
	2	発育の全体像と発育曲線： １．発育の全体像 ２．神経系型･生殖系型･リンパ系型･全身型の発育様式 ３．骨の成長、思春期、骨粗鬆症の関係	事前学習： 講義前に教科書の該当部分に目を通しておく（精読ではなく、ざっと見るだけで良い）。 講義に用いるプリント原稿のファイルは講義前にＬＭＳにアップロードするので、可能なら見ておく。。 事後学習： 講義中に教科書を読んでおくように指導したときは、該当箇所を精読する。 講義に用いたプレゼンテーションのファイルは全１５回の講義が終了し、定期試験（および再試験）が完了するまでＬＭＳで閲覧･ダウンロード可能な状態にしておくので、各回の受講後に見直しや必要に応じて印刷して知識を確かなものにする。疑問や質問があれば、次の講義の際やＬＭＳメッセージを利用して問い合わせること。個別に回答するとともに、有益な質問に関しては受講者全員への講義対象に加える。 （以下第３～１４回講義まで同様。）
	3	成長とその評価： １．骨と歯の成長と、その意味すること ２．身体測定と成長曲線	第２回講義と同様

		３．やせと肥満	
	4	発達（１）　発達の概要、知覚と運動の発達： １．成長と発達（復習） ２．発達全体のようす ３．知覚と認識の発達 ４．運動の発達 ５．発達の一里塚、直立歩行と手のはたらき	第２回講義と同様
	5	発達（２）言語、情緒、自我の発達： １．ことばの発達 ２．情緒の分化 ３．自我の発達：人見知り ４・自我の発達：反抗期 ５．学童期と学校･学級 ６．青年期	第２回講義と同様
	6	発達（３）知能と発達の評価： １．発達の評価 ２．知能とは何か ３．知能テスト･発達スクリーニング ４．知的障害と知的障害者	第２回講義と同様
	7	小児の栄養： １．小児にとっての栄養 ２．食事の習慣と摂食の技術 ３．乳栄養･離乳食･幼児食	第２回講義と同様
	8	子どもの病気、大人の病気との違い： １．病気とケガ：大人と子どもの違い ２．死亡統計･事故統計 ３．乳幼児の突然死	第２回講義と同様
	9	小児期トラブルの予防･対策･処置： １．事故防止と安全の確保 ２．応急処置 ３．日常的な問題と日頃の準備	第２回講義と同様
	10	出生と新生児期： １．出生と新生児に関する用語 ２．胎児期･周産期･新生児期 ３．正常の出生と新生児	第２回講義と同様
	11	周産期疾患、新生児疾患： １．低出生体重児（未熟児）と、未熟出生に伴う問題 ２．新生児（正期産児を含む）一般の異常 ３．「脳性まひ」について	第２回講義と同様
	12	感染症： １．感染とは何か ２．感染症の原因と病原体 ３．感染症の症状 ４．感染症の発症とその後の経過	第２回講義と同様
	13	感染症の予防と対策： １．発病の条件、病原体と感染経路 ２．感受性と抵抗力、免疫と予防接種 ３．医学的な感染症対策 ４．予防接種 ５．社会的な感染症対策（制度や法律）	第２回講義と同様
	14	感染症以外の小どもの疾患（とくに注意を要するもの）： １．免疫とアレルギー ２．知的障害･発達障害 ３．神経系の病気 ４．児童虐待 ５．チャイルドシート･揺さぶり症候群･むし歯	第２回講義と同様
	15	子どもに特有の疾患、授業全体のまとめ： １．川崎病 ２．腸重積症 ３．乳児の突然死 ４．本講義の最終メッセージ ５．期末テスト、ならびに受講後の案内	事前学習： 第１回～１４回までの講義プリント等をまとめ、目を通しておく。 事後学習： 終了した講義のプレゼンテーションと配布済みプリントを見返し、期末試験（レポートとなる場合もある）に備える。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。 ただし、感染症対策などのために筆記試験の施行が困難になった場合には、期末レポートの提出に変更することがある。期末レポートの提出を求めるときは、講義終了後に課題を提示することとする。
準備学習に必要な時間	授業内容は受講者にとって未知のことがらが多いと思われるので、学習時間は復習に重点配分すること（例：予習1時間、復習3時間）。 予習： このシラバス等で事前に案内された授業内容の概略をみて、教科書などの該当箇所に目を通しておく。 復習： 授業のノートやプリントを見直し、読むように指示された教科書の箇所を精読し、授業で強調された重要事項をふり返る。
教科書	巷野悟郎（編）　『子どもの保健』　7版（追補）　診断と治療社2018 手軽に読むことができ、詳し過ぎないという点において良い教科書といえるが、最終版の出版以後時間が経過し、法規や統計データに現状とのズレが生じている部分もあるので、授業の中で訂正や補足を行うこととする。
参考図書、教材、準備物等	教材： 以下のファイルをＬＭＳにアップロードする。①各回の講義プレゼンテーション（全15回の講義が終了するまで閲覧可能な状態で残置する。）、②講義時に配付したプリント。各回の講義内容は、その前後に学ん

	だ事柄と関連付けて学ぶことによって理解が深まる。これらの資料を参照しつつ復習するとよい。 準備物： 配付するプリントは合計５０枚程度になるので、保存して復習等に用いるためＡ４サイズのファイルフォルダーを準備しておくとよい。
課題（試験・レポート等）の フィードバック	各回の講義終了後、その回における重要なことがらに関して課題を出して解答を求める（「小テスト」と呼ぶ）。小テストを行う目的は、①出席の確認、②授業で得た知識の整理と確認、③授業内容の理解度評価、④理解の深化 である。必要に応じて後の講義の際に正解を提示して解説することもあり得る。なお、出席確認と成績評価にも用いるので、授業に出席した時には小テストの提出を忘れないように（配点比率は下記を参照せよ）。
評価の配点比率	目標① 期末試験の成績 20%、小テストの成績 20% 目標② 期末試験の成績 20%、小テストの成績 10% 目標③ 期末試験の成績 10%、小テストの成績 20%
受講上の注意	１．新型コロナウィルス等の感染対策が必要になった場合などを除き、原則として対面授業とする。ただし、天候、感染症、教員都合などの事情により対面授業が困難･不可能になった場合、非同期･オンデマンド形式の遠隔講義に変更する可能性がある。その際は、小テストへの解答、レポート課題等の提出、連絡等の受講関連作業などを通信ネットワーク（ＬＭＳ）を通じて行う。 ２．教育実習のため６月中に約３週間、講義が休講になる。前期中に１５回の講義を完了するため、前年度は２連続講義（４、５限目）の日を３日設けた。今年度も同様の日程を予定している。 ３．ＬＭＳはスマートフォンでも最低限利用できるように設定するが、以下の①～③を満たす環境を推奨する。①ネットワークにつ接続されていて、ＬＭＳとの間でファイルのアップロード/ダウンロードが可能なＰＣが利用できる。②プレゼンテーションマネジャー（用いるのは「パワーポイント」）、またはビューイングアプリケーション（「パワーポイントビュワー」など）が使用できる。③ダウンロードしたファイルの内容を印刷するプリンタが利用できる。 ４．環境が整わないときや動作不良などの不都合があるときは、大学の設備（ラーニング･コモンズ等）の利用等も考え、早い段階で大学（クラスアドバイザの教員、学び支援課職員など）の助言や支援を求めるとよい。 ５．その他、受講上必要な事柄は、講義開始前にＬＭＳに掲示して案内し、初回の講義でも説明する。 ６．対面授業では資料等も配布しつつ通常の講義を行なうので、必ずしもＬＭＳにアクセスする必要はなく、出席するだけで受講できる。しかし、対面授業でも講義のプレゼンテーションやプリントの原稿は、その都度ＬＭＳにアップロードし、復習や欠席した授業の自習等の便宜をはかるようにする。
教員の実務経験	小児科医として約40年間、子どもの医療に従事した。健全な発育をめざす子どもや保護者への対応･配慮･助言等、経験にから得たことがらも紹介したい。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもの食と栄養Ⅱ　　授業コード：2122001　2122002

英文科目名称： Nutrition for ChildrenⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
木内　貴子			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21B503
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子どもの発育・発達をふまえ、健康でたくましく育つために保育者に求められる食育の基本と内容を学び、実践力を高めることである。授業では、妊娠（胎児）期、乳児期、幼児期などの各ライフステージにおいて、子どもの発育・発達のために必要とする栄養や食生活、食環境などに関する知識や、特別な配慮を要する子どもの食事に関する基本的な知識について学習する。また、社会や家庭環境の変容を受け、さまざまな問題を抱える子どもの食生活の現状を考察し、子どもの育ちを意識した食育について考える。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深め、援助・指導ができる	ＤＰ２	30
	目標②調理実習を通して、発達段階に応じた食事づくりができる	ＤＰ３	10
	目標③保育所における食育の基本と内容、進め方について学び、食育計画を作成し、実施、評価、改善が一連の流れで実践できる。	ＤＰ５	25
	目標④心身の発育・発達の各段階で見られる食行動の問題や、特別な配慮を要する子どもの食生活についての基本的な知識を学び、問題や不調を早期に発見して、的確に対応することができる	ＤＰ６	25
	目標⑤グループ活動では和を尊重し協力しながら学びを高めることができる	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 妊娠・胎児期の食生活	妊娠と母体の変化、妊娠中の食生活 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：妊娠・胎児期に必要な栄養素について整理する（目標①） ※各回の事後学習に記載された目標番号は、授業の到達目標および評価に対応した番号です。
	2	乳児期の食生活と栄養（乳汁期）	乳児期の発育と栄養の特徴、母乳栄養の意義 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：母乳栄養、人工栄養それぞれの利点、問題点を整理する（目標①）
	3	乳児期の食生活と栄養（離乳期）	離乳の意味、離乳の進め方の基本、「授乳・離乳の支援ガイド」 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：「授乳・離乳の支援ガイド」を参考に離乳食の進め方を整理する（目標①）
	4	幼児期の食生活	幼児期の発育に伴う食行動の変化と課題 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：幼児期の食の問題と気になる行動について整理する（目標①）
	5	幼児期の栄養	幼児期に必要とされる栄養素の特徴と適切な量 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：間食の意義について整理する（目標①）
	6	児童福祉施設における食事と栄養（保育所給食）	保育所給食の栄養と内容 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：保育所給食の特徴をまとめる（目標③）
	7	調理実習（幼児期の食事）	7・8回の2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ）

			事後学習：実習報告書の作成（目標②）
	8	調理実習（幼児期の食事）	7・8回の2回の授業を使用して調理実習 事前学習：衛生管理について確認する（身だしなみ） 事後学習：実習報告書の作成（目標②）
	9	学童期・思春期の食生活	学童期・思春期の栄養の特徴　学校給食 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：学校給食の特徴についてまとめる（目標④）
	10	特別な配慮を要する子どもの食事	子どもの疾病と体調不良の原因、対処法 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：子どもの疾病とその対処法、食事内容をまとめる（目標④）
	11	子どもと食物アレルギー	食物アレルギーの原因と症状、その対処法 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：アレルギー児に対する保育の場での注意点をまとめる（目標④）
	12	食育の基本と内容	食育とは、食育の目的、保育所における食育 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：保育所保育指針における「食を営む力」について自分の考えをまとめる（目標③）
	13	食育の計画	食育の年間計画、食育指導案、評価の方法（グループワーク） 事前学習：範囲の教科書を読む、食育指導案作成のための情報収集 事後学習：食育指導案の作成、見直し、修正媒体づくりに必要な資料検討、媒体作成（目標③⑤）
	14	食育の実践	食育の実践発表：食育計画を実際に展開・表現、振り返り 発表：食育指導案に沿った食育講座の実践 事前学習：発表準備 事後学習：発表の振り返り（目標③⑤）
	15	保育所給食と家庭・地域との連携、まとめ	食を通じた家庭・地域への支援 事前学習：範囲の教科書を読む 事後学習：保育所の特性を生かした食に関する支援をまとめる（目標③）

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回１時間程度の事前・事後学習を要します。事前学習では教科書の予定範囲部分を読んでおきましょう。事後学習で授業内容をノートにまとめるようにしましょう。
教科書	岩田章子 寺嶋昌代 編　「新・子どもの食と栄養」（㈱みらい　2021）
参考図書、教材、準備物等	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）　その他、適宜案内します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方については第1回目のガイダンスで詳しく説明します。提出物は期日厳守とします。課題の内容が十分でない場合は再提出となることがあります。
評価の配点比率	期末定期試験40%　事後学習での課題取り組み課題45%　グループワーク10%　調理実習5% 目標①期末定期試験15%　課題15% 目標②調理実習5%　課題5% 目標③期末定期試験10%　課題15% 目標④期末定期試験15%　課題10% 目標⑤グループワーク10%
受講上の注意	この授業を通して、子どもの発育・発達をふまえた食生活を理解し、「食を営むを力」の育成に向けて、家庭や地域支援ができる保育者をめざしましょう。グループワークに備え、下調べ、情報収集をしましょう。調理実習ではアクセアサリーやマニュキュアを取る、清潔なエプロンを着用するなど身なりを整え、衛生管理に努めましょう。また、けがのないように注意しましょう。
教員の実務経験	保育園において栄養士経験がある教員が、現代の子どもの食を取り巻く環境をふまえ、適正な食習慣を支援するための食育について講義し、実践的な演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育内容総論　　授業コード：2122101　2122102

英文科目名称： Contents of Early Childhood Education and Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	必修
担当教員			
川崎　恵理			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C510
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実習経験を基に、乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に示されたねらい及び内容、及び指導計画の構造について理解を深めることである。また、各々が反省・評価を活かした指導計画に基づいて模擬保育を行うことによって、指導計画のあり方について具体的に学ぶ。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①幼稚園教育要領、保育所保育指針等における乳幼児期の教育・保育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解し、説明できる。	ＤＰ１	10
	目標②乳幼児期の教育・保育において育みたい資質・能力を踏まえて、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導法を理解し、説明できる。	ＤＰ４	20
	目標③乳幼児期の教育・保育における評価の考え方を理解し、説明できる。	ＤＰ５	17
	目標④領域ごとに乳幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解し、説明できる。	ＤＰ６	17
	目標⑤各領域の特性や乳幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育の構想に活用することができる。	ＤＰ４	11
	目標⑥指導計画の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導計画を作成することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑦模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	ＤＰ５	15
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	第１回	授業の概要（オリエンテーション） 子どもの発達に応じた指導計画の作成及び評価について	事前に、保育所保育指針第1章総則「３保育の計画及び評価」を読み、実習での指導計画を振り返り、担当したクラスでの指導についての反省・改善点について話せるようにしておく。（毎回グループワークを基に授業を進める。） グループワークと講義を基に指導計画を作成する。 【課題１】
	第２回	保育所保育指針に基づく保育の全体構造	事前に、保育所保育指針解説第1章１「保育所保育に関する基本原則」を読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第３回	模擬保育①、歴史的変遷	事前に、1回生教育課程総論の歴史的変遷を復習し、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第４回	模擬保育②、保育の内容の理解①（養護）	事前に、保育所保育指針解説第1章総則「２養護に関する基本的事項」を読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第５回	模擬保育③、保育の内容の理解②（教育）	事前に、保育所保育指針解説第2章保育の内容を読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
		模擬保育④、養護と教育が一体的に展開する保育	事前に、第4回、第5回の授業内容を復習し、両者が一体的に展開するとはどういうことかを自分なりにまと

	第６回		め、話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第７回	模擬保育⑤、子どもの主体性を尊重する保育	事前に、保育所保育指針第1章総則を読み、「主体性」「主体的」が出てくる部分をチェックしておき、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第８回	模擬保育⑥、環境を通して行う教育	事前に、保育所保育指針解説第1章総則「１保育所保育に関する基本原則」（４）保育の環境を読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第９回	模擬保育⑦、生活や遊びによる総合的な保育、個と集団を踏まえた保育	事前に、実習で見てきた遊びとその中での学びについて、グループワークで話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第10回	模擬保育⑧、家庭や地域との連携、小学校との連携・接続をふまえた保育	事前に、保育所保育指針解説第2章保育の内容「４保育の実施に関して留意すべき事項」（２）（３）を読み、グループワークでわからないことや確認したいことを話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、講義で学んだことをまとめて提出。
	第11回	模擬保育⑨、保育の多様な展開、模擬保育を終えて	模擬保育についての自己評価及び改善点等について話せるようにしておく。また、グループワーク後に模擬保育についてまとめる。【課題２】
	第12回	模擬保育まとめ、０歳児クラスの子どもの発達と保育内容について	事前に、保育所実習の実習日誌を振り返り、０歳児の姿をグループワークで話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、実践発表を基に「０歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめる。【課題３】
	第13回	１，２歳児クラスの子どもの発達と保育内容について	事前に、保育所実習の実習日誌を振り返り、１，２歳児の姿をグループワークで話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、実践発表を基に「１，２歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめる。【課題４】
	第14回	３，４歳児クラスの子どもの発達と保育内容について	事前に、保育所実習の実習日誌を振り返り、３，４歳児の姿をグループワークで話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、実践発表を基に「３，４歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめる。【課題５】
	第15回	５歳児クラスの子どもの発達と保育内容について	事前に、保育所実習の実習日誌を振り返り、５歳児の姿をグループワークで話せるようにしておく。 事後に、グループワーク、実践発表を基に「５歳児クラスの子どもの発達と保育内容」についてまとめるとともに、15回の授業を通しての学びをレポートにする。【課題６、まとめ】

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事前・事後学習が必要。さらに、指導計画作成、模擬保育の実施にあたっては、各自入念な準備を行うこと。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題は、評価をした上で必要に応じて添削、コメントし、フィードバックする。
評価の配点比率	目標①：第2，3回の記録（10%）　目標②：課題３～６（8%）第4～9回の記録（12%） 目標③：課題２（5%）第4～9回の記録（12%）　目標④：課題３～６（12%）第10回の記録（5%） 目標⑤：模擬保育（5%）第4～9回の記録（6%）　目標⑥：課題１（10%） 目標⑦：模擬保育（10%）課題２（5%）
受講上の注意	提出物は期限を守ること。提出物の遅れについては減点対象とする。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、子どもの発達に即した指導計画作成、模擬保育の実施、評価等に関する指導を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　うたと伴奏Ⅰ　　授業コード：2122201

英文科目名称：　Singing and the piano accompaniment　Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
木下　由香			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D501
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育現場で歌われる幼児の歌のピアノ弾き歌いの技能を身につけることである。テーマに沿った課題曲に歌唱とピアノ伴奏付けの二方面から取り組み、保育に必要な音楽表現力を高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①歌唱やピアノ演奏をするために必要不可欠な楽典（音楽の決まり）を理解し、楽譜を読むことができる。	ＤＰ４	25
	目標②創意工夫を生かした音楽表現をするために、音符を正しく読み取る基礎技能を身につけ、正確な音程で表情豊かに歌うことができる。	ＤＰ４	25
	目標③楽譜から音楽を形づくっている要素を知覚し、音程・リズム・音型の判断をしながら、歌唱やピアノ演奏につなげることができる。	ＤＰ６	25
	目標④幼児の歌に関心を持ち、歌唱やピアノの学習に主体的に取り組もうとする。	ＤＰ７	25
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 保育現場におけるピアノの役割と保育者の役割について考える。	課題を仁短Moodleに提出する。
	2	幼児の歌①ピアノ コードの読み方を理解することができる。	課題曲を事前にお知らせするので、2曲以上練習しましょう。授業後は、必ず復習をしましょう。
	3	幼児の歌①歌唱〔ゲストスピーカー〕 右手で歌の旋律を弾きながら、はっきりと伝える歌い方ができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	4	幼児の歌②ピアノ コードの付け方を理解することができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	5	幼児の歌②歌唱〔ゲストスピーカー〕 右手で旋律を弾きながら、簡単な左手をつけて音楽的に歌うことができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	6	幼児の歌③ピアノ コードネームをつけ、両手で演奏し、さらに曲想にあった伴奏型を選ぶことができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	7	幼児の歌③歌唱〔ゲストスピーカー〕 歌譜を読み、和音を感じ、右手で弾きながら表情豊かに歌うことができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	8	幼児の歌④ピアノ 移調奏をすることができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	9	幼児の歌④歌唱〔ゲストスピーカー〕 ヘ長調の曲を歌う。	課題曲から1曲完成させましょう。
	10	幼児の歌⑤ピアノ 移調奏ができ、曲のイメージを表現することができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	11	幼児の歌⑤歌唱〔ゲストスピーカー〕 ヘ長調の曲を歌う②リピート記号を正しく読み取り、ハ長調との違いを感じながら表情豊かに歌う。	課題曲から1曲完成させましょう。
	12	幼児の歌⑥ピアノ 音のバランスを考えて演奏することができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
		幼児の歌⑥歌唱〔ゲストスピーカー〕	課題曲から1曲完成させましょう。

	13	曲のイメージをふくらませて、歌の表現に生かすことができる。	
	14	幼児の歌⑦ピアノ 楽曲の分析および歌詞の理解を踏まえて、表情豊かな演奏をすることができる。	課題曲から1曲完成させましょう。
	15	幼児の歌⑦歌唱〔ゲストスピーカー〕 楽曲の分析および歌詞の理解を踏まえて、表情豊かな演奏をすることができる。	課題曲から1曲完成させましょう。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	1時間程度の事前事後練習を行ってください。どうしても鍵盤に触れることができない時は、楽譜を黙読するだけでも有効です。
教科書	『こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1975)、『続こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1996)
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『こどものうた100』（小林美実監修 チャイルド本社 1982）、『こどものうた12か月』（井上勝義編 ひかりのくに 2003) 教材：適宜プリントを配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各回毎に個別に演奏を確認します。ピアノの回では記譜課題があり、授業内で確認します。
評価の配点比率	目標①実技 25%、目標②実技 25%、目標③実技 25%、目標④実技 25%
受講上の注意	連絡事項等は仁短Moodleを使って連絡する。その他、質問等があれば、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　うたと伴奏Ⅱ　　授業コード：2122301

英文科目名称：　Singing and the piano accompaniment Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
木下　由香			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21D502
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、「うたと伴奏Ⅰ」に引き続き、さらに保育現場で歌われる幼児の歌のピアノ弾き歌いの技能を身につけ、レパートリーを増やすことである。テーマに沿った課題曲に歌唱とピアノ伴奏付けの二方面から取り組み、保育に必要な音楽表現力を高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①歌唱やピアノ演奏をするために必要不可欠な楽典（音楽の決まり）を理解し、楽譜を読むことができる。	ＤＰ４	20
	目標②創意工夫を生かした音楽表現をするために、音符を正しく読み取る基礎技能を身につけ、正確な音程で表情豊かに歌うことができる。	ＤＰ４	20
	目標③楽譜から音楽を形づくっている要素を知覚し、音程・リズム・音型の判断をしながら、歌唱やピアノ演奏につなげることができる。	ＤＰ６	20
	目標④幼児の歌に関心を持ち、歌唱やピアノの学習に主体的に取り組もうとする。	ＤＰ７	20
	目標⑤グループやペアでの合唱や演奏などに積極的に参加し、他者との関係づくりができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス 保育現場におけるピアノ弾き歌いを行う意義や保育者の役割について考える。	課題を仁短Moodleに提出する。
	2	幼児の歌①ピアノ ハ長調の和音について理解し、拍を感じて演奏することができる。	課題曲を事前にお知らせするので、2曲以上練習しましょう。授業後は、必ず復習をしましょう。課題を仁短Moodleに提出する。
	3	幼児の歌①歌唱〔ゲストスピーカー〕 ハ長調の曲を使用し、曲の内容を理解して子どもに伝える歌い方ができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	4	幼児の歌②ピアノ ハ長調の様々な曲想を理解し、両手で弾くことができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	5	幼児の歌②歌唱〔ゲストスピーカー〕 ハ長調の様々な曲想を理解し、子どもと共に楽しむ歌い方ができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	6	幼児の歌③ピアノ ヘ長調の和音について理解し、子どもの声や様子を感じながら演奏することができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	7	幼児の歌③歌唱〔ゲストスピーカー〕 ヘ長調の曲を使用し、発声に留意しながら音楽的に歌うことができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	8	幼児の歌④ピアノ ヘ長調の曲をリズムなど気をつけながら両手で弾くことができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	9	幼児の歌④歌唱〔ゲストスピーカー〕 ヘ長調の様々な曲想を理解し、子どもと共に楽しむ歌い方ができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	10	幼児の歌⑤ピアノ ト長調の和音について理解し、ピアノの音色を良く聞きながら両手で弾くことができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
		幼児の歌⑤歌唱〔ゲストスピーカー〕	課題を仁短Moodleに提出する。

	11	ト長調の曲を使用し、様々な曲想を表現して音楽的に歌うことができる。	
	12	幼児の歌⑥ピアノ ニ長調の和音について理解し、曲の構成を理解しながら両手で弾くことができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	13	幼児の歌⑥歌唱〔ゲストスピーカー〕 ニ長調の曲を使用し、様々な曲想を表現して音楽的に歌うことができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	14	幼児の歌⑦ピアノ 変ホ長調や短調の和音について理解し、曲想を踏まえて表情豊かな演奏をすることができる。	課題を仁短Moodleに提出する。
	15	幼児の歌⑧歌唱〔ゲストスピーカー〕 変ホ長調や短調の曲を使用し、曲想を理解し表情豊かに歌うことができる。	課題を仁短Moodleに提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	1時間程度の事前事後練習を行ってください。どうしても鍵盤に触れることができない時は、楽譜を黙読するだけでも有効です。
教科書	『こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1975）、『続こどものうた200』（小林美実編 チャイルド本社 1996）
参考図書、教材、準備物等	参考図書：『こどものうた100』（小林美実監修 チャイルド本社 1982）、『こどものうた12か月』（井上勝義編 ひかりのくに 2003） 教材：適宜プリントを配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各回毎に課題を仁短Moodleに提出してもらいます。提出後、個別講評をフィードバックします。
評価の配点比率	目標①提出物 20%、目標②提出物 20%、目標③提出物 20%、目標④提出物 20%、目標⑤授業態度 20%
受講上の注意	連絡事項等は仁短Moodleを使って連絡する。その他、質問等があれば、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 乳児の生活とあそび　　授業コード： 2122401

英文科目名称： Life and Play in Infants

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
川崎　恵理・長谷川　清美・坂本　流美			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21C508
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、乳児、および１歳以上３歳未満児における生活や遊びの様相やその発達的変化についての知識を習得し、乳児保育など他科目で学んだことをベースとして、具体的な関わり方について考察を深め、遊びのレパートリーを広げていくことを目的とする。 担当教員は以下の通りである。 川崎恵理：第1回　授業内容の説明 長谷川清美：第2回～第8回　乳児の生活 坂本流美：第9回～第15回　乳児のあそび		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①乳児および3歳未満児の心身の発達を習得し、生活習慣の自立を促す保育の展開について説明できる。	ＤＰ２	26
	目標②個人差に応じた生活面の援助や、乳児および3歳未満児の自信や意欲につながる関わりができる。	ＤＰ７	12
	目標③コミュニケーションを通じて、職員同士が共通理解し、連携して保育することを学習し、子どもの行動や動線を予測して保育することができる。	ＤＰ５	12
	目標④乳児および3歳未満児の発達段階を踏まえた様々な「わらべうたあそび」の基本的演習を通して遊びのレパートリーを広げる事ができる。	ＤＰ３	20
	目標⑤乳児および3歳未満児の自ずと持っている繊細で鋭敏な感受性に働きかけ、表現する意欲と豊かな創造性を引き出す為の手法を理解する。	ＤＰ４	20
	目標⑥目標④⑤を踏まえ乳児および3歳未満児の遊びの指導計画をねらいを持って作成できる。	ＤＰ６	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	【川崎担当分】 乳児の生活と遊びを学ぶ意義	授業の進め方、評価等について説明する。
	2	【乳児の生活：長谷川担当分2～8回】 ３歳未満児の１日の生活の流れを知り、安全で、安心して過ごすことができる環境づくりについて ①乳児とのふれあい遊び　②朝の受け入れ時の保育案作成	グループワーク：朝の受け入れ時の保育案を作成。（保育室の環境整備、子どもとの関わり方、子どもの健康観察、保護者との連携、保育士間の子どもに関する情報共有などについて考える） 2~8回・事前学習：実習先の園で保育士が実践していたことを振り返り、グループワークの準備をする。 2~4・沐浴人形を乳児に見立てふれあい遊びや生活指導を行うので動きやすい服装で参加すること。 2～8回・グループワークで作成した保育案や指導案は提出すること。また、講義終了時に振り返りレポートを提出すること。
	3	０歳児の発達と生命の保持、情緒の安定、生理的欲求を満たす保育の方法について ①安全な抱き方やおんぶの仕方（実習）　②火事、地震から乳児を守る（模擬・避難訓練）	グループワーク：避難訓練の指導案作成（職務分担・安全配慮について） 事後学習：授業資料の復習
	4	消化器官の発達と、ミルクの与え方、離乳食の進め方、食事面の基本的生活習慣の自立を促す保育について ①ミルクの作り方（実習）　②離乳食の食べさせ方・野菜ペーストを使いスプーンの扱い方を知る（実習）	グループワーク：食事面に関する保育案作成。（ミルクの作り方と飲ませる時の関わり方、離乳食の進め方・与え方、スプーンや箸の持ち方等の指導方法について実践を通して考える） 事後学習：具体的な関わり方を復習。また、身近な所で実践したり、親子の様子に目を向けたりする。

	5	身体機能や言語の発達と、個人差に配慮した衣類の着脱に関する保育の方法について ①保育中の嘔吐の処置の仕方　（実習）②嘔吐した園児の対応とその他の園児の誘導について（実習）	グループワーク：着脱面に関する保育案作成。個人差に応じたきめ細やかな保育の仕方（言葉がけ・行動見本・見守り・褒めるなど）について実践を通して考える） 事後学習：授業内容の復習。また、身近な所で、実践したり、親子の様子に目を向けたりする。
	6	脳や排泄器官の発達と、排泄の自立を促す保育の方法について ①トイレトレーニングのタイミングとは　②トイレの環境構成について	グループワーク：トイレトレーニングに関する保育案を作成。（子どもの不安に寄り添い、自信や意欲につながる言葉がけや環境構成について考える） 事後学習：図書館などで、事例が書かれた本を探し、学習を深める。
	7	人間関係に関わる発達や自己中心性などの３歳未満児の特性を理解し、子ども同士の交流を深める援助の仕方や子ども同士のトラブル時の仲立ちの仕方について ①月案・個別の指導案の書き方について学ぶ	グループワーク：事例検討（事例を通して、子どもの社会性を育む仲立ちの仕方について考える） 事後学習：図書館などで事例が書かれた本を探し、学習を深める。
	8	生活をスムーズに進めたり、探索活動を保障したりするために必要な保育士同士の連携について 新任の保育士に求められる専門性について	子どもの行動や動線を予測して、コミュニケーションしながら、職員同士が共通理解したり、連携したりして保育していることを学習し、その中で自分が果たす役割を考える。 中間レポート：３歳未満児の生活面で学習したことや大切にしたいこと、さらに、新任の保育士として取り組んでいきたいことについて記載し提出する。 事後学習：社会人として言葉の使い方、文章の書き方、質問の仕方、保育士の専門性について、復習。
	9	【乳児のあそび：坂本担当分9～15回】 乳児および3歳未満児のあそびにとっての音楽教育の役目・わらべうたあそびの大切さについて知る わらべうたあそびの実践（楽しさを知る）	グループワーク 事前学習：知っているわらべうたを考える 事後学習：幼児教育での必要性を復習
	10	通常のわらべうたあそびの実践①親子遊び・マンツーマンのふれあいあそび	グループワーク 事前学習：習ったわらべうたを覚える 事後学習：あそび方を理解する
	11	通常のわらべうたあそびの実践②小物を使ったあそび	グループワーク 事前学習：習ったわらべうたを覚える 事後学習：あそび方を理解する
	12	文学とわらべうたあそび①六角変わり絵の制作	事前学習：六角変わり絵の展開を考える 課題：仕上げてくる
	13	文学とわらべうたあそび②六角変わり絵を使っての発表	グループワーク 事前学習：六角変わり絵の発表の練習 課題：仕上げてくる
	14	わらべうたあそびを取り入れた指導案作成	事前学習：習ったわらべうたを振り返る 課題：指導案を仕上げる
	15	指導案の発表 授業全体の振り返り	グループワーク 事前学習：発表の練習 事後学習：振り返り

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前事後学習が必要。
教科書	教科書は使用しない。適宜資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	・『保育所保育指針解説』（厚生労働省編、フレーベル館、2018） ・『幼稚園教育要領解説』（文部科学省編、フレーベル館、2018） ・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省編、フレーベル館、2018） （乳児の生活） ・『資料でわかる乳児の保育新時代』（乳児保育研究会編、ひとなる書房、2018） ・『現代の保育学８　第９版　乳児保育』（待井和江・福岡貞子編、ミネルヴァ書房、2015） （乳児の遊び） ・『わらべうた・音楽の理論と実践―就学前の音楽教育』（フォライ・カタリン著・知念直美編・畑玲子訳、明治図書出版、1991） ・『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 春・夏』（畑玲子・知念直美・大倉三代子、明治図書出版、1994） ・『幼稚園・保育園のわらべうた・あそび 秋・冬』（畑玲子・知念直美・大倉三代子、明治図書出版、1994） ＜準備物＞制作の時、定規・ハサミ・のり・黒マジック・色鉛筆・クレヨンを各自準備する
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポートやグループワークで作成した保育案・事例検討記録については、次回授業でフィードバックする。 質問等がある場合は川崎研究室を訪問するか、電子メール、Moodleで連絡すること。
評価の配点比率	目標①実践を通し、課題の習得状況6%（1%×6回）振り返りレポート6%（1%×6回）レポート5%（第8回の授業）、ふれあい遊びの設定保育9%（保育案2%事前準備2%　実践での表現力5%） 目標②保育案及び事例検討記録の作成12%（2%×6回） 目標③毎回の授業参加態度（グループワークでの事前準備・自分の意見を伝える・相手の意見を聞く・折り合いをつける）12%（2%×6回） 目標④授業復習（あそび方やわらべうたを覚えている）15%　授業復習レポート5% 目標⑤六角変わり絵作成5%　発表7%　事前レポート3%　授業復習レポート5% 目標⑥保育指導案作成5%　実践での表現力5%
受講上の注意	・実践やグループワークを通した理論や技術の習得を重視する為、積極的・意欲的な参加を求めます。 ・制作の時は事前に案を考えてくる。定規・ハサミ・のり・黒マジック・色鉛筆・クレヨン各自準備する。 ・わらべ歌実技の時は動きやすい服装で受講すること。

	・配布したプリントや作成したレポートは各自ファイルに綴ること。
教員の実務経験	保育士として乳児保育に携わった経験を活かし、事例を挙げながら授業を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 障害児保育と特別支援Ⅰ　　授業コード：2122501　2122502

英文科目名称： Child Care for Children with Disabilities and Special Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21C507
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、心身の障害や生活環境による困難を抱える乳幼児の状態像を理解するとともに、適切に支援していくための基本的考え方を身につけることを目的とする。また、特別支援教育を支える理念、制度、仕組みを理解し、それを実現するための協働体制について理解する。このため、講義を中心としながら、適宜ワークシートなどを用いて自ら考える機会を持ちながら授業を進めていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け％
	①特別の支援を必要とする乳幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。	ＤＰ２	60
	②特別の支援を必要とする乳幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。	ＤＰ２	30
	③障害はないが特別の教育的ニーズのある乳幼児、児童及び生徒の把握や支援について理解する。	ＤＰ２	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】		
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション、特別な支援を必要とする子ども達とは？	特別な支援を必要とする子どもとはどのような子どもたちだろうか。さまざまな情報をもとに、多角的に考えてみよう。 事後学習：実習やボランティアの経験から、資料について理解を深める。
	2	特別支援教育を支える理念	特別支援教育を支える理念と、保育者に求められる視点や行動について考えてみよう。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、自分の行動傾向について理解を深める。
	3	障害の状態像と支援方法の理解①：知的能力障害とダウン症	知的能力障害とその支援に資するさまざまな知識を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、知的能力について理解を深める。
	4	障害の状態像と支援方法の理解②：自閉症スペクトラム障害	自閉症スペクトラム障害の特徴を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、社会性、コミュニケーション、イマジネーションの発達について理解を深める。
	5	障害の状態像と支援方法の理解③：注意欠如・多動性障害	注意欠如・多動性障害の特徴を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、1次障害だけでなく2次障害についても理解を深める。
	6	障害の状態像と支援方法の理解④：発達期における限局性学習障害と協調運動障害	学習障害など学齢期で課題となりうる障害について学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、幼児期にどのような支援が

			できるのかを考える。
	7	障害の状態像と支援方法の理解⑤：視覚・聴覚障害	情報保障の重要性を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、保育・幼児教育現場ではどのような支援ができるのかを考える。
	8	障害の状態像と支援方法の理解⑥：コミュニケーションの障害	コミュニケーションの障害と、その把握のための具体的方法を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：事例と資料をもとに、保育・幼児教育場面での支援をシミュレーションする。
	9	障害の状態像と支援方法の理解⑦：肢体不自由と病弱 レポート課題1を呈示する。	肢体不自由児および病弱児について概説する。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	10	生活環境による特別な教育的ニーズの理解と支援	子どもの生活する環境や所属しているコミュニティによりニーズが変化しうることを学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、自身の過去の経験についてまとめる。
	11	問題行動と発達のグレーゾーン レポート課題2を呈示する。	子どもに関わる大人側の要因によっても子どもたちの行動が変化することを学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料をもとに、自身の過去の経験についてまとめる。
	12	特別支援教育に関する制度とその仕組み	就学前のさまざまな準備と就学後に利用できる社会資源を概説する。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	13	保育形態とインクルーシブ教育	子どもたちを育む環境構成の視点と、その背景の思想について学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	14	個別の指導計画を作成する意義と方法 レポート課題3を呈示する。	個別の指導計画の重要性を学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。
	15	支援体制の構築と連携の重要性 レポート課題4を呈示する。	園内での支援体制の構築や、専門機関との連携の重要性について学ぶ。 事前学習：前回の授業で示されるキーワードをもとに情報収集を行うこと。 事後学習：資料の理解を深める。

定期試験	■試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	各授業回で合計1時間程度の事前・事後学習を前提としてレポート課題、期末試験を実施する。
教科書	『新・基本保育シリーズ⑰　障害児保育』（西村重稀，水田敏郎編、中央法規出版、2019） その他、必要に応じて資料を配布する。
参考図書、教材、準備物等	『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館、2018） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館、2018） 『幼保連携型認定こども園教育･保育要領解説』（内閣府・文部科学省・厚生労働省、フレーベル館、2018） 『やわらかアカデミズム・わかるシリーズ よくわかる障害児保育　第2版』（尾崎康子，小林真，水内豊和，阿部美穂子編、ミネルヴァ書房 2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート課題について、特に良かったものを個人名を伏せて授業時に紹介する。
評価の配点比率	目標①：期末試験（60%） 目標②：レポート課題2（15%）、レポート課題3（15%） 目標③：レポート課題1（5%）、レポート課題4（5%）
受講上の注意	
教員の実務経験	公認心理師として行政機関、保育・幼児教育機関で心理支援を行っている教員が、子どもの発達保障や保護者支援のために必要な知識や援助方法について、演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 障害児保育と特別支援Ⅱ　　授業コード：2122601　2122602

英文科目名称： Child Care for Children with Disabilities and Special Needs

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分	
後期	２年次	１単位	選択	
担当教員				
内田　彰夫				
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修		演習	ナンバリング：21C512
添付ファイル				

授業の概要	本授業では、『障害児保育と特別支援Ⅰ』での基本的知識をもとに障害特性の理解を深め、子どもたちの力やつまずきに気づく視点を身につけることと、子どもひとりひとりの特性理解に基づいた具体的な支援の組み立て方を知ることを目的とする。そのために、授業内において架空事例を用いて「自分ならどう支援するか」をまず各自で考える機会を設定する。次に自分の考えを他学生と共有することを通して自身の視点を拡げる機会とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①園生活における、子どものつまずきや困難さに気づくことができる。	ＤＰ２	30
	目標②子ども一人一人の特性理解に基づき、子どもが過ごしやすく、力を発揮しやすい環境を構築できる。	ＤＰ２	20
	目標③問題に対処するために、行動背景を分析し、仮説に基いて支援計画を立て、プランに沿って支援を実施し、支援成果を評価し、支援を再構成できる。	ＤＰ５	20
	目標④子どものよりよい育ちのために、保護者との協働、教育機関など関係機関との連携が行える。	ＤＰ６	20
	目標⑤子どもを地域で支えていく上での、地域における現状と課題を考えることができる。	ＤＰ８	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	子どもひとりひとりの特性を理解する①	代表的な発達障害の行動特性についての概説と、子どもの行動の様子から推測される特性について学ぶ。授業の冒頭で、本授業のガイダンスを行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事前学習として、教科書の該当する部分に目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	2	子どもひとりひとりの特性を理解する②	一人一人の子どもの特性を知るためのアセスメントについて概説する。幼児期支援の現場でよく使用される代表的な発達検査を紹介し、実施方法や結果の解釈について概略を学ぶ。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事前学習として、教科書の該当する部分に目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
		個々に応じた支援方法①『安心』を支援する	子どもが不安や苦痛を感じる側面の多様さを学び、環境の何らかの側面にデリケートなお子さんへの気づきと支援について考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について

	3		解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	4	個々に応じた支援方法②『ひとりでできた』を支援する	身の回りのことを自立して行えるようにするために、子どもがどこでつまずいているのかを分析する手法について学び、どんな支援ができるかを考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	5	個々に応じた支援方法③『コミュニケーション』を支援する（表出の支援）	表出において子どもたちが示す様々なつまずきと、支援のアイデアについて学び、子どもがより『伝えやすい』ようにどのような支援ができるかを考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	6	個々に応じた支援方法③『コミュニケーション』を支援する（理解の支援）	理解において子どもたちが示す様々なつまずきと、支援のアイデアを学び、子どもがより『理解しやすい』ようにどのような支援ができるかを考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	7	個々に応じた支援方法④『集団活動に参加しにくい』を支援する	子どもたちが集団活動に参加しにくい場合のさまざまな要因と、それに対する支援アイデアについて学び、子どもがより『参加しやすい』ようにどのような支援ができるかを考える。また多様な『参加』のあり方について考える機会ともする。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	8	個々に応じた支援方法⑤『望ましくない行動』に対して支援する（行動の背景を分析する）	望ましくない行動の背景を分析する手法の一つとしてABC分析について学ぶ。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	9	個々に応じた支援方法⑤『望ましくない行動』に対して支援する（対処策をたてる）	行動背景の分析によって得られた仮説に基づいた対処策のたて方を学ぶ。また予防的対応が大切であることを学ぶ。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事前学習として前回のレジュメに目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
		個々に応じた支援方法⑥視覚障害、聴覚障害に対して支援する	資料（動画またはプリント）を視聴し、情報入力が制限されることの困難さについて知り、それらに対す

	10		る工夫や配慮について自分たちができることを考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事前学習として、教科書の該当する部分に目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	11	保護者や家族に対する理解と支援	家族とのやりとりについて家族の立場から考えてみる。家族と協働して子どもを支援するために、自分たちができることについて考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事前学習として、教科書の該当する部分に目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	12	『支援』について考える	なぜ『早期支援』が大切なのかを学び、早期支援における自分たちの役割について考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事前学習として、教科書の該当する部分に目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	13	関係機関と連携した支援（縦の連携/横の連携）	子どもたちによりよい支援を行うために、連携を効果的に行うためのポイントについて学ぶ。また、次の支援者（例えば就学時の学校）にどういった情報を引き継ぐとよいのかを考える。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において、各々が4月から働くことになる地域において、幼児期支援を行う機関にはどういったところがあるかを調べ、ワークシートに記入する。同時に地域の課題を考えてみる。ワークシートは提出する。 事前学習として、教科書の該当する部分に目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	14	個別の支援計画を立てる際のポイント	個別の支援計画を立てる上でのポイントを学び、子どもに合わせた目標設定と具体的な支援方法を考える。『合理的配慮』の考え方について学ぶ。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 授業内において架空事例を用いたワークを行う。架空事例に関する設問について、まず自身で考えてワークシートに記入し、記入した内容をグループワークで他学生と共有する。ワークシートは提出する。 事前学習として、教科書の該当する部分に目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
	15	本授業全体のふりかえり	本授業全体を振り返り、子どもたち一人一人に合わせた支援のために、自分たちが保育士としてできることを整理する。授業全体を通しての質疑応答の時間を設ける。 授業の冒頭で前回提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点について解説を行う。 ワークシートを記入し、記入した内容についてグループワークで他学生と共有する。 事前学習として、これまでのレジュメに目を通しておくこと。事後学習として、授業で配布したレジュメを見直して、授業内容を頭の中で整理すること。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事前/事後学習が必要。 事前学習：授業内容について、教科書の対応する範囲を読むなどして事前に理解を深めておく（毎回30分程度）。 事後学習：事業で使用したレジュメを読み返し、授業内容の整理を行う（毎回30分程度）。		

教科書	「障害児保育と特別支援Ｉ」で指定されている書籍を利用する。
参考図書、教材、準備物等	参考図書については、授業内で適宜紹介する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	提出したワークシートの内容について、特に重要なポイントや補足が必要な点を次の授業の中で解説する。
評価の配点比率	目標①ワークシート記述内容30% 目標②ワークシート記述内容20% 目標③ワークシート記述内容20% 目標④ワークシート記述内容20% 目標⑤ワークシート記述内容10%
受講上の注意	各回のワークシートについては、設問に対してまず自分で考えて記入すること。その後自分の考えを他生徒と共有する機会を設けるので、多様な視点を身に着けるために、他者の考えに耳を傾けること。他者の考えやアイデアも聴いたうえで再度自分の考えを整理し、ワークシートに記入して提出する。ワークシートの記載内容を評価の材料とする。
教員の実務経験	児童発達支援事業および保育カウンセラー事業における実務経験を活かし、子どもの特性理解に基づいて支援を組み立てていくプロセスなど、実践的な内容を演習に取り入れる。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育の専門性　　授業コード： 2122701

英文科目名称： Professional Competence for Sustainable Early Childhood Education and Care

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	講義	ナンバリング：21A504
添付ファイル			

授業の概要	本講義の目的は、現場保育者に求められる専門性とは何かを理解することである。具体的には、日常的に求められる基礎的な表現力や、遊びを充実させるための環境構成・指導方法について確認していくなかで、保育者はどのような実践知（勘やコツ）を働かせているのか考察していく。さらに、子どもを理解するうえで欠かせない専門的な観察方法および記録方法について、実際に附属幼稚園を訪問しながら修得するとともに、子どもの遊びやそこでの学びをどのように評価すべきか受講生同士で議論していく。ほかにも、昨今の保育現場の課題としてのICT化・DX化へ対応するための技術獲得や、外国籍の子どもと保護者への支援方法の理解も目指していく。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標① 「保育」に特有の考え方や方法（遊びを通じた保育、子ども中心主義、環境構成）について説明できる。	ＤＰ１	20
	目標② 保育者が特有の勘やコツを働かせている場面（臨機応変に思考したり即座に判断したりしている場面）について説明できる。	ＤＰ４	20
	目標③ 観点に基づきながら子どもの姿を観察できる。	ＤＰ２	20
	目標④ 観察した子どもの姿を特定の方法で記録することで、子どもの遊びやそこでの学びについて説明できる。	ＤＰ５	20
	目標⑤ 保育業務および保育実践においてICTを活用できる。	ＤＰ３	10
	目標⑥ 外国籍の子どもと保護者への支援方法について説明できる。	ＤＰ３	10

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。
	【主体性・多様性・協働性】	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション：授業紹介	毎回、授業内容に関する小課題がある。授業毎に取り組み、LMS（仁短Moodle）に提出すること。 なお、15回の授業のうち、附属幼稚園での観察を複数回行う。附属幼稚園の行事等の関係で、授業内容の実施順序が入れ替わる場合がある。
	2	自然に親しむ：蚕の飼育（養蚕と福井）、ネイチャーゲーム	福井の文化を語る際に欠かせない「蚕」について、その生態と飼育方法について学ぶ。併せて、子どもたちが小動物を飼育する際の指導のコツなどについても考察する。加えて、自然を体感する様々な遊びについて実際経験しながら理解を深める。
	3	音を楽しむ：音楽ワークショップ	子どもたちと楽しく音楽活動を展開するために、保育者が身につけておくべき指導のコツについて考察する。
	4	言葉に出会う：絵本ワークショップ	国内外で出版されている多種多様な絵本のなかから、自分のお気に入りの一冊を選び、他の受講生にそれを紹介する。お互いに絵本を紹介し合うことで、様々な世界に触れるとともに、子どもたちがそれらの絵本をどのように感じるのかについて考察する。
	5	伝統文化に親しむ：和太鼓の叩き方と指導	短大の和太鼓を実際に叩きながら、受講生全員で曲を練習し完成させる。併せて、子どもたちへの指導のコツについて考察する。
	6	保育における観察・記録・評価（1）：附属幼稚園での観察・記録【PART ｉ】	附属幼稚園の各クラスに分かれながら、自由遊び、クラス活動などを観察し記録する。記録用紙は期日までに完成させ提出すること。
	7	保育における観察・記録・評価（2）：観察・記録の方法	前回の自分の観察・記録を踏まえながら、専門的な観察方法および記録方法について理解する。

	8	保育における観察・記録・評価（3）：附属幼稚園での観察・記録【PART ⅱ】	附属幼稚園の各クラスに分かれながら、自由遊び、クラス活動などを観察し記録する。記録用紙は期日までに完成させ提出すること。
	9	保育における観察・記録・評価（4）：観察・記録にもとづく評価	前回の自分の観察・記録をもとに、記述内容から子どもの遊びやそこでの学びをどのように評価していくのか受講生同士で議論する。
	10	保育における観察・記録・評価（5）：附属幼稚園での観察・記録【PART ⅲ】	附属幼稚園の各クラスに分かれながら、自由遊び、クラス活動などを観察し記録する。記録用紙は期日までに完成させ提出すること。
	11	ICT利活用（1）：パソコン操作を磨く	パソコン室において、Excelを用いて少し複雑な表を作成するという課題に取り組む。事前に、Excelの基本的操作を確認しておくとよい。
	12	ICT利活用（2）：動画編集を学ぶ	スマホを用いた簡単な動画編集の方法を学ぶ。特に、「尺」の長さと「カット」の技術について理解を深める。
	13	多文化保育（1）：福井に暮らす外国籍の人々とその言葉	福井県国際交流協会ホームページで示されている外国語のうち「ポルトガル語」「ベトナム語」「中国語」に親しむとともに、それぞれの文化的特徴について調べまとめる。
	14	多文化保育（2）：外国籍の子どもと保護者への支援	実際に外国籍の子どもや保護者と情報を共有するためのコミュニケーションツールとして、園生活でよく使う言葉や文章を日本語/外国語で併記した「シート」や「絵カード」を作成する。
	15	まとめ：「保育者になる」ということ	５年後の自分に向けて手紙を書く。 第15回終了後、授業内容に基づく最終レポートを作成し期限までに提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	各回、事前課題を仕上げるのに２時間程度必要。 （附属幼稚園での観察をもとに記録用紙をまとめる回では、１回当たり３時間程度必要） ※最終レポート作成には、さらに時間が必要となる。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	参考図書：講義中に随時紹介する。 教　材：適宜、資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	環境構成・指導方法（表現力）等については、授業内での活動に対して、その都度その場でフィードバックを行う。他方、子どもを観察・記録し提出された課題については、授業担当者が添削・コメントしたPDFデータをMoodle上で返却するとともに、次回授業の冒頭でフィードバック（記録の仕方の解説を）する。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。
評価の配点比率	目標①小課題（Moodle）　10%　最終レポート 10% 目標②小課題（Moodle）　10%　最終レポート 10% 目標③附属幼稚園観察・記録用紙 20% 目標④附属幼稚園観察・記録用紙 20% 目標⑤完成したExcelデータ・動画データ 10% 目標⑥小課題（Moodle）　10%
受講上の注意	
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： ふくいの保育　　授業コード： 2122801

英文科目名称： Early Childhood Education and Care of Fukui

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
香月　拓			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21A503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、福井県内の保育現場における特徴や今日的な課題について理解を深め、さらにその課題に取り組んでいくための実践力の育成を目的とする。具体的には、建学の精神の浸透やゲストスピーカーをお招きして保幼小接続についての学習に取り組む。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』を基に乳幼児期の保育や教育、幼小接続について説明できる。	ＤＰ１	15
	②建学の精神に基づく保育者像について、自分の考えを述べることができる。	ＤＰ１	15
	③福井県の保育についての現状や課題について理解し、説明できる。	ＤＰ３	20
	④自分の考えをまとめさらに話し合いを通して学びを深め、他者に説明できる。	ＤＰ６	15
	⑤自分が育った地域の特色や文化について説明できる。	ＤＰ８	20
	⑥グループワークや課題への取り組みを通して、自己の生き方を謙虚に振り返ることができる。	ＤＰ９	15
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション	
	2	福井県の保育の現状と課題について〔ゲストスピーカー〕	資料を通してグループで話し合い、課題についてまとめる。
	3	福井県の幼小接続の取組について〔ゲストスピーカー〕	事前に『学びをつなぐ　希望のバトン　カリキュラム』第1,2章を読んで授業に臨むこと。
	4	幼小接続について（ポスター制作の準備）〔ゲストスピーカー〕	グループワーク。グループ発表テーマの情報収集を行う。
	5	福井市内小学校授業参観〔ゲストスピーカー〕	小学校を参観する。事前に『学びをつなぐ　希望のバトン　カリキュラム』第5章を読んでおくこと。
	6	幼小接続についてのグループ発表に向けて（ポスター制作）〔ゲストスピーカー〕	グループワーク。前回の小学校参観をもとに、テーマに沿って模造紙にまとめる。
	7	幼小接続についてのグループ発表と振り返り〔ゲストスピーカー〕	課題①に対する発表を行う。
	8	仁愛兼済からみる子どもとの関わり―ともに育ち合う保育	
	9	保育者の主体性・多様性・協働性―自尊感情を育む保育	グループワーク
	10	自分が育った地域についての調査	地域についての情報収集を行い、発表用のスライドデータを作成する。
	11	自分が育った地域についての発表	スライドとプロジェクターを用いて課題②に対する発表を行う。
	12	保育現場で取り組むSDGs	グループワーク
	13	何のために生まれて何をして生きるのか―これまでとこれからの自分について	第８～１２回目の授業の振り返りを行う。
	14	模擬誕生会の計画及び準備〔ゲストスピーカー〕	グループワーク。模擬誕生会に向けて、企画や運営を行う。
	15	模擬誕生会〔ゲストスピーカー〕	実際の保育現場で行っているような誕生会を実践する。そのための事前準備や出し物の練習が必要である。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		

準備学習に必要な時間	毎回、事後学習として配布資料や講義内容の整理をしながら要点をまとめておくこと。（1時間程度） また、課題の作成や発表の準備にはさらに多くの時間が必要になる。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018）文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	参考図書 『和』（福井仁愛学園発行，入学時配布冊子） 『学びをつなぐ　希望のバトン　カリキュラム』（福井県幼児教育支援センター） 教材 適宜、プリント資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	各回終了時に提出する課題については、次回授業の冒頭でフィードバックする。その他、成績評価を含め授業に関する質問等がある場合は、Moodleの質問コーナーやオフィスアワー等を利用すること。
評価の配点比率	①レポート15% ②毎回の課題15％ ③レポート20% ④課題に対する発表15% ⑤課題に対する発表20％ ⑥毎回の課題15％
受講上の注意	授業の取り組み方については、第1回目のガイダンスで説明する。 各回終了時、課題をMoodleに提出してもらう。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： レクリエーションⅠ　　授業コード：2122901

英文科目名称： Recreation Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	２年次	１単位	選択
担当教員			
大久保　郁子			
幼児教育学科　専門科目	レクリエーション・インストラクター資格必修	演習	ナンバリング：21C113
添付ファイル			

授業の概要	・本授業の目的は、レクリエーション・インストラクターの役割を身につけることである。 ・レクリエーション活動を通して、人々が「心を元気にする」ことを支援するための、ホスピタリティ及びアイスブレーキングの手法を習得し支援の方法を理解する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①”遊び”を理解することで、レクリエーションの意義や役割を理解することができる。	ＤＰ４	15
	目標②アイスブレーキングの基本技術を修得することができる。	ＤＰ４	15
	目標③ホスピタリティの示し方を理解できる。	ＤＰ７	30
	目標④対象者に合わせたレクリエーション・ワークの基本技術を理解できる。	ＤＰ５	20
	目標⑤段階的アレンジの方法を、保育現場に活かすことができる。	ＤＰ６	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス・アイスブレーキング・モデルの体験	レクリエーションⅠの到達目標を理解する。アイスブレーキングを取り入れた、コミュニケーションづくりの基本的なプログラムを体験し、演習ノートに記録することで遊びの中で隊形がどのように変化したか考える。全授業回で演習ノートへの記録を実施する。
	2	交流のある遊びの体験	遊びの展開に仕方の違いにより、無理なく人々と交流を深めることができることを体験する。年齢に合わせた遊びの体験から、アレンジの仕方を記録する。
	3	グループ対抗遊びの体験	遊びを通して、小グループの作り方を体験する。少人数での協調性の遊びを体験し、グループ対抗の遊びを通して、集団を意識するグループワークを行う。
	4	段階的アレンジ①	身近な材料（新聞紙）を使って、遊びがいろいろ変化していくことを実習する。目的に合わせて、段階的にハードルを上げていく展開の仕方を知る。
	5	段階的アレンジ②	一つの遊びを通して、段階的に遊びが変化していくことを実習する。一つの遊びが、1人から2人、4人と段階的に人数を増やしながら、遊びの成功体験を学ぶ。目的に合わせた段階的アレンジを作るグループワークを行う。
	6	アイスブレーキングの技術	アイスブレーキングの効果を高める技術を修得。同時発声同時動作の遊びを調べる。合図出しの技術を繰り返し実習する。
	7	アイスブレーキングに適した遊びの体験	アイスブレーキングの遊びを体験したことを事後学習して技術を修得する。
	8	一つの遊びのアレンジ	様々な遊びの応用ができるように、実習した遊びの中から一つの遊びを選び、段階的アレンジをする。グループ内で発表して幼稚園実習での指導実習に結びつける。段階的アレンジを取り入れた指導実習体験をレポートで報告する。
	9	信頼関係づくりの理論	対象者との信頼関係を築くために、お互いに相手を理解できるようにする。自分「私」に気づき・メンバーの考えを受け入れられるようにする。

	10	信頼関係づくりの方法①	温かくもてなす「ホスピタリティ」の意識を持つ。対象者と疎通を図れるためのポイントを学ぶ。「ことば」が対象者にどのように届くか実践する。
	11	信頼関係づくりの方法②	ホスピタリティを理解し、表情の大切さを実習する。ホスピタリティの気づきのグループワークを実習し日常生活の中でも実践できるようにする。
	12	レクリエーション支援の理解	レクリエーションのことばが持つイメージについてのグループワークから重要な語句を理解する。日常の過ごし方を記録し。家族の過ごし方との違いを知る。対象者に合わせたレクリエーション支援を考える。
	13	レクリエーション活動の楽しさを通した心の元気づくり	集団の成熟について考える。活動の楽しさの中にある達成感をグループワークを通して知る。
	14	対象者の心の元気づくり	自分を取り巻く人たちの「元気」についてグループワークを実施する。
	15	レクリエーション・インストラクターの役割・まとめ	アイスブレーキング・ホスピタリティについて復習する。レクリエーション・インストラクターの役割再確認をレポートする。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業後、演習ノートを見直して、技術習得に励む（1時間程度）。グループ発表は、チームワークを発揮して事前準備をする。
教科書	『楽しさをとおした心の元気づくり』　（日本レクリエーション協会、　２０１７）
参考図書、教材、準備物等	教　材：演習ノートをプリントして配布する。資料としてプリントは随時配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	演習ノートに授業内容を記録し、振り返りを行う。グループ課題への取り組みを重視する。
評価の配点比率	目標①演習ノート・振り返り15％ 目標②一指示一動作の実技テストを行う15％ 目標③実技の表現の仕方20％、ミニレポート10％ 目標④遊びの創作のグループ演習20％ 目標⑤幼稚園実習での遊びの支援体験実践レポート20％
受講上の注意	遊びの体験を通して、対象者に合わせた支援の仕方を学びます。
教員の実務経験	レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・ワーカー、上級レクリエーション・インストラクター、グループワーク・トレーニング上級アドバイザーとしての実務経験、及び幼稚園教諭としての経験を活かして、レクリエーション支援のための理論、及び心の壁を取り除くアイスブレーキング・信頼関係づくりのホスピタリティについて、対象者に合わせた支援の方法を演習する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称：　レクリエーションⅡ　　授業コード：2123001

英文科目名称：　Recreation Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
大久保　郁子			
幼児教育学科　専門科目	レクリエーション・インストラクター資格必修	演習	ナンバリング：21C509
添付ファイル			

授業の概要	・本授業の目的は、レクリエーション・インストラクターとしての支援技術を修得することである。 ・楽しく生きたいと願う人間の基本的欲求を理解し、「心を元気にする」支援技術の方法を身につけ、プログラムの企画運営の方法を修得する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①目的に合わせたレクリエーション・ワークの全体像を理解することができる。	ＤＰ４	20
	目標②対象者に合わせたレクリエーションプログラムを立案することができる。	ＤＰ５	30
	目標③対象者に合わせたレクリエーションプログラムを実践することができる。	ＤＰ６	20
	目標④レクリエーション支援について説明ができる。	ＤＰ８	10
	目標⑤小規模なイベントの運営ができる。	ＤＰ７	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	良好な集団づくり	協調性を高める遊びを体験。集団のまとまりを学ぶ。ノートにまとめて修得内容を確認する。
	2	レクリエーション活動を楽しむ力を育む理論	レクリエーションⅠでの体験から、支援を考える。グループの成長から良好な集団を学ぶ。
	3	アイスブレーキング・モデルについて	集団のまとまりを理解して、アイスブレーキング・モデルの立案を学ぶ。レクリエーションⅠでの学びの再確認。
	4	アイスブレーキングの効果的な技術	レクリエーションⅠで修得した技術の再確認。
	5	アイスブレーキング・モデルのプログラム立案	小グループを作り、プログラムを立案。グループでの事前準備。発表担当ゲームの展開の仕方を事前学習。
	6	アイスブレーキング・モデルのプログラムの修得①	グループ発表。グループでの事前準備、プログラムの完成度をグループ評価。発表後の評価をグループワークで行う。
	7	アイスブレーキング・モデルのプログラムの修得②	グループ発表。グループでの事前準備。プログラムの完成度、及びアイスブレーキングの技術修得を評価。発表後の評価をグループワークで行う。
	8	アイスブレーキング・モデルのプログラムの修得③	参加者の立場から支援の方法を学ぶ。グループ発表。グループでの事前準備。プログラムの完成度、及びアイスブレーキングの技術・ホスピタリティの修得を評価。発表後の評価をグループワークで行う。
	9	アイスブレーキング・モデルのプログラムの評価反省	参加者の立場からの気づきのグループワーク。発表内容から様々な支援の仕方を深める。
	10	総合的レクリエーション支援のプログラムについて	魅力あるイベントを考える。身近な小イベントの企画立案を学ぶ。
	11	総合的レクリエーション支援のプログラム立案について	イベントのための組織作り。各役割の理解。会議の進め方を体験。情報の共有。
	12	総合的レクリエーション支援のプログラム立案の方法の修得	企画決定のための情報共有。各グループの協力態勢の重要視。
		総合的レクリエーション支援のプログラム立案	企画決定後、各自チラシを作製し期日までに提出す

	13		る。各役割に分かれて、準備をする。情報を共有する。
	14	総合的レクリエーション支援のプログラムの実施・評価	チームワークの成立を体験。楽しさの中の学びを共有。
	15	レクリエーション支援の改善	体験の中からの気づきを共有。レクリエーション・インストラクターの役割の再確認。課題提出。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	授業後、演習ノートを見直して、技術習得に励む（1時間程度）。グループ発表は、チームワークを発揮して事前準備をする。
教科書	『楽しさをとおした心の元気づくり』　（日本レクリエーション協会、　２０１７）
参考図書、教材、準備物等	教　材：演習ノートをプリントして配布する。資料としてプリントは随時配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	演習ノートに授業内容を記録し、振り返りを行う。グループ課題への取り組みを重視する。
評価の配点比率	目標①ミニレポート20% 目標②アイスブレーキングのプログラム立案15%　イベント立案15% 目標③グループ実践発表20% 目標④レクリエーション支援についての発表10% 目標⑤イベント実践20%
受講上の注意	簡単なイベントを実施するための方法を学び、実践します。
教員の実務経験	レクリエーション・コーディネーター、福祉レクリエーション・コーディネーター、上級レクリエーション・インストラクター、グループワーク・トレーニング上級アドバイザーとしての実務経験、及び幼稚園教諭としての経験を活かして、レクリエーション支援のための理論、及びアイスブレーキング・信頼関係づくりのホスピタリティについて、対象者に合わせた支援の方法を演習する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　■反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育実習Ⅰ　　授業コード： 2123101

英文科目名称： Tearching PracticeⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	４単位	選択
担当教員			
川崎　恵理			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E101
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に幼稚園の教育に参加し、体験を通して幼稚園や幼稚園教諭の役割を理解するとともに、幼稚園教諭としての保育技術を習得することである。1年次9月に附属幼稚園で1週間、2年次6月に学外幼稚園で3週間、計4週間の実習を行い、各授業において学んだ理論と技術に基づいて直接幼児と接し、具体的に幼稚園教育を体験し、保育に必要な知識や技能を身に付ける。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①幼児とふれ合い、保育を体験する中で、一人ひとりの幼児の姿を理解し、一人ひとりに応じた関わりや指導法を身につけることができる。	ＤＰ４	20
	目標②保育実践を通して、計画－実施－反省・評価－改善という循環の重要性について説明することができる。	ＤＰ５	10
	目標③幼児理解に基づいたねらい・内容の設定、ねらい・内容を達成するための環境構成、援助などについて具体的に理解し、指導計画を作成・実践することができる。	ＤＰ５	20
	目標④主体的に実習に取り組み、一人ひとりの幼児を尊重しながら関わることができる。	ＤＰ７	20
	目標⑤教育実習に臨む態度が身に付き、挨拶、服装など基本的なマナーを実践しながら実習園の教諭と共に協働することができる。	ＤＰ８	10
	目標⑥自己の実習を省察し、適切に実習ノート・日誌を記入・提出するとともに、幼稚園教諭としての自己の課題を明確化することができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		〔附属幼稚園実習〕 1年次9月を中心として1週間（学科が割り振りした時期）、仁愛女子短期大学附属幼稚園で実習をする。 〈実習の概要〉 見学・観察を通して幼児の心身の発達過程と特性を観察し、知的・身体的・情緒的・社会的実態の大略を把握する。また、幼稚園教育、幼稚園の指導法等について全体的に理解し把握するとともに、指導計画を作成して保育を行う。	〔附属幼稚園実習〕 1.附属幼稚園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2.実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3.毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習ノートに記入して実習担当教諭に提出すること。 4.実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」「全体反省会の記録」及び「実習を終えて」を記入し、附属幼稚園に提出すること。
		〔学外指導実習〕 2年次6月に3週間、出身地等の幼稚園（各自が交渉する）において実習をする。 〈実習の概要〉 附属幼稚園実習において習得したものを基に、指導実習を行う。 教師の役割について意識しながら行動したり、指導計画を作成して保育を実践・反省・評価するという体験をしたりして、教師の役割を理解し、自覚を強くもつ。	〔学外指導実習〕 1.実習幼稚園でのオリエンテーションを通して把握した内容を、教育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。 2.実習前に、教育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって教育実習に臨むこと。 3.毎日、一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、幼児の姿、教師の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、教育実習日誌に記入して実習担当教諭に提出すること。 4.実習終了後に、教育実習ノートの「自己の研究テーマについてのまとめ」及び「実習を終えて」を記入

	し、実習園に提出すること。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。
教科書	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018）
参考図書、教材、準備物等	内閣府、文部科学省、厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・実習ノートは実習後回収し、閲覧後返却する。 ・質問等がある場合は、Moodleを利用するか、電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標① 実習園からの評価表 10%、実習ノート 10% 目標② 実習園からの評価表　5%、実習ノート 5% 目標③ 実習園からの評価表 20% 目標④ 実習園からの評価表 15%、実習ノート 5% 目標⑤ 実習園からの評価表 10% 目標⑥ 実習ノート 20%
受講上の注意	・教育実習Ｉは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講することが望ましい。 ・1年次全履修科目（社会人基礎演習Ⅲは除く）のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における教育実習は履修できない。 ・GPAが1年次前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における教育実習は履修できない。 ・1年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価表を基に学科実習指導委員会で検討を行い、その結果によっては2年次の教育実習を履修できない場合がある。
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育に携わった経験を活かし、教育実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 教育実習Ⅱ　　授業コード：2123201　2123202　2123203

英文科目名称： Tearching PracticeⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	１単位	選択
担当教員			
川崎　恵理			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修	実習	ナンバリング：21E103
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、教育実習Ⅰ（1年次9月の附属幼稚園実習及び2年次6月の学外指導実習）がより良い効果をあげ有意義なものとなるように、事前に実習の基礎的事項を把握し、実習への心構えや目標を明確にもつことができるようにすることである。2年間を通して適切な時期に、実習内容・方法などを取り上げ、事前指導、または、事後指導を行う。 本授業は、原則としては時間割表に基づいた時間に教室で行うが、附属幼稚園で実施したり、時間外に実施したりすることもある。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①教育実習の意義・目的を説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②教育実習の内容を理解し、自らの課題を明確にもつことができる。	ＤＰ６	10
	目標③保育の計画、実施－反省－評価－改善の循環について説明することができ、指導計画を作成することができる。	ＤＰ５	20
	目標④幼児の発達過程を理解し、発達に応じた援助を説明することができる。	ＤＰ４	10
	目標⑤保育に必要な表現技術を身に付けている。	ＤＰ４	10
	目標⑥一人ひとりの幼児の個性を尊重する姿勢で幼児と接し、一人ひとりの姿を記録することができる。	ＤＰ７	20
	目標⑦挨拶や言葉遣い等、幼稚園教諭として必要なコミュニケーション力やマナーを身に付けている。	ＤＰ８	10
	目標⑧教育実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	教育実習オリエンテーション・子どもの発達理解①（３歳児）	・毎回配布する資料はファイルに綴じて、実習前に復習すること。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	2	子どもの発達理解②（４歳児）	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	3	子どもの発達理解③（５歳児）、観察参加について	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	4	観察参加①（仁愛女子短期大学附属幼稚園）	・動きやすい服装で臨むこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	5	幼稚園教育実習の心構えについて	・『実習ガイドブック』を事前に読んでおくこと。 ・授業後、附属幼稚園実習の心構えを記入しておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	6	実習ガイドブック・実習ノート・オリエンテーション等について	・『実習ガイドブック』『実習ノート』の関連ページを読んでおくこと。 ・オリエンテーションの項目を確認し、研究テーマなどの課題について考えておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	7	附属幼稚園でのオリエンテーション	・仁愛女子短期大学附属幼稚園で、時間外に実施する。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	8	観察参加②（仁愛女子短期大学附属幼稚園）	・動きやすい服装で臨むこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	9	指導計画作成について	・授業の内容について、感想レポートを提出する。

	10	教育実習ノートの記入について	・実習で活用できるような教材を準備しておく。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	11	附属幼稚園実習事後指導（自己評価及び指導実習に向けて）、今後の実習について	・自己評価アンケートを行う。また、グループワークにより実習を振り返るので、各自次の実習に向けての課題を明確にしておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	12	学外実習についてのオリエンテーション	・今後の実習先についての事前調査を行うので、各自、実習希望園について可能な範囲で調べておくこと。
	13	電話対応、話し方と敬語	・授業に関する小テストを行う。
	14	実習先を訪問するときのマナー	・授業に関する小テストを行う。
	15	教育実習報告会（1年次参加）	・時間外に実施する。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	16	幼稚園（指導）実習　事前指導（オリエンテーションについて）	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	17	実習ノートについて	・オリエンテーションで質問することを整理しておくこと。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	18	実習幼稚園（こども園）でのオリエンテーション	・各自、実習幼稚園でのオリエンテーションに参加し、オリエンテーションの内容や指示されたことを教育実習ノートにまとめておくこと。
	19	指導計画について	・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	20	指導計画作成演習	・オリエンテーションで配属クラスを聞いておき、担当するクラスの幼児を対象とした指導計画を考える。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	21	幼稚園（指導）実習心構え　諸注意	・外部講師による指導を受ける。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	22	幼稚園（指導）実習　事後指導	・幼稚園（指導）実習を振り返り、自己評価を行う。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。
	23	教育実習報告会（2年次発表）	・学習成果のポートフォリオを作成し、提出する。 ・授業の内容について、感想レポートを提出する。

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	適宜、事前事後学習を必要とする。
教科書	大豆生田啓友他編著『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』(中央法規2020)
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配付する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業の取り組み方に関しては、第１回目のオリエンテーションで説明する。実際の実習の場をイメージして授業に取り組むことが望ましい。各回の最後に振り返りカードに学習したことを記述する。記述されたことは、次の時間にフィードバックしたり、コメントして返却したりする。配布した資料は足跡としてポートフォリオにまとめ、いつでも振り返りができるようにしておく。質問などある場合は、Moodleを利用するか、電子メールで連絡すること。
評価の配点比率	目標①レポー8%、ポートフォリオ2% 目標②レポート8%、ポートフォリオ2% 目標③レポート16%、ポートフォリオ4% 目標④レポート8%、ポートフォリオ2% 目標⑤レポート8%、ポートフォリオ2% 目標⑥レポート16%、ポートフォリオ4% 目標⑦レポート8%、ポートフォリオ2% 目標⑧レポート8%、ポートフォリオ2%
受講上の注意	教育実習Ⅱは幼稚園教諭二種免許状を取得する学生が受講すること。幼稚園実習に直結する授業なので、やむを得ず欠席した場合は、その時の授業内容を必ず確認に来ること。
教員の実務経験	幼稚園教諭として幼児教育を携わった経験を生かし、実習に向けての心構えや態度、指導案作成など事例を挙げながら講義及び演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育実習Ⅰ　　授業コード： 2123301

英文科目名称： Field Practice on Childcare Ⅰ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	４単位	選択
担当教員			
石川　昭義・中尾　繁史			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	実習	ナンバリング：21E104
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、実際に保育所・施設の保育に参加し、体験を通して子ども・利用者への理解、保育士の役割や職務内容等への理解、保育所・施設の役割や機能への理解等を深めることである。1年次2月に保育所で（担当：石川）、2年次8月に保育所以外の児童福祉施設等で（担当：中尾）、各80時間実習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、子どもの保育及び保護者への支援について説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②観察や子どもとの関わりを通して子ども一人一人の理解を深め、説明することができる。	ＤＰ２	20
	目標③個に応じた援助をすることができる。	ＤＰ４	10
	目標④保育の計画、観察、記録及び自己評価等について、具体的に説明することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤保育士の業務内容や職業倫理を理解し、挨拶、服装など基本的なマナーを実践することができる。	ＤＰ７	30
	目標⑥自己の実習を省察し、実習ノートを適切に記入・提出することができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		保育所実習　〔石川 担当〕 実習保育所で、以下の内容を学ぶ。 1.保育所の役割と機能 (1)保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2)保育所保育指針に基づく保育の展開	・保育所でのオリエンテーションを実施していただき、保育実習ノートの「園の概況表」にまとめておきましょう。 ・実習前に、保育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって保育所（参加・観察）実習に臨みましょう。 ・毎日、一日を振り返り、心に残る出来事、子どもの姿、保育士の援助について学んだこと、話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、保育実習ノートに記入しましょう。 ・保育所（参加・観察）実習終了後に、保育実習ノートの「参加・観察実習でのまとめ」を記入し、実習園に提出してください。
		2.子どもの理解 (1)子どもの観察とその記録による理解 (2)子どもの発達過程の理解 (3)子どもへの援助や関わり	
		3.保育内容・保育環境 (1)保育の計画に基づく保育内容 (2)子どもの発達過程に応じた保育内容 (3)子どもの生活や遊びと保育環境 (4)子どもの健康と安全	
		4.保育の計画・観察・記録 (1)全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2)記録に基づく省察・自己評価	

		5.専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携・協働 (3)保育士の役割と職業倫理	
		施設実習　〔中尾 担当〕 実習施設で、以下の内容を学ぶ。 1.施設の役割と機能 (1)施設における子どもの生活と保育士等の援助や関わり (2)施設の役割と機能	1.実習施設でのオリエンテーションを実施していただき、実習初日までに、施設実習ノートの「施設の概要」にまとめておきましょう。 2.実習初日までに、施設実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって実習に臨みましょう。 3.毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、利用児・者の姿、援助者のかかわりについて観察や話し合い等で学んだこと、課題の達成度などを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、施設実習日誌に記入しましょう。 4.実習終了後に、施設実習ノートの「自己の研究テーマについて」及び「実習を終えて」を記入し、実習施設に提出してください。
		2.子ども（利用者）の理解 (1)子ども（利用者）の観察とその記録 (2)個々の状態に応じた援助や関わり	
		3.施設における子どもの生活と環境 (1)計画に基づく活動や援助 (2)子どもの心身の状態に応じた生活と対応 (3)子どもの活動と環境 (4)健康管理、安全対策の理解	
		4.計画と記録 (1)支援計画の理解と活用 (2)記録に基づく省察・自己評価	
		5.専門職としての保育士の役割と倫理 (1)保育士の業務内容 (2)職員間の役割分担や連携 (3)保育士の役割と職業倫理	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	実習時間外に、実習ノート等を記入するなどの学習が必要です。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	適宜、資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習ノートは、実習後回収し、評価後返却します。
評価の配点比率	目標① 実習先からの評価表6%　実習ノート4% 目標② 実習先からの評価表12%　実習ノート8% 目標③ 実習先からの評価表6%　実習ノート4% 目標④ 実習先からの評価表6%　実習ノート4% 目標⑤ 実習先からの評価表18%　実習ノート12% 目標⑥ 実習先からの評価表12%　実習ノート8%
受講上の注意	・保育実習Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。 ・1年次全履修科目（社会人基礎演習Ⅲは除く）のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における保育実習Ⅰは履修できない。 ・GPAが1年前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における保育実習Ⅰは履修できない。 ・1年次の仁愛女子短期大学附属幼稚園での実習評価を基に学科実習指導委員会で検討を行い、その結果によっては2年次の保育実習Ⅰを履修できない場合がある。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、保育所実習の具体的な内容を指導するとともに、実習園と連携しながら一人一人の学生を支援する。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育実習指導Ⅰ　　授業コード：2123401　2123402　2123403

英文科目名称： Guidance for Field Practice on ChildcareⅠ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	１・２年次	２単位	選択
担当教員			
石川　昭義・中尾　繁史・山下　清美			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格必修	演習	ナンバリング：21E102
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、保育実習Ⅰ(1年次2月の保育所実習及び2年次8月の施設実習)が有意義なものとなるように、事前に実習への心構えや目的等を明確にもつことができるようになるとともに、実習後には自己の実習を省察して保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲへの課題を明確にもつことができるようになることを目的とする。2年間を通して適切な時期に、保育所実習については石川が、施設実習については中尾が、実習内容に応じた指導を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①保育実習の意義・目的を説明することができる。	ＤＰ１	20
	目標②実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について説明することができる。	ＤＰ７	10
	目標③保育に必要な表現技術を身につけている。	ＤＰ４	10
	目標④保育の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に説明することができる。	ＤＰ５	10
	目標⑤保育実習の内容を理解し、自らの課題を明確に説明することができる。	ＤＰ６	20
	目標⑥実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にすることができる。	ＤＰ９	20
	目標⑦挨拶や言葉遣いなどの保育実習に必要なマナーを身につけることができる。	ＤＰ７	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育所実習指導　〔石川・山下 担当〕 実習に役立つ表現遊び講習①（折り紙遊び）	資料はファイルに綴っておき、実習前に復習しましょう。 毎時間、感想レポートを提出してもらいます。 事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	2	実習に役立つ表現遊び講習②（手遊び）	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	3	保育所生活の理解と実習の心得について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	4	清掃体験（仁愛保育園）	
	5	保育士のマナーについて	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	6	保育実習の意義・目的及び実習の概要について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	7	実習の内容と課題、実習保育所依頼の手続き等について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	8	保育所の機能と目的について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	9	保育士の仕事と役割について	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	10	保育所実習報告会への参加	事後に、配布資料を基に、授業内容を復習しましょう。
	11	保育所実習の心構えについて（子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシー保護と守秘義務、など）	実習前にファイルに綴った資料を確認し、復習しましょう。
	12	実習保育所でのオリエンテーションについて	オリエンテーションで質問することを整理しておきましょう。

	13	実習保育所でのオリエンテーション	オリエンテーションの内容や指示されたことを保育実習ノートにまとめましょう。
	14	実習における計画と実践、観察・記録及び評価について	実習までに「私の心構え」と「自己の研究テーマ」を記入しましょう。
	15	実習の総括と課題の明確化－自己評価及び保育実習Ⅱに向けて	学習成果のポートフォリオを作成し、提出しましょう。
	16	施設実習指導　〔中尾 担当〕 施設実習の目的・概要	
	17	実習の内容と課題	
	18	2回生による実習報告会への参加	
	19	実習に際しての留意事項（人権、守秘義務、マナー等）	
	20	施設見学に関するオリエンテーション、諸注意	
	21	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	22	施設（障害者支援施設）見学	学外での学習になります。
	23	実習の計画と記録、実践・観察の視点	
	24	各実習種別における特徴及び実習の目的と概要	
	25	実習日誌の書き方、心構え、諸注意	
	26	実習施設でのオリエンテーション	
	27	実習の総括(1)－自己評価・課題の明確化	
	28	実習の総括(2)－グループワーク	
	29	実習の総括(3)－報告会に向けて	
	30	実習報告会での発表（１・2回生合同）	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度資料を基に復習し、実習前にはもう一度資料を確認するなどの事後学習の時間が必要です。
教科書	大豆生田啓友・三谷大紀・松山洋平：編著『新しい保育講座⑫　保育・教育実習』（ミネルヴァ書房 2020）
参考図書、教材、準備物等	厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館 2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	レポート、課題、提出物等は、適宜添削し返却します。
評価の配点比率	目標①：授業中に取り組むレポート課題10%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート10% 目標②：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5% 目標③：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5% 目標④：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5% 目標⑤：授業中に取り組むレポート課題10%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート10% 目標⑥：授業中に取り組むレポート課題10%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート10% 目標⑦：授業中に取り組むレポート課題5%、実践活動後後に取り組む自己省察のためのレポート5%
受講上の注意	保育実習指導Ⅰは保育士資格を取得する学生が受講してください。 積極的に質問等をしてください。感想レポートに記入していただいた質問にも対応します。 実習時に、自分で考え、自分で判断し、行動することができるよう、主体的に授業に臨んでください。
教員の実務経験	保育者としての実務経験を活かし、保育所実習に必要な表現技術、実習の心構えやマナーなどについて、具体的な事例なども取り入れながら授業を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育実習Ⅱ　　授業コード： 2123501

英文科目名称： Field Practice on ChildcareⅡ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
木下　由香			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	実習	シラバス番号：21E504
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、保育実習Ⅰを基に、体験を通して保育士としての役割や業務について理解することである。保育実習Ⅱは、2年次9月に80時間以上保育所で実習（指導実習）を行う。実習園は、原則として保育実習Ⅰ（保育所実習）を実施した園と同様とする。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①保育所の役割や養護と教育が一体となって行われる保育について、具体的な実践を通して説明することができる。	ＤＰ１	10
	目標②観察に基づき子どもの心身の状態や活動と保育士の援助について把握し、説明できる。	ＤＰ２	10
	目標③既習の教科や保育実習Ⅰの経験を踏まえ、子どもの保育及び保護者支援について総合的に説明することができる。	ＤＰ３	5
	目標④環境を通して行う保育、生活や遊びを通して行う保育の理解に基づき、保育の実践ができる。	ＤＰ４	15
	目標⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に作成・実践することができる。	ＤＰ５	15
	目標⑥実習に臨むにあたり自己の研究テーマを設定し、テーマについて経験を踏まえた考察ができる。	ＤＰ６	15
	目標⑦保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて説明することができる。	ＤＰ７	10
	目標⑧観察や行事等への参加を通して、地域社会との連携の意義について説明することができる。	ＤＰ８	5
	目標⑨自己の実習を省察し、実習ノート・日誌を適切に記入・提出するとともに、保育士としての自己の課題を明確化することができる。	ＤＰ９	15
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		実習保育所で、以下の内容を学ぶ。 （1）保育所の役割や機能の具体的展開 ①養護と教育が一体となって行われる保育 ②保育所の社会的役割と責任	１．保育所でのオリエンテーションを実施していただき、保育実習ノートの「園の概況表」にまとめておくこと。
		（2）観察に基づく保育理解 ①子どもの心身の状態や活動の観察 ②保育士等の動きや実践の観察 ③保育所の生活の流れや展開の把握	２．実習前に、保育実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識を持って保育所(指導)実習に臨むこと。
		（3）子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連帯 ①環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ②入所している子どもの保育者支援及び地域の子育て家庭への支援 ③地域社会との連携	３．毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、子どもの姿、保育士の援助について観察や話し合い等で学んだことなどを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、保育実習日記に記入すること。
		（4）指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ①全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 ②作成した指導計画に基づく保育実践と評価	４．保育所(指導)実習終了後に、保育実習ノートの「自己の研究テーマについて」及び「実習を終えて」を記入し、実習園に提出すること。
		（5）保育士の業務と職業倫理 ①多様な保育の展開と保育士の業務 ②多様な保育の展開と保育士の職業倫理	

		(6) 自己の課題の明確化	
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	事前事後学習は保育実習指導Ⅱで行う。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	実習ガイドブック		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・全ての実習ノート、日誌を、実習報告会終了後提出する。成績通知日に返却する。 ・質問等がある場合は、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①実習先からの評価表6%、実習ノート4% ②実習先からの評価表6%、実習ノート4% ③実習先からの評価表3%、実習ノート2% ④実習先からの評価表9%、実習ノート6% ⑤実習先からの評価表9%、実習ノート6% ⑥実習先からの評価表9%、実習ノート6% ⑦実習先からの評価表6%、実習ノート4% ⑧実習先からの評価表3%、実習ノート2% ⑨実習先からの評価表9%、実習ノート6%		
受講上の注意	・保育実習Ⅱは保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。 ・1年次の全履修科目（社会人基礎演習Ⅲは除く）のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における保育実習Ⅱは履修できませ ん。 ・GPAが1年次前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における保育実習Ⅱは履修できません。 ・実習前に保育実習指導Ⅱの授業内容を復習し、熱意をもって実習に臨んでください。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 保育実習指導Ⅱ　　授業コード：2123601　2123602　2123603

英文科目名称： Guidance for Field Practice on Childcare Ⅱ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
木下　由香			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21E501
添付ファイル			

授業の概要	この授業では、保育実習Ⅱの事前学習及び事後学習を行うことにより、保育実習Ⅱによる学びを促進することを目的とする。保育実習Ⅱは、保育実習Ⅰで学んだことをふまえたうえで、さらに子ども、家庭、地域への理解を深化させたものとなる。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①これまでの各科目、保育実習Ⅰでの学びをもとに保育実習Ⅱの目的を理解し、そのねらいと内容を設定できる。	ＤＰ１	60
	目標②自己の実習に必要と考えられる遊び、指導案等を準備して実習に臨み、その成果を記録することができる。	ＤＰ５	20
	目標③実習生としての心構えを持ち、実習の留意事項を説明できる。	ＤＰ７	10
	目標④実習を振り返り新たな学習の課題を明確にする。	ＤＰ９	10
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	表現遊び演習①（手遊び）	手遊び実技。事前に手遊びレシピを作成し、発表できるように練習してくること。（提出物）手遊びレシピ
	2	表現遊び演習②（わらべうた遊び）	わらべうた実技。動きやすい服装、靴で参加すること。（提出物）事後レポート
	3	保育実習（指導）の心得について	これまでの実習ノート（研究テーマ、反省）、実習日誌を振り返り、実習について質問したいことを考えてくること。（提出物）事後レポート
	4	保育実習（指導）の指導案について①（責任実習の指導案）	保育実習Ⅰで観察した子どもの姿をイメージして、事前に3、4、5歳児の設定保育指導案を作成してくること。事前に責任実習の指導案を作成してくること。
	5	保育実習（指導）の指導案について②（乳児保育の指導案）	事前に乳児保育の指導案を作成してくること。
	6	実習課題の設定、実習の諸注意について	保育実習Ⅰでの実習課題を踏まえ、自己の研究テーマを考えてくること。 実習ガイドブック、実習ノート、実習日誌を持参すること。
	7	実習保育所でのオリエンテーション	質問事項をまとめておくこと。
	8	保育実習Ⅱ総括①（自己評価）	（提出物）実習アンケート
	9	保幼小連携・接続について①	保幼小連携について考える。
	10	保幼小連携・接続について②	保幼小連携について考える。（提出物）レポート
	11	実習報告書作成①	「実習報告書」を作成する。実習ノート、実習日誌を持参すること。　（提出物）実習報告書
	12	実習報告書作成②	「実習報告書」を作成する。実習ノート、実習日誌を持参すること。　（提出物）実習報告書
	13	実習報告書作成③（報告会に向けて）	「実習報告書」を作成する。実習ノート、実習日誌を持参すること。報告会での発表原稿を作成し、報告会までに練習をしておくこと。　（提出物）実習報告書
	14	子どもの人権について考える	子どもの最善の利益に配慮した保育について、「全国保育士会倫理綱領」学習シートで学ぶ。

	15	全体を通したまとめ（保育所実習報告会）	報告会での発表（プレゼンテーション）発表は、ルーブリックに基づき評価する。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	指導案作成、実習ノート記入、実習報告書作成等の準備学習が毎回1時間程度必要。		
教科書	使用しない。		
参考図書、教材、準備物等	実習ガイドブック、その他必要に応じて資料を配布する。		
課題（試験・レポート等）のフィードバック	・実習報告書は印刷製本し、実習報告会にて参加者に配布する。 ・提出物は、全授業終了後に返却する。 ・質問等がある場合は、木下研究室（E102）を訪問するか、電子メール（kinoy@jin-ai.ac.jp）で連絡すること。		
評価の配点比率	目標①　実習報告書 12%、実習報告会 30%、提出物 18% 目標②　実習報告書 4%、実習報告会 10%、提出物 6% 目標③　実習報告書 2%、実習報告会 5%、提出物 3% 目標④　実習報告書 2%、実習報告会 5%、提出物 3%		
受講上の注意	・保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。 ・実習への事前の取り組み、事後の反省・考察の授業である。欠席してそのままにしておくと、後で取り返しがつかないため、必ず教員とアポイントメントを取り、説明や資料の配布を受けるようにすること。		
教員の実務経験			
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している		

講義科目名称： 保育実習Ⅲ　　授業コード： 2123701

英文科目名称： Field Practice on ChildcareⅢ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
中尾　繁史・増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	実習	ナンバリング：21E505
添付ファイル			

授業の概要	保育実習Ⅲは、児童福祉施設等（保育所は除く）での実習を通じて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解を深めるとともに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養うことを目的とする。実習は、２年次９月に80時間以上、児童福祉施設等（保育所は除く）で行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について説明できる。	ＤＰ１	20
	目標②保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけながら説明できる。	ＤＰ３	20
	目標③対象児・者を理解したうえで、個別支援計画（自立支援計画）を作成できる。	ＤＰ５	20
	目標④児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、家庭と地域の生活実態と必要な支援を論理的に判断できる。	ＤＰ６	20
	目標⑤自己の実習を省察し、実習ノート・日誌を適切に記入・提出するとともに、保育士としての自己の課題を示すことができる。	ＤＰ９	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
		実習施設で、以下の内容を学ぶ。	
		１．児童福祉施設等(保育所以外)の役割と機能	実習施設でのオリエンテーションを実施していただき、実習初日までに、施設実習ノートの「施設の概要」にまとめておくこと。
		２．施設における支援の実際 １）受容、共感する態度 ２）個人差や生活環境に伴う子ども(利用者)の ニーズの把握と子ども理解 ３）個別支援計画(自立支援計画)の作成と実践 ４）子ども(利用者)の家族への支援と対応 ５）多様な専門職との連携 ６）地域社会との連携	実習初日までに、施設実習ノートの「私の心構え」及び「自己の研究テーマ」を記入し、目的意識をもって実習に臨むこと。
		３．保育士の多様な業務と職業倫理	毎日一日の流れを記録し、一日を振り返って心に残った出来事、利用児・者の姿、援助者のかかわりについて観察や話し合い等で学んだこと、課題の達成度などを反省・考察するとともに、明日への課題を明確にし、施設実習日誌に記入すること。
		４．保育士としての自己課題の明確化	実習終了後に、施設実習ノートの「自己の研究テーマについて」「実習を終えて」を記入し、実習施設に提出する。その後、最終的には、短大側が設ける期日までに施設実習ノートを提出（短大へ）すること。
定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。		
準備学習に必要な時間	事前事後学習は保育実習指導Ⅲで行う。		
教科書	使用しない。		

参考図書、教材、準備物等	必要に応じて準備する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	実習ノートは、実習後回収し、評価後返却します。
評価の配点比率	目標①実習評価表12%、実習ノート8% 目標②実習評価表12%、実習ノート8% 目標③実習評価表12%、実習ノート8% 目標④実習評価表12%、実習ノート8% 目標⑤実習評価表12%、実習ノート8%
受講上の注意	・保育実習Ⅲは保育士資格を取得する学生のうち、保育所以外の福祉施設で指導実習を行う学生が受講してください。 ・1年次全履修科目（社会人基礎演習Ⅲは除く）のうち、5科目以上が単位不認定となった場合は、2年次における保育実習Ⅲは履修できません。 ・通算GPAが1年前期・後期（2期連続）で1.0未満となった場合は、2年次における保育実習Ⅲは履修できません。 ・実習前に保育実習指導Ⅲの授業内容を復習し、熱意をもって実習に臨んでください。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育実習指導Ⅲ　　授業コード： 2123801

英文科目名称： Guidance for Field Practice on Childcare Ⅲ

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	１単位	選択
担当教員			
増田　翼			
幼児教育学科　専門科目	保育士資格選択	演習	ナンバリング：21E502
添付ファイル			

授業の概要	本講義は、保育実習Ⅲに向けての事前学習および実習後の事後学習を目的とする。保育実習Ⅲは保育所以外の児童福祉施設等での実習であり、保育実習Ⅰにおける施設実習をより深化させたものとなっている。具体的には、「保育実習Ⅲの意義と目的」の理解、「実習時に必要となる保育実践力」の育成、「計画、観察・記録、自己評価の仕方」の理解、「保育士の専門性と職業倫理」についての理解などを目指す。また事後指導においては、「実習を通じての自己課題の明確化」を行っていく。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標① 実習施設の概要（基本理念、生活、援助内容、職員間の協働など）を説明できる。	ＤＰ１	10
	目標② 子ども（利用者）の人権擁護および社会的養護の重要性について説明できる。	ＤＰ７	10
	目標③ 実習日誌および個別支援計画（自立支援計画）の書き方の基本を説明できる。	ＤＰ５	10
	目標④ 実習報告書を作成できる。	ＤＰ６	20
	目標⑤ 実習報告会において、明快な論旨に基づき発表できる。	ＤＰ６	20
	目標⑥ 実習報告会において、実習を振り返ることで明らかになった自己の課題を発表できる。	ＤＰ９	30
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。 ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	保育実習Ⅲの意義と目的	
	2	自己の実習施設に対する理解	第2回～第5回にかけて、受講生同士で、実習施設先に関するプレゼンテーションを行う。各授業においてスムーズに発表ができるよう、事前にパワーポイント等で準備をしておくこと。
	3	実習施設で生活する子ども（利用者）の理解とニーズの把握	
	4	実習施設における生活について―事例を通して―	
	5	多様な専門職との分担・連携	
	6	実習日誌について（観察、記録、評価）	
	7	個別支援計画（自立支援計画）について（計画と実践）	過去の事例に基づきながら、実際に個別支援計画（自立支援計画）を作成してみる。
	8	子ども（利用者）の家族・保護者への支援と対応について	
	9	保育士としての職務（専門性）と職業倫理	
	10	実習課題の設定、実習の諸注意について	
	11	実習施設でのオリエンテーション	
	12	実習の総括①（報告書作成―振り返りと自己評価）	第12回～第14回で、実習報告会に向けて「実習報告書」を作成する。
	13	実習の総括②（報告書作成―課題の明確化）	
	14	実習の総括③（報告会に向けて）	
	15	全体を通したまとめ（実習報告会）	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	実習施設先に関するプレゼンテーション資料の作成には、少なくとも1回あたり2時間以上を要する。 また「実習報告書」作成には、指定様式や様々な条件等もあり、それらを踏まえ完成させるまでには相当の時間を要する。 さらに「実習報告会」に向けて、発表内容をまとめたり練習したりする時間も必要である。
教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	必要に応じて資料を配布する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	プレゼン発表については、その都度その場で発表内容等についてフィードバックする。また、提出された課題（実習報告書など）については、授業担当者が確認・添削したうえで、Moodle上で返却するなどしてフィードバックする。なお、成績評価を含め授業内容に関する質問等がある場合は、Moodleのメッセージや電子メール（masuda@jin-ai.ac.jp）の利用、研究室訪問（オフィスアワー）などの手段が可能である。
評価の配点比率	目標① 実習施設先に関するプレゼンテーション資料の作成と発表 10% 目標② 実習施設先に関するプレゼンテーション資料の作成と発表 10% 目標③ 事例をもとにした個別支援計画（自立支援計画）の作成 10% 目標④ 実習報告書 20% 目標⑤ 実習報告会 20% 目標⑥ 実習報告会 30%
受講上の注意	保育実習指導Ⅲは保育士資格を取得する学生が受講することが望ましい。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼稚園）　　授業コード： 2124101

英文科目名称： Practice Seminar on Childcare and Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	２単位	選択
担当教員			
重村　幹夫・香月　拓・増田　翼・川崎　恵理			
幼児教育学科　専門科目	幼稚園教諭免許必修・保育士資格必修	演習	ナンバリング：21Z502
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、２年間の学びの総まとめとして、保育士および幼稚園教諭に必要な知識技能を修得していることを確認することを目的とする。グループワーク、ロールプレイなどの活動や外部講師による特別講義を通して、これまでの学修の振り返りを行い、自己の課題の克服と資質能力のさらなる向上を図る。また、自己の学修の成果と課題を絶えず自覚し、主体的に資質能力の向上に努められるよう、授業全体を通してポートフォリオを作成する。 なお、本授業は履修履歴を踏まえて指導を行うものであり、計画と内容には保育現場からの意見が取り入れられている。 本授業は６部構成、１週あたり連続２コマとして15週実施する。第２部～第５部では全受講生を４班に分割し、班ごとに受講順が異なる。班ごとの受講順は以下の通りである。 第１班　第１部→第２部→第３部→第４部→第５部→第６部 第２班　第１部→第３部→第４部→第５部→第２部→第６部 第３班　第１部→第４部→第５部→第２部→第３部→第６部 第４班　第１部→第５部→第２部→第３部→第４部→第６部 各部を担当する教員は以下の通りである。 重村：第１部、第4部、第30回 増田：第２部 香月：第３部 川崎：第５部 第27～29回では特別講師による講義を行う。

授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①保育者としての使命感や責任感、教育的愛情をもっている	ＤＰ１	30
	目標②保育者としての社会性や対人関係能力をもっている	ＤＰ７	20
	目標③子どもを理解し、クラスを経営することができる	ＤＰ２	30
	目標④教科・保育内容等を指導できる	ＤＰ４	20

本科目で身に付ける学修成果(DP)		
	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	第１部：オリエンテーション	
	2	第１部：これまでの学修の振り返り	「キャリア・ルーブリック」による自己評価を行う
	3	第２部：保育者の使命、役割、責任とは（１）――「理想の保育」の探究	
	4	第２部：保育者の使命、役割、責任とは（２）――求められる倫理的判断	
	5	第２部：誠実、公平かつ受容的な態度とは（１）――保育場面の動画映像から考える	
	6	第２部：誠実、公平かつ受容的な態度とは（２）――連絡帳の返事の書き方から考える	
	7	第２部：自己の課題を把握する（１）――保育者に求められる資質能力	

	8	第２部：自己の課題を把握する（２）――思考力・判断力・表現力を磨く	
	9	第３部：保育者としてのマナー（１）	
	10	第３部：保育者としてのマナー（２）	
	11	第３部：保育場面の創作劇の企画（１）	
	12	第３部：保育場面の創作劇の企画（２）	
	13	第３部：保育場面の創作劇の発表（１）	
	14	第３部：保育場面の創作劇の発表（２）	
	15	第４部：乳幼児造形の指導法①　子どもの「感性」について	講義、ワークシート作成、グループによる発表
	16	第４部：乳幼児造形の指導法②　「表現」と環境構成	講義、ワークシート作成、グループによる発表
	17	第４部：乳幼児造形の指導法③　乳幼児造形の指導法②に準じた題材設定、環境構成	グループによる話し合い、教材研究、パワーポイント作成
	18	第４部：乳幼児造形の指導法④　乳幼児造形の指導法②に準じた題材設定、環境構成	グループによる話し合い、教材研究、パワーポイント作成
	19	第４部：乳幼児造形の指導法⑤　乳幼児造形の指導法②に準じた題材設定、環境構成	グループによる話し合い、教材研究、パワーポイント作成
	20	第４部：乳幼児造形の指導法⑥　題材の発表	パワーポイントによる発表、発表に対する話し合い
	21	第5部：幼児の発達の理解と指導①（3歳児）	3歳児の発達についてグループで共有し、3歳児の学級経営、集団指導の方法についてグループで考える。 実習先等での3歳児の様子を語れるようにしておく。
	22	第5部：幼児の発達の理解と指導②（3歳児にむけた学級経営）	グループごとに、3歳児の学級経営を踏まえた集団指導についての模擬保育を実施
	23	第5部：幼児の発達の理解と指導③（4歳児）	4歳児の発達についてグループで共有し、4歳児の学級経営、集団指導の方法についてグループで考える。 実習先等での4歳児の様子を語れるようにしておく。
	24	第5部：幼児の発達の理解と指導④（4歳児にむけた学級経営）	グループごとに、4歳児の学級経営を踏まえた集団指導についての模擬保育を実施
	25	第5部：幼児の発達の理解と指導⑤（5歳児）	5歳児の発達についてグループで共有し、5歳児の学級経営、集団指導の方法についてグループで考える。 実習先等での5歳児の様子を語れるようにしておく。
	26	第5部：幼児の発達の理解と指導⑥（5歳児にむけた学級経営）	グループごとに、5歳児の学級経営を踏まえた集団指導についての模擬保育を実施
	27	第６部：福井県の保・幼・小接続の取り組みについて	事前に「学びをつなぐ希望のバトンカリキュラム」の事例から、遊びの中の学びを見取る。
	28	第６部：保育者の関わりの理論と実践	
	29	第６部：保育者と地域連携	
	30	第６部：全体のまとめ	「キャリア・ルーブリック」による自己評価を行う

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	各回において提示される課題は、全体として30時間以上の授業外学習を行うことを前提として実施・評価する。
教科書	厚生労働省『保育所保育指針解説書』（厚生労働省 2018）、文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館 2018）、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（フレーベル館 2018）
参考図書、教材、準備物等	適宜、担当教員が指示する。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	適宜、担当教員が指示する。
評価の配点比率	目標①：30%、目標②：20%、目標③：30%、目標④：20% 第２部～第６部におけるレポートなどの提出または発表に対して20%ずつ割り当てた上で総合的に評価する。
受講上の注意	この授業は２年間の学びの総まとめであり、幼稚園教諭・保育士・保育教諭として現場で働くための最終確認・準備として位置づけられている。自ら学ぼうとする姿勢及び積極的な参加を求める。 各部において、授業における前後のつながりが非常に強く、また１日に２コマ連続で行うため、一度の欠席がその後の参加、ひいては評価に大きく影響する。欠席の場合は、その都度授業や配布物、提出物について各部の担当教員に確認すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　□実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育総合ゼミナール

英文科目名称： General Seminar of Early Childhood Education and Care

授業コード： 2124201 2124202 2124203 2124204 2124205 2124206 2124207 2124208 2124209 2124210

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	必修
担当教員			
石川　昭義・内田　雄・香月　拓・川崎　恵理・木下　由香・重村　幹夫・中尾　繁史・前田　敬子・増田　翼			
幼児教育学科　専門科目		演習	ナンバリング：21Z501
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、乳幼児の教育・保育に関する一人一人の課題を探究し、その成果を学内外に向けて発表することにより、乳幼児教育・保育の専門的知識・技術 及び 思考力・判断力・表現力 並びに 主体性・多様性・協同性を身に付けることを目的とする。学生一人一人が探究したい教育・保育に関する課題・テーマを見出し、必要な情報を収集する、研究方法を学ぶ、作品を制作する、文章で表現するなどして課題・テーマに取り組み、学内外に向けて学修成果を発表する。全教員が全時間担当する。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	目標①自分自身の課題を見出し、課題を探究することができる。	ＤＰ３	20
	目標②自分の考えを主張するとともに、他者の意見を受け入れながら、協同して活動することができる。	ＤＰ７	20
	目標③状況に応じて主体的に判断し、行動することができる。	ＤＰ６	20
	目標④活動を振り返り、省察・改善することができる。	ＤＰ９	20
	目標⑤学修成果を学内外に広く発信することができる。	ＤＰ８	20
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ７：子どもの権利や多様な個性を尊重し、主体的に物事に取り組もうとする態度を身につけている。 ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。 ＤＰ９：自己の生き方を謙虚に振り返る誠実さを身につけている。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	ガイダンス（指導教員決め）	毎回、授業後に活動状況について自己評価を行い、次回への課題を持つようにしてください。 活動振り返りシートはファイルに綴じておき、学習の足跡が残るポートフォリオとなるようにするとともに、授業終了後に提出してもらいます。
	2	研究テーマの検討	
	3	研究テーマとグループの検討	
	4	研究テーマとグループの決定	
	5	研究についての計画検討	
	6	研究についての計画決定	
	7	研究に向けての資料収集	
	8	研究に向けての資料のまとめ	
	9	研究に向けての成果検討①（話し合い）	
	10	研究に向けての成果検討②（研究準備）	
	11	研究に向けての成果検討③（研究開始）	
	12	前期のまとめ	
	13	研究発表に向けての活動の振り返り	
	14	後期の活動計画作成	
	15	研究・制作①（部分制作）	
	16	研究・制作②（共有）	
	17	研究・制作③（中間発表に向けてのまとめ）	

	18	中間発表と相互評価	
	19	研究発表に向けて活動計画修正	
	20	研究・制作④（修正）	
	21	研究・制作⑤（改良）	
	22	研究・制作⑥（自己評価）	
	23	研究・制作⑦（完成）	
	24	学習成果の発表に向けて①（自己評価）	
	25	学習成果の発表に向けて②（相互評価）	
	26	学習成果の発表に向けて③（改善）	
	27	学習成果の発表に向けて④（ブラッシュ・アップ）	
	28	会場研修①（会場整備）	
	29	会場研修②（参加・発表①）	
	30	会場研修③（参加・発表②）	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回、1時間程度の事後学習が必要です。
教科書	必要に応じて資料等を配布する
参考図書、教材、準備物等	文部科学省『幼稚園教育要領解説』（フレーベル館　2018） 厚生労働省『保育所保育指針解説』（フレーベル館　2018） 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園　教育・保育要領解説』（フレーベル館　2018）
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業毎の活動振り返り、資料などはMoodle内などに記録し、それらをポートフォリオとして評価する。
評価の配点比率	目標①ポートフォリオ 10%、発表 10% 目標②ポートフォリオ 10%、発表 10% 目標③ポートフォリオ 10%、発表 10% 目標④ポートフォリオ 10%、発表 10% 目標⑤ポートフォリオ 10%、発表 10%
受講上の注意	授業の取り組み内容に関しては、第1回目のガイダンスで説明する。 活動振り返り、資料などはMoodle内などに記録すること。 質問等がある場合は、担当教員のオフィス・アワーを活用するか、メールで連絡すること。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	■課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 子どもと絵本　　授業コード： 2124301

英文科目名称： Picture Books and Children

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	２年次	２単位	選択
担当教員			
木下　由香・前田　敬子			
認定絵本士称号取得科目	認定絵本士称号必修	演習	ナンバリング：21C513
添付ファイル			

授業の概要	本授業の目的は、子どもや高齢者、支援を必要とする人など、様々な状況の人々に絵本を届ける意味、知識や技能、姿勢などを学び、保育者として子どもたちと一緒に絵本を楽しむ環境を構成する力を身に付けることである。福井県内外で絵本に関する様々な活動を実践されているゲストスピーカーの方々から、(1)絵本に関する知識を深める (2)絵本を広げる技能を高める (3)感性を磨く の3分野から専門的な内容を学び、学んだ内容を文章などでまとめることを通して、認定絵本士として必要な資質・能力を高める。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①様々な絵本についての知識を深め、説明することができる。	ＤＰ４	32
	②子どもや高齢者、ケアを必要とする人などすべての人々に、絵本の世界を広げる技術を身に付ける。	ＤＰ４	33
	③様々な絵本の世界を感じ取り、表現することができる。	ＤＰ６	18
	④講座で学んだ知識や技能を活かし、地域や保育現場で絵本の魅力や可能性を伝えていく姿勢を身に付ける。	ＤＰ８	17
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ４：保育に関する表現技術と指導方法を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ６：保育者に求められる論理的思考力、主体的判断力、総合的表現力が備わっている。	
	【主体性・多様性・協働性】	ＤＰ８：他者と協働し、地域社会に貢献しようとする熱意を有している。	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション〔担当：木下〕	認定絵本士の役割や資質について説明します。 ポートフォリオファイルを作成し、配布される資料を綴じておきましょう。
	2	絵本総論（絵本とは何か）〔担当：前田〕	課題①
	3	絵本各論①（絵本の歴史、絵本賞について）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題②
	4	絵本各論②（視覚表現、言語表現から見た絵本）〔担当：前田〕	課題③
	5	絵本各論③（子どもの知的・社会的発達と絵本との関わり）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	6	絵本各論④（メディアとしての絵本の位置付け）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題④
	7	さまざまなジャンルの絵本①（物語の絵本）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	8	さまざまなジャンルの絵本②（昔話、童話を基にした絵本）〔担当：前田〕	
	9	さまざまなジャンルの絵本③（科学絵本）〔担当：前田〕	
	10	絵本と出会う①（はじめての絵本との出会い）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	11	絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	12	絵本と出会う③（図書館等での出会い～絵本の活用及び地域連携の可能性～）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	13	絵本と出会う④（書店での出会い）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	14	絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	

	15	絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題⑤
	16	絵本の世界を広げる技術③（絵本コンシェルジュ術）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	17	絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題⑥
	18	絵本を紹介する技術②（書評・紹介文の書き方）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	19	絵本を紹介する技術③（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題⑦
	20	おはなし会の手法①（おはなし会を開こう）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題⑧
	21	おはなし会の手法②（おはなし会のテクニック）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題⑨
	22	絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る）〔担当：前田〕	
	23	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）〔担当：前田〕	
	24	絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	25	子どもの心をとらえるもの（子どもの心をとらえて離さないもの）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	26	大人の心を豊かにする絵本（人生で3度、絵本を手にする喜び、大人にこそ絵本を）〔担当：前田〕	課題⑩
	27	ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませるための手法を学ぼう）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	28	絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	課題⑪
	29	絵本が生まれる現場②（絵本の編集）〔担当：木下、ゲストスピーカー〕	
	30	ディスカッション（認定絵本士としての今後の活動）〔担当：木下〕	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回1時間程度の事後学習が必要です。
教科書	絵本専門士委員会課程認定部会認定絵本士養成講座テキスト作成ワーキンググループ編『認定絵本士養成講座テキスト 第2版』（中央法規　2024）
参考図書、教材、準備物等	各種絵本 適宜、資料を配布します。
課題（試験・レポート等）のフィードバック	課題、ポートフォリオなどは、評価が終わった後返却します。
評価の配点比率	目標①：課題①②③④（20%）感想シート（12%）　目標②：課題⑤⑥⑦⑧⑨（25%）感想シート（8%） 目標③：課題⑩⑪　（10%）感想シート（8%）　目標④：ポートフォリオ（15%）感想シート（2%）
受講上の注意	・本授業は、「認定絵本士」称号取得を目指す学生が受講してください。 ・「認定絵本士」称号取得のためには、本授業の80%以上に出席し、単位を修得することが必要です。 ・本授業の受講人数は、35名を上限とします。 ・授業で配布された資料は、全てファイルに綴っておいてください。（授業終了後に、ポートフォリオとしてまとめ、提出してもらいます。） ・第1回目の授業で、具体的な日程を連絡します。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　■討議（ディスカッション、ディベート）　■グループワーク ■発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　■自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育心理実習　　授業コード： 2123901

英文科目名称： Field Practice on Psychological Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
保育心理士(二種)資格取得科目	保育心理士(二種)資格必修	実習	ナンバリング：21E506
添付ファイル			

授業の概要	本授業では、実習を通して子どもの実態把握を行い、子どもを保育・支援するための個別支援計画の作成と評価について理解を深め、保育者としての実践力を養うことを目的とする。既習の知識や技術をもとに、児童福祉の実際の場において、原則として5日以上かつ40時間以上の実習を行う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①子どもの最善の利益を前提として、子どもの多様性に配慮し、子どもと信頼関係が結べるようになる。	ＤＰ１	30
	②客観的視点からの子ども理解ができる。	ＤＰ２	20
	③子どもの実態把握をもとに、子どもの特性に応じた目標を設定できる。	ＤＰ３	30
	④個別支援計画を立案し、実情に合わせて振り返り(評価)を行い、必要に応じて改善することができる。	ＤＰ５	20

本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ１：保育・教育の本質や目的に関する知識を身につけている。 ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。 ＤＰ３：保育現場の課題に主体的に応えるための幅広い知識を身につけている。
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。
	【主体性・多様性・協働性】	

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	学内でのオリエンテーション	
	2	児童福祉現場における実習（1）	1日あたり8時間程度を目安として、次のような目標で実習を行う。 1日目：対象児と関わりながら信頼関係を構築し、施設担当職員に指導を仰ぎ実態把握を行う。 2日目：対象児への関わり方や支援について必要な配慮事項等を整理し、対象となる子どもへの理解を深める。 3日目：対象となる子どもの個別支援計画の作成に必要な情報を整理する。
	3	学内での中間報告と個別指導計画素案の作成	
	4	児童福祉現場における実習（2）	1日あたり8時間程度を目安として、次のような目標で実習を行う。 4日目：作成した個別支援計画に従い、子どもとの関わりを深める。 5日目：個別支援計画が子どもの特性に合致しているかなど、有効性を検証するための情報を収集する。
	5	学内での最終報告と個別支援計画の評価、再作成	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 □全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	事前学習：保育実習の実習日誌や授業中に配布された資料等を読み返し、実習担当者からの助言なども整理すること 事後学習：実習内容を日誌に記録し、対象児の支援に必要な情報を整理しておくこと。特に実習後半は支援内容に関する対象児の反応について詳細に記録すること。
教科書	使用しない
参考図書、教材、準備物等	実習先担当者と協議の上、準備物等を別途指示する。

課題（試験・レポート等）のフィードバック	個別支援計画書についてはコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①実習評価表（30%） 目標②実習評価表（20%） 目標③個別支援計画書（30%） 目標④個別支援計画書（20%）
受講上の注意	保育実習Ⅰおよび保育実習Ⅱ（Ⅲ）を受講していない場合、保育心理士2種資格は取得できない。
教員の実務経験	
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 □双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している

講義科目名称： 保育心理実習指導　　授業コード： 2124001

英文科目名称： Guidance for Field Practice on Psychological Childcare

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	２年次	１単位	選択
担当教員			
中尾　繁史			
保育心理士(二種)資格取得科目	保育心理士(二種)資格必修	演習	ナンバリング：21E503
添付ファイル			

授業の概要	本授業は、子どもの特性を理解するための知識および具体的方法を学び、実態把握と支援目標を系統的に考察できるようになることを目的とする。子どもを支援するために必要な心理学的知識を既習概念と対応させながら体系的に学び、特別な配慮を必要とする子どもへの支援のための「個別支援計画」の作成と、実際の支援構築ができるようにロールプレイを活用しながら、適切な保育を展開するための実践力を養う。		
授業の到達目標	目標	学位授与の方針との関連	
		学修成果番号	重み付け%
	①支援を必要とする人に対して、科学的根拠に基づいた理論を用いて実態把握ができるようになる。	ＤＰ２	60
	②子どもの実態把握を基にした個別支援計画を作成し、支援を構築することができる。	ＤＰ５	40
本科目で身に付ける学修成果(DP)	【知識・技能】	ＤＰ２：子どもの発達支援及び子ども家庭支援に関する専門的知識を身につけている。	
	【思考力・判断力・表現力】	ＤＰ５：保育の計画・実施・評価・改善を実践していくための能力を有している。	
	【主体性・多様性・協働性】		

授業の計画	回数	授業内容	補足説明、事前・事後の自主学習について
	1	オリエンテーション	
	2	障害の捉え方（国際障害分類と国際生活機能分類）	
	3	子どもの特性の捉え方	
	4	知的障害の子どもの理解と支援	
	5	学習障害の子どもの理解と支援	
	6	注意欠如・多動性障害の子どもの理解と支援	
	7	自閉症スペクトラム障害の子どもの理解と支援	
	8	配慮が必要な子どもの支援	
	9	個別支援計画の作成に必要な理論と知識	
	10	障害児支援施設の実際	
	11	児童発達支援センターの実際	
	12	児童養護施設の実際	
	13	個別支援計画の作成と評価（ロールプレイ）	
	14	個別支援計画の作成と評価（ディスカッション）	
	15	総括	

定期試験	□試験期間中に、試験（筆記・実技・口述）を行う。 ■全講義終了後に、課題（レポート・作品・その他）を提出させる。
準備学習に必要な時間	毎回の授業について、１時間程度の事前学習と事後学習を必要とする。 事前学習：毎回の授業で扱うテーマについて、書籍や他の授業での資料等を見直すとともに概要をイメージできるようにしておくこと。 事後学習：授業開始時に配布される前回の小課題について自己の課題を整理し必要があれば追加課題に取り組むこと。

教科書	使用しない。
参考図書、教材、準備物等	日本相談支援専門員協会編「障害のある子の支援計画作成事例集」中央法規出版 障害のある子どもの放課後保障全国連絡会編「放課後等デイサービスハンドブック」かもがわ出版
課題（試験・レポート等）のフィードバック	授業ごとに提出する小課題はコメントを付して返却する。
評価の配点比率	目標①：授業第2回目提出課題6%、授業第3回提出課題6%、授業第4回提出課題6%、授業第5回提出課題6%、授業第6回提出課題6%、授業第7回提出課題6%、授業第8回提出課題6%、授業第10回提出課題6%、授業第11回提出課題6%、授業第12回提出課題6%（計60%） 目標②：授業第9回提出課題10%、授業第13回提出課題10%、第14回提出課題10%、第15回提出課題10%（計40%）
受講上の注意	保育心理実習を受講する場合、この科目も履修する必要がある。
教員の実務経験	公認心理師として行政機関、保育・幼児教育機関で心理支援を行っている教員が、子どもの発達保障や保護者支援のために必要な知識や援助方法について、演習を行う。
アクティブ・ラーニング、ICT活用	□課題解決型学習（PBL）　□討議（ディスカッション、ディベート）　□グループワーク □発表（プレゼンテーション）　■実習(実験､実技を含む)、フィールドワーク　□反転授業 ■双方向型授業(クリッカー、スマホ使用等)　□自主学習支援(ＬＭＳ等) □自らの教育リソースを広く提供しその活用を促している □他大学等が提供する教育リソースを教材等として利用している